

北海道立埋蔵文化財センター

# 年報18

平成28(2016)年度



北海道立埋蔵文化財センター

# 年報18

平成28(2016)年度





▲岩内町東山1遺跡・土器集合写真



▲湧別町シブノツナイ竪穴群（北→）



# 目 次

|     |  |    |
|-----|--|----|
| I   | 施設の概要                                  |    |
| 1   | 設置の目的                                  | 1  |
| 2   | 沿 革                                    | 1  |
| 3   | 施設の概要                                  | 1  |
|     | (1) 工 期                                |    |
|     | (2) 面 積                                |    |
|     | (3) 組 織 図                              |    |
|     | (4) 職員名簿                               |    |
| II  | 調査研究事業                                 |    |
| 1   | 重要遺跡確認調査                               | 2  |
|     | (1) 岩内町東山1遺跡の調査                        |    |
|     | (2) 湧別町シブノツナイ竪穴住居群の調査                  |    |
| 2   | 埋蔵文化財に関する調査研究                          | 2  |
|     | (1) 保管出土品を活用した研究                       |    |
|     | (2) 研修・情報収集                            |    |
|     | a 平成28年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第1回役員会       |    |
|     | b 平成28年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会           |    |
|     | c 平成28年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第29回研修会      |    |
|     | d 平成28年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議 |    |
|     | e 第7回文化財写真技術研究会                        |    |
|     | f 平成28年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第2回役員会       |    |
|     | g 文化財保存修復学会第38回大会                      |    |
|     | h 第1回北海道東部の竪穴群調査懇談会                    |    |
|     | i 第2回北海道東部の竪穴群調査懇談会                    |    |
|     | j 第3回北海道東部の竪穴群調査懇談会                    |    |
| 3   | 分析・鑑定・保存処理等                            | 13 |
|     | (1) 分析・鑑定                              |    |
|     | (2) 保存処理                               |    |
| 4   | 市町村教育委員会支援                             | 14 |
|     | (1) 指導・協力等                             |    |
|     | (2) 出前研修会                              |    |
|     | (3) 埋蔵文化財担当職員研修会                       |    |
| III | 収蔵・保管事業                                |    |
| 1   | 収蔵資料                                   | 17 |
| 2   | 図書資料                                   | 19 |
|     | (1) 購入図書一覧                             |    |
|     | (2) 受領刊行物一覧                            |    |
| IV  | 普及・啓発事業                                |    |
| 1   | 展示公開                                   | 26 |
|     | (1) 常設展示「掘り出された北の歴史」                   |    |
|     | (2) 企画展示                               |    |
|     | a 北の縄文—縄文探訪と縄文工房展—                     |    |
|     | b 北海道遺跡百選9 縄文人と手形・足形                   |    |
|     | c 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター平成27年度発掘調査成果展      |    |
|     | d 世界遺産をめざす北の縄文展                        |    |

|     |  |    |
|-----|--|----|
| 2   | 資料の特別利用等   | 30 |
| (1) | 特別利用   |    |
| (2) | 模写品等の刊行等の承認  |    |
| (3) | 資料の貸出承認  |    |
| 3   | 講座等の開催   | 34 |
| (1) | 一般道民対象の講座【考古学を知る・学ぶ1.3.4.6.7】                      |    |
| a   | 考古学講座 連続講演会・講座 連1『遺跡が語る北海道の歴史<br>-旧石器からビールまで』(長沼孝) |    |
| b   | 考古学講座 連続講演会・講座 連3『縄文文化研究の現状と北海道』(小杉康)              |    |
| c   | 考古学講座 連続講演会・講座 連4『縄文人に挑戦』(坂本尚史)                    |    |
| d   | 考古学講座 連続講演会・講座 連6『擦文・オホーツク・アイヌ文化の考古学』<br>(越田賢一郎)   |    |
| e   | 考古学講座 連続講演会・講座 連7『北東アジアの中の北海道』(臼杵勲)                |    |
| (2) | 児童生徒学生対象の体験型講座                                     |    |
| a   | こども考古学教室【まいぶん遺跡探検隊第1次】土器に関する体験                     |    |
| b   | こども考古学教室【まいぶん遺跡探検隊第2次】石器に関する体験                     |    |
| c   | こども考古学教室【まいぶん遺跡探検隊第3次】火おこしに関する体験                   |    |
| d   | こども考古学教室【まいぶん遺跡探検隊第4次】発掘体験                         |    |
| e   | こども考古学教室【まいぶん遺跡探検隊第5次】親子でガラス玉づくりを体験                |    |
| (3) | 児童生徒対象の出前講座  |    |
| a   | 事業目的   |    |
| b   | 事業内容   |    |
| (4) | 教育連携講座   |    |
| (5) | 一般道民対象の講演会【考古学を知る・学ぶ2.5】                           |    |
| a   | 夏季講演会 連続講演会・講座 連2『日本の旧石器文化の中の北海道』(稲田孝司)            |    |
| b   | 秋季講演会 連続講演会・講座 連5『弥生文化と縄文文化』(設楽博己)                 |    |
| (6) | 近隣市町等対象の出前講座                                       |    |
| (7) | 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター平成27年度発掘調査報告会                    |    |
| 4   | 協力   | 37 |
| (1) | 講師派遣   |    |
| (2) | 職場体験   |    |
| (3) | インターンシップ   |    |
| (4) | 博物館実習  |    |
| 5   | 周辺施設・大学との連携  | 38 |
| (1) | 文京台地区道立教育3施設連携                                     |    |
| (2) | かるちゃんnet   |    |
| a   | てくてく、ぺったん!かるちゃん スタンプラリー                            |    |
| b   | 発見・体験 文化の秋一遊ぼう!学ぼう!あつべつ・えべつ                        |    |
| c   | かるちゃんガーデン2016                                      |    |
| (3) | のっぽろ11ネット  |    |
| 6   | 利用状況   | 40 |
| (1) | 入館者数一覧   |    |
| (2) | 団体利用者対応  |    |
| 7   | 講演会要旨  | 45 |
| (1) | 夏季講演会『日本の旧石器文化の中の北海道』<br>(稲田孝司) 考古学講座 連続講演会・講座 連2  |    |
| (2) | 秋季講演会『縄文文化と弥生文化』(設楽博己) 考古学講座 連続講演会・講座 連5           |    |

# I 施設の概要

## 1 設置の目的

北海道には貴重な埋蔵文化財が数多く発見されており、これらの埋蔵文化財の保護、保存・活用を図るため、調査研究を行なうとともに、出土文化財等の収蔵保管、展示公開並びに文化財保護思想の普及啓発を図る総合的な機能を有する道立の埋蔵文化財センターを設置する。

## 2 沿革

平成7年

3月 北海道立埋蔵文化財センター（仮称）基本構想策定

平成8年

9月 本館基本設計完了

平成9年

3月 本館実施設計完了

10月 本館建設工事着手

12月 別館（整理作業所）基本設計完了

平成10年

3月 別館（整理作業所）実施設計完了

9月 別館（整理作業所）建設工事着工

平成11年

3月 本館建設工事竣工

4月 北海道立埋蔵文化財センター開設

8月 別館（整理作業所）建設工事竣工

11月 一般公開

## 3 施設の概要

### (1) 工期

[本館工事] 平成9年10月31日着工

平成11年3月18日竣工

[別館工事] 平成10年9月10日着工

平成11年8月18日竣工

[外構工事] 平成11年7月28日着工

平成11年12月10日竣工

### (2) 面積

[敷地面積] 18,599.50㎡

[延床面積]

本館：5,063.02㎡（鉄筋コンクリート造・2階建）

別館：2,081.80㎡（鉄筋造・3階建；整理作業所）（渡り廊下含む）

[部屋別面積]

本館1階

調査研究室（253㎡）

保存処理室（167㎡）

観測・計測室・修復室（47㎡）

金属製品処理室（31㎡）

分析室（48㎡）

実験室（53㎡）

撮影室・暗室（105㎡）

図書室（177㎡）

一般収蔵庫（399㎡）

展示収蔵庫（321㎡）

展示室（310㎡）

本館2階

所長室（47㎡）

事務室（241㎡）

特別収蔵庫（227㎡）

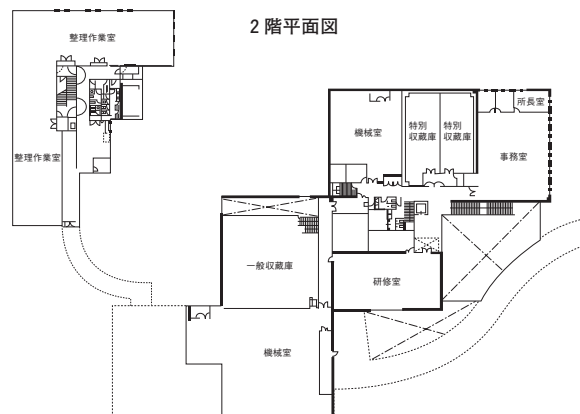
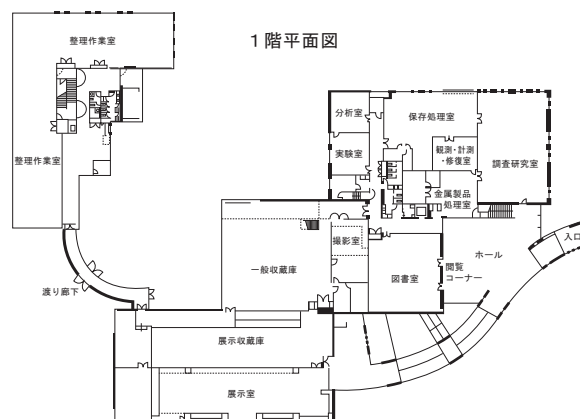
研修室（196㎡）

一般収蔵庫（319㎡）

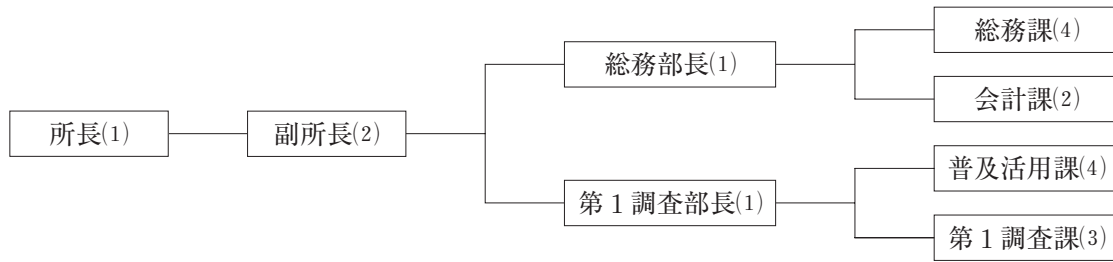
別館1階：整理作業室（520㎡）

別館2階：整理作業室（540㎡）

別館3階：整理作業室（220㎡）



### (3) 組織図



### (4) 職員名簿

| 職名  | 氏名    | 職名    | 氏名   | 職名      | 氏名   |
|-----|-------|-------|------|---------|------|
| 所長  | 越田賢一郎 | 総務部長  | 和田基興 | 第1調査部長  | 長沼孝  |
| 副所長 | 中田仁   | 総務課長  | 小杉充  | 普及活用課長  | 田口尚  |
| 副所長 | 山田寿雄  | 総務課主任 | 葛西宏昭 | 普及活用課主査 | 倉橋直孝 |
|     |       | 総務課参与 | 前田博  | 普及活用課主査 | 坂本尚史 |
|     |       | 総務課参与 | 作田千秋 | 普及活用課主任 | 藤本昌子 |
|     |       | 会計課長  | 中村貴志 | 第1調査課長  | 中山昭大 |
|     |       | 会計課主任 | 礪田千秋 | 第1調査課主査 | 柳瀬由佳 |
|     |       |       |      | 第1調査課主査 | 酒井秀治 |

\*平成28年4月1日から

## Ⅱ 調査研究事業

### 1 重要遺跡確認調査

年度当初に北海道教育委員会から平成26～29年度重要遺跡確認調査実施要領が通知され、今年度は岩内町東山1遺跡と湧別町シブノツナイ堅穴住居群を調査対象とすることとなった。東山1遺跡は昨年度で発掘調査を終了し、今年度は整理作業を主に行った。シブノツナイ堅穴住居群は現地での測量調査を行ない、測量成果を図面化した。平成26年度より、調査成果を報告する「重要遺跡確認調査報告書」が年次報告となったため、ここでは成果の概略のみを記載する。

(平成28年度重要遺跡確認調査報告書第12集参照)

#### (1) 岩内町東山1遺跡の調査

今年度は報告書掲載資料の図化(土器のみ)と写真撮影を行い、属性観察等を報文にまとめた。遺構・遺物の時期は、縄文時代前期前半を主体とする。遺物は土器5,658点、石器・礫2,244点の計7,902点が出土した。「史跡」地区では遺構・遺物がほとんど確認されず、東山15区および「第2地区」に多い。掲載資料は土器36点、石器56点である。また関連資料調査の一環で、道指定有形文化財に

についても遺物種類別の集合写真を撮影した。

#### (2) 湧別町シブノツナイ堅穴住居群の調査

9月1日(水)～9月22日(水)まで、史跡指定範囲139,486㎡を対象に、①堅穴分布調査(未確認堅穴の新規確認)、②堅穴詳細測量、③堅穴撮影、④地形測量、⑤史跡指定範囲の現地確認、を実施した。①では昨年度確認の435か所から新たに92か所の堅穴を確認し、総確認数を527か所とした。②では今年度までに確認した527か所全ての堅穴に対し測量を完了した。但し、次年度は補足的な測量や、付属施設など堅穴の構造に関する測量を行う必要がある。③では主にデジタルカメラを用い、全ての堅穴について個別の記録撮影を行った。④では史跡範囲の東西に位置する段丘崖周辺と、南側の平坦地について地形測量を行った。⑤については地番より特定した史跡範囲を図面から測量し、現地に簡易的な見出し杭を打設した。

## 2 埋蔵文化財に関する調査研究

### (1) 保管出土品を活用した研究

#### 【今年度研究概要】

指定管理3期においては、下記の3つの課題を

中心に保管出土品を活用した調査研究を進めてきた。今年度も同様に行った。

1. 保管遺物を対象とした科学的分析で、主に材質分析を行うこと。

2. 保管遺物を対象にした遺物と遺構との関係を整理すること。

3. 保管遺物を活用して、新たな体験学習教材または体験学習内容及び方法を開発すること。

1については石製装身具・石製品類の材質分析を計画しており、今年度は、対象資料の確認と調査方法の検討を行った。石製装身具・石製品類に使用される石材については、これまで主に肉眼による石材同定が行われてきた。しかし、肉眼観察のみでは同定の困難なものも多く、その場合、化学組成が石材同定の有力な手がかりとなる。また近年は、従来「カンラン岩」とされてきた石材が岩石学的には橄欖岩ではないなど、新たな知見も得られている。こうした点を踏まえて再調査を行い、石製装身具・石製品類の石材に関する基礎データを蓄積することを目的とする。

対象は、当センターで保管する千歳市美沢川流域の遺跡群・千歳市キウス遺跡群・恵庭市西島松遺跡群などから出土した石製装身具・石製品類とする。特に、出土点数が多く、調査から時間の経過している、美沢川流域の遺跡群の出土資料について重点的に調査を行う。

調査方法は、肉眼観察を基本とし、蛍光X線分析装置による化学組成の測定を並行して行う。

来年度から、出土点数の多い千歳市美々4遺跡出土品を中心として分析を行い詳細を報告する予定である。

2については、遺構と遺物の関係を重視した特別展示、「北海道遺跡百選9 縄文人と手形足形展」を行った。展示資料は当センター所蔵の千歳市美々7遺跡のものを中心に、道内7市町村から24点の手形足形付土版を集めた。手形・足形付土版は主に3歳以下の子供の手形・足形が押されたもので、もっぱら縄文時代の早期末葉と後期前葉に製作された。二つの時期には3000年以上の空白期間があり、両者が連続的に培われた習俗とは捉え難く、両時期に固有の特徴がある一方、共通点もみられる謎の多い遺物である。

早期の資料は大人を埋葬した土坑墓から出土す

る点や、土版破損後も縄文人によって大切に使い続けられ埋葬される点から、土版に対する深い思い、親から子への愛情を感じることができる貴重な資料と指摘されている。対して後期の資料は、土器捨て場や包含層から単発的に出土することが多く、破損後に他の生活用具と共に無造作に廃棄された様子が伺える。おそらくは縄文のムラの中で選ばれた健康な子どもの手形・足形を取り、魔除けの護符などとして使用されたが、破損等により効力を失った段階で廃棄されたと考えられる。

今回の展示では、出土状況を含めた遺物の諸特徴を観察し比較することによって、同じ幼児の足形を写し取った土版でも、早期と後期のものでは作られた目的や扱われ方が異なっていたことを確認し、より具体的な縄文人の精神性に迫ることができる内容を目指した。また展示の工夫として、早期と後期の土版の諸特徴が比較しやすいように、パネルに端的にまとめるなどし、来館者自身が土版の使われ方や目的を推理し、縄文文化に関する興味関心を高めることも狙いとした。埋蔵文化財への理解を深めて貰うためにも有効な展示内容であったと考えている。

本企画展は朝日新聞の取材を受け、平成29年1月23日朝刊に「手形・足形縄文の親子愛」として紹介された。

3については、考古学講座「まいぶん遺跡探検隊」において、土器および石器に関する体験として実施した。これまでも出前授業などで、本物の土器・石器の持つ手触りや重量感を体感できる学習が好評で、実物を使用したメニューの充実を求める声が多く聞かれていた。

今回実施した土器と石器に関する体験では、参加者に複数の任務（問題）を与え、常設展示室の資料を注意深く観察し、器形の移り変わりや意味、施文の方法を自身で考え、気づき、発表する方法を取り入れた。石器では、石器と原石標本に触れて質感を確認し、石器の種類と石材について考える学習や、弓矢・肉切り・木の実潰しの体験、装身具作り体験なども行い、見る・触れる・使う・作る、の行程を通し、遺物に対する観察の仕方や理解の方法を提示した。

## (2) 研修・情報収集

### a 平成28年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 第1回役員会

期 日：6月2日(木) 10時30分から

会 場：宮崎県松山1丁目1番1号

宮崎観光ホテル 東館2階 初雁の間

参加者：事務局長 山田 寿雄

主 任 葛西 宏昭

内 容

#### 1 議事

##### (1) 会員の入退会

長崎県埋蔵文化財センターの入会を満場一致で了承。退会は無く、加盟機関は1機関増の74機関。

##### (2) 平成27年度事業報告について

事務局から説明・報告が全会一致で了承された。

##### ①総会の開催 平成27年5月28日～29日

(秋田県埋蔵文化財センター)

##### ②研修会の開催 平成27年11月26日～27日

(岡山県古代吉備文化財センター)

##### ③役員会の開催

第1回 平成27年5月28日

(秋田県埋蔵文化財センター)

第2回 平成27年11月20日

(青森県埋蔵文化財調査センター)

##### ④機関誌の発行 公立埋文協会報第55号

平成27年11月 1,700部発行・配布、同56号平成28年3月 1,700部発行・配付

##### ⑤文化庁への要望活動

##### ⑥その他(「発掘された日本列島展」協力)

##### (3) 平成27年度収支決算報告

監事から監査結果が報告された。

##### (4) 監査報告

監査結果が報告され、収支決算と合わせて全会一致で了承された。

##### (5) 新規加盟機関の勧誘

事務局から説明があり、了承された。

- ・今後も引き続き新規加機関を勧誘する。ご協力をお願いする。

##### (6) 発掘された日本列島2016展

事務局から説明があり、了承された。

- ・当協議会は、協力団体となっている。
- ・全国5会場で開催、展示品は36遺跡、約750点。
- ・今後は、解説員の派遣はないが、最寄りの機関

に何らかの協力依頼をお願いするかもしれない。

##### (7) 平成28年事業報告〔案〕

事務局から説明があり、了承された。

##### ア 総会の開催 平成28年6月2日～3日

(宮崎県宮崎市)

##### イ 研修会の開催 平成28年10月20日～21日

(奈良県立橿原考古学研究所)

##### ウ 役員会の開催 第1回 平成28年6月2日

(宮崎県観光ホテル)

第2回 平成28年11月18日

(東京都道府県会館)

##### エ 機関誌の発行 第57号・58号の発行

##### オ 文化庁への要望活動

- ・日程は文化庁との調整必要。例年9月下旬～10月頃。
- ・全埋協と共同で実施し、交互に調整役を行っている。28年度は公立埋文協が担当する。
- ・公立埋文協は、会長、副会長が出席、事務局同行の予定。
- ・要望に関する各機関の意見照会結果は、別紙「参考資料」参照。

主に①収蔵施設整備支援 ②公開・活用施設、ソフト事業に対する支援 ③大学との連携、人材育成 ④基準等 ⑤補助金の減額に対する意見があった。

・総会開催案内時アンケート集約。

①施設整備支援 ②ソフト事業支援 ③財源に関する要望などがあった。

①文化庁要望は、昨年度に引き続き、収蔵施設整備、公開・活用施設整備、ソフト事業に関する支援及び財源確保の要望を盛り込む。

②問題の具体的事例や東日本大震災、熊本地震に関しては今後も情報収集に努める。

③他に意見がある場合は、必要に応じて事務局で調整を図る。

④最終的な要望事項の決定、文言の整理は、会長、副会長に一任する。

・ブロック単位での議題としてほしいことがら、平成29年度の要望活動については、各ブロックで協議をお願いしたい。

##### (8) 平成28年度収支予算について

事務局から説明・報告があり、了承した。

(9) 平成29年度総会及び研修会開催地について

- ・総会、第1回役員会開催幹事機関 静岡県
- ・研修会開催幹事機関 青森県
- ・第2回役員会開催機関 青森県

(10) その他

ア 協議会設立30周年について

- ①協議会設立30周年記念は、研修会に記念の意味合いを持たせて講演会、シンポジウムを開催。
- ②研修会資料に記念誌的意味合いを持たせる。
- ③列島展でのパネル展示の工夫やリーフレットの配付を軸に検討し、決定は役員会に一任いただくことで総会に諮る。

イ デジタル技術の活用

会長：今後、作業部会を作って、協力者会議で揉み、第2回の会議は、それを踏まえ、1月か2月に実施する。

事務局：優先順位を決め、デジタルカメラの導入に関する問題から始める。

ウ その他

- ①補助金の削減（事務局）
  - ・意見交換
- ②埋蔵文化財センターの移転にかかる問題（大分県）
  - ・情報交換

**b 平成28年度 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会**

期 日：6月2日（木）～6月3日（金）

会 場：宮崎県松山1丁目1番1号  
宮崎観光ホテルほか

開催機関：宮崎県埋蔵文化財センター

参加者：事務局長 山田 寿雄  
主 任 葛西 宏昭

内 容

<1日目 6月2日（木）13時30分から>

- 1 開会
- 2 挨拶 1 会長 青森県埋蔵文化財調査センター所長 田村博美 氏  
挨拶 2 宮崎県教育委員会教育次長（振興次長）坂本 巖 氏  
挨拶 3 文化庁記念物課主任文化財調査官 禰宜田佳男 氏

- ①新たな埋蔵文化財保護の取り組みの対象として

の水中遺跡をどうするか。

- ②いままで調査してためてきた写真類、記録類をどのような形で次に繋げていくか。デジタル技術が普及した社会で埋文行政はどのように取り組んでいくか。
- ③埋文行政をどのように次の世代に繋げていくか。職場に持ち帰り議論していただきたい。

3 議事

(1) 会員の入退会

平成28年4月14日付けで長崎県埋蔵文化財センターから入会申請を受け、役員会で承認された旨、事務局から報告・説明があり、入会は満場一致で了承された。加盟機関は1機関増の74機関となる。（退会なし）

(2) 平成27年度事業報告について

事務局から説明・報告があり、全会一致で了承された。

①総会の開催

平成27年5月28日～29日

秋田県秋田市 秋田キャッスルホテル  
幹事 秋田県埋蔵文化財センター  
(34機関 64名参加)

②研修会の開催

平成27年11月26日～27日

岡山県岡山市 ピュアリティまきび  
幹事 岡山県古代吉備文化財センター  
(31機関 53名参加)

③役員会の開催

- ・第1回 平成27年5月28日  
秋田県秋田市 秋田キャッスルホテル  
幹事 秋田県埋蔵文化財センター
- ・第2回 平成27年11月20日  
東京都 都道府県会館  
幹事 青森県埋蔵文化財調査センター

④機関誌の発行

公立埋文協会報第55号（平成27年11月）、同56号（平成28年3月）、各1,700部発行・配付。

- ⑤文化庁への要望活動は、全国埋蔵文化財法人連絡協議会と合同で実施。

・文化庁青柳長官ほか8名に要望書を提出。

⑥その他（発掘された日本列島展）協力

・以前、江戸東京博物館での開催中に派遣した解説員（関東・甲信越・静岡ブロック）の旅費予

算が基金枯渇により27年度より派遣していない。パネル展示のみ。

(3) 平成27年収支決算報告

収支決算について、事務局から説明・報告があった後、監事から監査結果が報告された。

(4) 監査報告

監事を代表して山梨県埋蔵文化財センター中山所長から監査結果が報告され、収支決算と合わせて全会一致で了承された。

(5) 新規加盟機関の勧誘

事務局から説明があり、了承された。

- ・各ブロックが取りまとめた53機関あて、平成28年5月11日付けで加盟依頼文書を発送し、同日付けで都道府県あて管内の機関に加盟を促進するよう協力依頼文書を発送した。
- ・群馬県荻田町出土文化財管理センターから問い合わせがあった。千葉県教育委員会から千葉市埋蔵文化財センターへ働きかけている。
- ・今後も引き続き新規加盟機関を勧誘する。ご協力をお願いします。

(6) 発掘された日本列島2016展

事務局から説明があり、了承された。

- ・当協議会は、協力団体となっている。
- ・平成28年4月8日文化庁にて準備会が開催され、当協議会から事務局の青森県埋文出席。
- ・協力内容は、加盟機関による展示資料の貸し出しと、事務局作成の本協議会紹介パネルの展示・PR。
- ・本日、図録の割引案内を配付している。関係機関等について取りまとめ、積極的に申し込みしてほしい。また、ポスター、チラシ、招待券を配付したので、有効に配布しPRしてほしい。
- ・今後は、解説員の派遣はないが、最寄りの機関に何らかの協力依頼をお願いするかもしれない。

(7) 平成28年度事業計画（案）

事務局から説明があり、了承された。

ア 総会の開催

6月2日（木）～3日（金）

宮崎県宮崎市（宮崎県埋蔵文化財センター）

イ 研修会の開催

10月20日（木）～21日（金）

奈良県橿原市（奈良県立橿原考古学研究所）

ウ 役員会の開催

第1回

6月2日（木）宮崎県観光ホテル

幹事機関 宮崎県埋蔵文化財センター

第2回

11月18日（金）東京都都道府県会館

幹事機関 青森県埋蔵文化財調査センター

エ 機関誌の発行 第57号・58号の発行（昨年度と同時期予定）

オ 文化庁への要望活動

・役員会において、次のとおり確認した。

- ①文化庁要望は、昨年度に引き続き、収蔵施設整備、公開・活用施設整備、ソフト事業に関する支援及び財源確保の要望を盛り込む。
- ②それらの問題の具体的事例や東日本大震災、熊本地震に関しては今後も情報収集に努める。
- ③意見がある場合は、事務局で調整を図る。
- ④最終的な要望事項の決定、文言の整理は、会長、副会長に一任。

・ブロック単位での議題としてほしいことがらと平成29年度の要望活動については、ブロックで協議をお願いしたい。

○ 禰宜田主任調査官

・補助要望の交付額について、「シーリングがかけている」とある。文化庁で3割増しで要求すれば良いのではとのことだが、実は、本庁側で不要額とか繰り越しがものすごく多いため、文化庁は「ちゃんと査定しているのか」と言われる。100%使い切る形を数年つくらないと、この状態のままということも認識してほしい。

(8) 平成28年度収支予算について

事務局から説明・報告があり、了承した。

(9) 平成29年度総会及び研修会開催地について

事業開催幹事機関ローテーションによる。

- ・総会：第1回役員会開催幹事機関 静岡県
- ・研修会開催幹事機関 青森県
- ・第2回役員会開催機関 青森県

(10) その他

ア 協議会設立30周年について

次の内容で検討し、具体的な内容は、今年度第2回役員会の決定に委ねると、承認された。

・各加盟機関から意見を集約し、役員会に諮ったところ、現実的には、予算などを考慮し、次の

ことが考えられる。

- ①研修会に記念的意味合いを持たせて講演会、シンポジウムを開催する。
- ②研修会資料に記念誌的意味合いを持たせる。
- ③列島展でパネル展示の工夫やリーフレットの配布。何をどのように行うかは、役員に一任し、次の役員会で決定する。

・研修会の中で行うならば、研修会開催幹事機関が青森県なので、役員会の中で調整する。

#### イ デジタル技術の活用

文化庁が設置する「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会」において、デジタル技術活用に関する検討が始まった。本年4月15日開催の第1回委員会に当協議会田村会長が出席した。今回の検討事項は、デジタルカメラの導入の問題、報告書のデジタル化の問題、デジタルデータによる図面等記録類の活用の問題が検討された。作業部会も設置され、協力者会議での検討もなされる。

#### 4 講演「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

文化庁文化財部記念物課文化財調査官 禰宜田佳男

##### (1) 専門職員数の推移

- ・発掘費用はともかく、次の世代にどう繋げていくかが問題。職員数の減少が続いている。
- ・職員募集について、実感がないかもしれないが、今後も職員の採用を続けてほしい。

##### (2) 東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱い

- ・被災県以外の44都道府県から東北に派遣された。
- ・熊本については、埋蔵文化財保護に関わることで、何ができるのか、粛々と検討している。熊本県と協議しながら進める。11月の埋文担当職員者会議では、ある程度方向性を示すことができると考える。
- ・昨年度の調査成果について中間報告が発表された。今年度は、行政的にどのようなことが行われたのかという内容とする。3県がどのような取り組みをしたか、派遣元がどのような取り組みや工夫をしたかなどを検証したい。人を増やした実態もある。
- ・岩手県、宮城県については、他府県からの派遣は、今年度をもって終わると考える。

- ・福島は、原発災害のこともあり、これからが復興調査の佳境を迎える状況。中間貯蔵施設の建設が本格化する。放射線量が下がってきており、作業時間の制約はあるが、通常の発掘調査ができる状況になってきている。試掘調査に協力いただくとと思われる。

##### (3) 日本における水中遺跡保護の在り方

- ・今年の3月に「日本における水中遺跡保護の在り方について」中間まとめが出ている。
- ・日本では、いままで陸上のみだったが、鷹島海底遺跡の史跡指定がきっかけとなった。
- ・沈没船の積載物。地滑り、地震などの自然現象で水没した遺跡などが対象。
- ・水の底には、いろんな遺跡あるいは歴史遺産になるようなものが含まれている。
- ・潜らないと判らないのでハードルが高いが、やらなければならない。今後取り組んでいく。

##### (4) デジタル技術の活用

- ・埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会でも検討している。
- ・緊急課題は、①デジタルカメラについてどうするか。②発掘調査報告書をどうするか。紙ベースで300部は確保できているが、一方で遺跡デポジットという取り組みがある。保存するための報告書と、活用するための報告書ということがある。考え方を整理しないと原因者からも言われる可能性がある。③過去に撮ったフィルムや膨大な図面類をどうするか。全ての物を次の世代に持って行く必要はあると思うが、費用をどうするか。特に市町村の方は厳しいところがあると思われる。
- ・すぐにはデジタル化に変わらない。方向性はデジタル化として、徐々にシフトしていく。
- ・今は、まだ第一段階の状況である。

北海道埋文：デジタル化の今後の進め方とおよその報告のスケジュールについて伺いたい。

禰宜田主任調査官：デジタル写真については、緊急度が高い問題なので、今年度中に報告を出す予定。調査報告書と過去の資料については、31年3月の報告を目指して準備を進めて行く予定。議論が進む中で要望、課題があれば提案してほしい。

事務局：この関連について、事務局に情報を寄せていただければ、取りまとめたい。

禰宜田主任調査官：田村会長も研究委員会委員  
になっているので、よろしく願います。

5 特別講演「埋蔵文化財調査における新たな調査法とその成果」 熊本大学教授 小畑弘巳氏  
・土器圧痕法を中心として - 略 -

< 2日目 6月3日(金) >

場 所 西都原古墳群ほか視察

8時20分 ホテル前出発(バス)

9時20分 西都原古墳群、西都原考古博物館  
視察。西都原古墳群：西都原206号  
墳(鬼の窟古墳)横穴式石室 視察。  
酒元ノ上横穴墓群遺構保存覆屋 視  
察。

横穴式石室の内部3世紀末から7世紀にかけて  
築造され、陵墓参考地の男狭穂塚・女狭穂塚を加  
えた319基(前方後円墳31基。方墳2基、円墳286  
基)。

古墳群には、頂丘をもつ古墳に加えて、南九州  
に特有の地下式横穴墓や全国に広く分布する横穴  
墓が混在する。

西都原考古博物館：見学順序を設けないで、自  
由見学としていることや常設展示はない(仕切り  
を移動したりして随時変更している)こと。スマ  
ートフォン等(西都原考古博ナビ)を活用し、ガイ  
ダンスを見聞きでき、音声ガイド案内はジャケッ  
トタイプとしたなどを特色としている。

展示物は基本的には手で触れることができる。  
(触れられたら困るものは、ケースなどで措置)

11時50分 JR宮崎駅解散 一部降車

12時10分 宮崎空港 解散

### c 平成28年度全国公立埋蔵文化財センター連絡 協議会第29回研修会

期 日：10月20日(木)～10月21日(金)

会 場：奈良県橿原市畝傍町1

奈良県立橿原考古学研究所ほか

参加者：第1調査部普及活用課主査 倉橋直孝

1日目 10月20日(木) 研修会

<特別講演>

「三次元図化技術の今昔」滋賀県立大学理事・副  
学長 濱崎一志氏

立体視のできる2枚の写真を用いて三次元計測  
を行う写真測量が本格的に表れたのは1960年代

で、アナログ図化機を使用。

1980年代からCADと直接リンクしたコンピ  
ュータを用いた解析図化機が導入された。航空写  
真から三次元データを取り込むシステムを応用  
し、京都大学一帯の建造物、街路、街路樹などを  
航空写真から図化機で読み取り、図化。図化した  
結果に基づき、CADやレンダリングソフトを用  
い、景観シミュレーションを試行。2000年代から、  
普通のカメラの複数デジタル画像から三次元計測  
を行うことが可能。当初は、エッジの立たない対  
象物には不向きだったが、現在は、どのような形  
状でも写真に写しこんでいれば、三次元形状を高  
精度で作成、表示、計測可能なPhotoScanなどの  
ソフトが完成。近年、ハンディタイプの三次元ス  
キャナーも製品化。計測範囲は限定されるが、1  
m離れたところで1mmレベルの高い精度を実現。  
時間的にも、経済的にも調査に負担のかからない  
計測方法の展開が期待されている。

<事例報告1>

「三次元計測技術を応用した青銅器研究への活用」  
奈良県立橿原考古学研究所係長 水野敏典氏

レーザー式と光学式の三次元計測機を利用した  
銅鏡、銅鐸の計測について報告があった。

銅鏡や銅鐸などの青銅器は、脆く、取り扱いが  
難しい場合が多い。現在の考古学の記録は実測図  
中心だが、文様が半肉表現など立体的な場合、線  
画に置き換えての表現が難しいものがある。新し  
い遺物の図化方法として、三次元計測がある。考  
古学基本の記録方法である実測図、拓本、写真に  
次ぐ、第4の記録法と考える。銅鏡での三次元計  
測精度は、点間ピッチ30から60 $\mu$ mを基本。計測  
対象に非接触で計測可能。この精度は、三角縁神  
獣鏡の「同範鏡」や「兄弟銅鐸」などの同一文様  
とされる青銅器の微妙な差異を検討できるレベ  
ルである。

<事例報告2>

「遺跡における赤色立体地図の活用」奈良県立橿  
原考古学研究所技術アドバイザー 西藤清秀氏

2000年頃、日本でも航空レーザー計測が採用。  
2005年アジア航測により、ビジュアル化が図られ  
た赤色立体地図が開発され、自然災害や火山の地  
形測量に有効性をもつ。2009年、考古学への応用  
として、アジア航測と奈良県立橿原考古学研究所

が古墳等の遺跡に対する航空レーザー計測の有効性を確認する研究を開始。航空レーザー計測は、ヘリコプターなどの小型航空機から発射されたレーザー光により地表面を計測。レーザー光は、樹木の葉の隙間から地盤に到達。そのため、現地に立ち入ることなく、安全迅速に作業を遂行できる。レーザー計測により収集したデータは、樹木などを除去する処理を行い、地盤だけのデータにする。このデータを赤色立体地図に加工することにより、地形形状がより判読しやすい画像になる。立ち入り困難な宮内庁管理の陵墓や、広範囲に小規模な古墳が多数密集する新沢千塚古墳群に対して、航空レーザー計測を行い、多くの成果を得た。

<事例報告3>

「宇宙線ミュオンで明らかにする古墳埋葬施設」奈良県立橿原考古学研究所学術振興会特別研究員 石黒勝己氏

ミュオンラジオグラフィーでは、ミュオンの角度を1本ずつ検出し、構造物のどこを貫通してきたものが多いか、計算処理して画像を作成する。ミュオンは、透過力が高いため1km程度の大きさのものまで内部透視が可能。考古学では、エジプトのピラミッド内部の構造調査などで利用されていたが、古墳を対象にした研究に応用ができないか、研究中。

2日目 10月21日(金) 視察見学

史跡高取城史跡、史跡新沢千塚古墳群を踏査後、歴史に憩う橿原市博物館、さらに、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館を見学した。

#### d 平成28年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議

期日：10月6日(木)～10月7日(金)

会場：札幌市中央区南22条西13丁目  
札幌市埋蔵文化財センター

参加者：事務局長 山田 寿雄  
総務部長 和田 基興  
総務課長 小杉 充  
第1調査部長 長沼 孝  
普及活用課長 田口 尚  
普及活用課主査 坂本 尚史

内容

第1日目 10月6日(木) 14時00分から

場所 札幌市中央区南22条西13丁目11

幹事機関 札幌市埋蔵文化財センター

9 機関26名が参加

1 開会進行(札幌市埋蔵文化財センター 文化財調査員 秋山洋司)

2 挨拶(札幌市市民文化局 文化部長 川上佳津仁)

3 参加者紹介 各機関参加者挨拶

4 会議

あらかじめ各機関から提出された協議・照会事項について意見交換等を行い、会議終了後にセンター内を視察した。

5 協議事項

(1) 文化庁への要望事項について

収蔵・公開・活用などの各種事業に伴う施設新設、更新、改修に関する財政的支援の要望などの意見が出された。

(2) 平成29年度の開催機関について

盛岡市遺跡の学び館を幹事機関とすることで了承された。

(3) 平成29・30年度のブロック会議幹事役員について

北海道は札幌市埋蔵文化財センター、東北は青森県埋蔵文化財調査センターが代表幹事及び全国会長候補とすることで了承された。

6 照会事項

各機関から14項目の照会があり、意見交換等を行った。主な内容は以下のとおり。

(1) 太陽光発電施設設置への埋文対応について

協議対応の事例や発掘調査事例の報告があった。

(2) 調査支援業務の取り組みについて

支援業務の取り組み事例の報告があった。

(3) 作業員の雇用に関わる事項

現場作業員の保険適用、募集方法、作業員への研修などの報告があった。

(4) 発掘調査における労働安全衛生の取り組みについて

発掘調査担当者の安全衛生管理に関する資格取得状況などの事例・報告があった。

(5) 発掘調査業務中の安全・衛生管理について

発掘調査現場の安全衛生管理マニュアルの整備状況などの事例・報告があった。

(6) 報告書掲載資料の著作権の取扱いについて

新たに発行される報告書に関するもののほか、既に発行されている報告書に関する著作権の考え方などの事例や意見交換があった。

(7) 過去の発掘調査資料の再整理とその保管活用について

過去の発掘資料の再整理状況や成果物の刊行状況について事例報告があった。補助金を活用した財源の確保に関する提案など、意見交換された。

(8) 発掘調査電子データを永久保存するための具体的方法について

電子データの保管方法、フィルムカメラの使用状況、過去に撮影された現場写真のデジタル化の状況の事例報告があった。

(9) 収蔵資料のデジタル化及び公開の現状について

収蔵資料のデジタル化の事例報告があった。

(10) SNSの利用について

SNSを活用した情報発信の事例報告やブログ等への掲載に関する考え方などの事例報告があった。

(11) 普及事業における保険について

保険の加入事例の報告や、保険内容の確認などの意見が交わされた。

(12) 出土品の保管・管理について

出土品の保管・管理の事例報告や出土品管理のための作業員の稼働状況の報告などの事例・報告があった。

(13) 木質資料（木製遺物）の保管方法について

水浸け状態で保管している木製遺物の保管方法や保存処理方法についての、留意すべき点、最新の情報や事例報告があった。

(14) 図書・報告書の整理について

リポジトリへの参加事例や報告書のデジタル化（PDF）についての事例報告があった。

## 7 視察見学

会議終了後、札幌市埋蔵文化財センターの施設内や収蔵室、展示室を見学した。

第2日目 10月7日（金）9時00分から

場 所 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園ほか視察

9時00分 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園視察

10時30分 北海道大学総合博物館視察

11時30分 北海道大学埋蔵文化財調査センター視察

12時00分 解散

## e 第7回文化財写真技術研究会

期 日：7月1日（金）・7月2日（土）

会 場：奈良県奈良市二条町2-9-1

奈良文化財研究所 平城宮跡資料館 講堂

参加者：第1調査部第1調査課 課長 中山昭大

内 容：7月1日（金）

研究会Ⅰ 文化財写真技師の技術とデジタルへの変革

講演「飛鳥の文化財を撮る眼」

このたび奈文研を定年退官なさった井上直夫氏の講演。フィルムからデジタルに変わり画像の改変が楽になったが、果たしてそれは良いことなのか。など、氏のこれまでの撮影を振り返る。

7月2日（土）「メーカーに聞く最新カメラの技術的特徴」

リコーペンタックス、フェーズワン、ハッセルブラッド、セコニック各社によるデモ。

道立センターにおける撮影業務、フィルム資産の活用、必要・最適な機器の導入に向けて大いに刺激を受けた。

研究会Ⅱ 写真を活用した新しい技術

SfMによる文化財の計測・活用・データの再構築、産業ヘリによる空撮、wifiを利用したリモート撮影事例についての発表。奈文研の中村一郎氏・山口欧志氏・栗山雅夫氏、筑後市教育委員会の永見秀徳氏、三井考測の三井猛氏、ヤマハ発動機の今井純郎氏、東大寺の南部裕樹氏から説明があった。

素人でも扱えるドローンによる空撮および図画、コンパクトカメラの画像からの実測図など、デジタル画像を用いた航空測量・遺物実測作業に、今までにない、手軽で個人で習得可能な技術が開発されつつあることを実感した。

## f 平成28年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第2回役員会

期 日：11月18日（金）

会 場：都道府県会館 409会議室

東京都千代田区平河町2-6-3

参加者：事務局長 山田 寿雄

内 容：議事

1 協議事項

(1) 平成29・30年度の役員について

\*平成29年度総会で役員改選となるので、今回の役員会に各ブロックの次期役員候補機関の呈示をお願いします。

(2) 平成29・30年度の総会・役員会及び研修会について

平成29年度

総会・第1回役員会：静岡県埋蔵文化財センター

第2回役員会：平成29・30年度会長職機関（会場：東京都内）

研修会：青森県埋蔵文化財調査センター

平成30年度

総会・第1回役員会：広島県立埋蔵文化財センター

第2回役員会：平成29・30年度会長職機関（会場：東京都内）

研修会：愛知県埋蔵文化財調査センター

(3) その他

- ・協議会設立30周年（平成29年）について
- ・平成29年度の文化庁への要望活動について

2 報告事項

(1) 平成28年度の文化庁への要望活動

(2) 会報の発行状況と発行予定

(3) 予算の執行状況

3 情報交換事項

**g 文化財保存修復学会第38回大会**

期 日：6月25日（土）・26日（日）

会 場：神奈川県平塚市北金目

東海大学湘南キャンパス

参加者：第1調査部普及活用課 課長 田口 尚

内 容：6/25（土）の口頭発表は3セッションに分けられ、セッションⅠ〔保存環境〕は4件、セッションⅡ〔製作技術〕5件、セッションⅢ〔マネジメント〕2件の計11件の発表があった。ポスターセッションはP-001～P-058までの58件の発表があった。

口頭発表終了後に、特別行事として特別講演「東海大学における日本初のパピルス・プロジェクト」と題して東海大学文学部アジア文明学科山

花京子准教授の講演があった。

6/28（日）の口頭発表は3セッションに分けられ、セッションⅣ〔保存・修復事例〕4件、セッションⅤ〔製作材料〕2件、セッションⅥ〔災害〕4件の計10件の発表があった。ポスターセッションはP-059～P-116までの57件の発表があった。その他、特別ポスター発表が6件あり、「読売あをによし賞」の取り組みや「博物館プロジェクトの実践」として、大学コレクションの保存活用、“実物に触る”体験ワークショップ、石膏原型の公開保存修復、2015年の災害対策調査部会の活動報告があった。

2日間の日程で興味深かったのは、O-15積雪寒冷地域における積雪と石造文化財周辺の温度環境の発表が、大湯環状列石の環境調査をもとに東北芸術大学石崎教授よりあった。タイムラプスカメラも併用して列石の積雪の影響などと雪の下では、地面が凍結せずほぼ0℃で一定であることが改めて実証された。積雪直前や融雪時期の管理や対策が重要である。最近では温暖化による凍結融解の繰り返しがやや長期化しており、それが石材や地盤にダメージを与えている可能性がある。O-18、O-19では、津波被災文化施設および被災資料保存施設では空気環境が被災由来成分の酸に影響される場合や海水由来成分により極端なアルカリへと傾く傾向が見られることが報告された。これは仮施設のため温湿度管理や換気が不十分であり、かつ十分な洗浄ができないまま収蔵されたことによる。この状態が長く続けば、緊急避難した資料にさらなる劣化を発生させる可能性が示唆された。

ポスターでは、震災から5年を経過し、被災後資料の保存修復における問題点、異臭の発生などの発表が多く見られた。全体として、昨今の温暖化やI P M活動に関連した保管収蔵環境の計測や環境測定をテーマするものが目立った。現実に道内においても、収蔵保管環境や保存処理後の収蔵資料劣化に関するものが多く、施設や資料の経年劣化とともに、これまでと異なる環境変化が各地で発生しているようである。温湿度はもとより各施設の通年のデータ収集が対策の一助となることを改めて認識した。その他の発表では、P092の紙に付着した粘着テープの劣化—有機溶剤を用い

た粘着テープおよびテープ痕除去方法の検討の発表が興味深かった。土器や石器についても、古い復元時のテープ痕が見苦しく残存するものが多くあり、収蔵資料にも応用できそうである。

#### h 第1回北海道東部の堅穴群調査懇談会

期 日：6月22日（水）

開 場：道庁別館7階 教育庁会議室

参加者：長沼 孝常務理事

第1調査部普及活用課長 田口 尚

同 主査 坂本尚史

内 容：出席者は、熊木俊朗東京大学大学院人文社会系研究科准教授（座長）、高瀬克範北海道大学大学院文学研究科准教授、相田光明元ポー川史跡自然公園長、北海道教育委員会4名、長内文化財・博物館課長 西脇文化財調査グループ主幹ほか。熊木氏から「北海道東部の大規模堅穴住居跡群をめぐる研究の現状と課題」と題して、スライド用いて話題提供があった。世界遺産暫定一覧表への追加登録の取り組みについての説明、堅穴群の知名度を高める必要性、アイヌ文化を含めた構成資産及び地域設定を検討することなどの報告があった。大規模堅穴群の評価については、世界的評価、国内評価の視座を紹介し、ロシアのサハリン・アムール川流域において大規模堅穴群の調査が行われ、様相が少しずつ解明されつつあること。各遺跡の歴史的状況などの比較検討が必要であること。北海道の大規模堅穴群には、縄文文化・続縄文文化の遺構が含まれるため、遺構の年代学的な検討をし、時期差や住居規模、形態分布状況などの分析が重要であることの発言があった。また、堅穴群の主体と考えられる擦文文化の遺構形成を研究し、続くアイヌ文化期を含めて調査を展開する必要がある。アイヌ文化を含める場合には、詳細かつ慎重な検討する必要がある。調査方法については事前の草刈りを丁寧に行うことで、遺構形態、盛土、付属遺構が明瞭となり、測量調査で捉えやすくなるなどの意見交換があった。なお、実際の調査では、調査期間・予算等を考慮する必要があるため、効果的な調査方法、発掘区の設定等を十分に検討する必要がある。堅穴群のデータベース化の名称については、遺跡属性に、年代、文化を記載していく方法が有効とし、『堅穴住居

群』の名称は、内容・性格が明らかでない窪みも含まれる現状では『堅穴群』が適当などの意見交換があった。

#### i 第2回北海道東部の堅穴群調査懇談会

期 日：9月15日（木）

会 場：湧別町 文化センターさざ波 会議室

参加者：第1調査部普及活用課長 田口 尚

内 容：出席者は熊木俊朗東京大学大学院人文社会系研究科准教授（座長）、相田光明元ポー川史跡自然公園長、湧別町教育委員会 牧野教育長、田中湧別町図書館・ふるさと館 J R Y 館長、中島副館長、林学芸員、北海道教育委員会 中田主査、村本主任。湧別町シブノツナイ堅穴住居群（道指定史跡）の堅穴立地・形態・分布状況および当センターによる現地測量調査状況を視察後、文化センターさざ波にて、相田氏による「標津町の堅穴群調査」の話題提供があった。古くから堅穴群の存在が知られ、昭和50年代初期から堅穴群調査を継続し、その調査成果を基に史跡整備が行われてきた。最初の広域遺跡保存のひとつである。分布、調査、測量調査、試掘調査等によって、標津町の縄文文化～擦文文化、トビニタイ文化等の堅穴群の様相が明らかになりつつある。測量調査では、入念な地表面観察と遺構周囲の形状を捉えることが重要であること。堅穴の時期判断、構築過程の把握には、必要最小限の効果的発掘調査が必要な場合がある。その後、現在実施中のシブノツナイ堅穴住居跡詳細測量調査について報告を行った。前年度からの測量調査を継続し、さらに堅穴住居や付属堅穴が90基程追加され、配置状況に加え、指定地域外の堅穴の存在が明らかとなった。次年度は、堅穴測量を完成させ、盛土や付属施設の精査を行い、試掘調査検討中。意見交換では堅穴形態ごとの分布や堅穴群に特徴的な傾向の有無が期待され、懇談会の意見を調査に反映させたいとした。また、堅穴住居跡の保全では、放牧・牧草地として使用され、堅穴の変形が認められること。関係者で現状や問題点を共有し、遺跡の保存・活用について今後の方針を話し合う必要があること。シブノツナイ堅穴住居群を地域住民に周知し、調査成果公開することが遺跡保護の一助となることが確認された。

## j 第3回北海道東部の竪穴群調査懇談会

期 日：12月13日（火）

会 場：道庁2階 共用会議室

参加者：長沼 孝常務理事

第1調査部普及活用課長 田口 尚

内 容：出席者は、熊木俊朗東京大学大学院人文社会系研究科准教授（座長に選出）、高瀬克範北海道大学大学院文学研究科准教授、梶田光明元ポー川史跡自然公園長、北海道教育委員会3名西脇文化財調査グループ主幹ほか。高瀬氏が「カムチャッカ、北千島の竪穴群」と題して話題提供を行った。カムチャッカ半島・北千島では、新石器時代までは竪穴住居はない。半島北部ではオホーツク海北岸で海洋適応したトカレフ文化の影響や古コリヤーク文化の成立によって竪穴住居が用いられ、半島南部・北千島では千島アイヌの成立により竪穴住居が用いられるようになった。カムチャッカ半島北部、中部、南部及び北千島で竪穴住居の数、住居から出土する遺物量などに差が認められる。竪穴住居の特徴である平面形、付属施設、炬、立地・地形では、南部と北千島で共通している。カムチャッカ半島北部では遺跡に竪穴住居が10軒以内、南部では100軒以内、北千島では最大で200軒の規模であったと想定される。北海道と同規模の竪穴群をもつ地域は、南千島・サハリンに限られる。北海道の竪穴群と比較すると、北海道は存続期間の長さ（縄文から擦文文化期）及び規模が大きく際立っている。このような竪穴群が形成された背景についての調査検討が必要である。この後、当センターによる湧別町シブノツナイ竪穴住居跡の調査報告が行われ、意見が交換された。シブノツナイ竪穴住居跡の測量調査によって、竪穴の大きさ・密度・分布状況等に傾向を見られる。東側では竪穴住居が密集し、西側では大型竪穴住居が分布するなど、分布や立地が異なっていたと考えられる。来年度以降は、シブノツナイ竪穴住居跡の調査について測量図補足調査を行う必要がある。今年度の調査結果を検討し、今後の調査内容について協議することとしたい。限られた予算や期間で調査精度と調査計画をどこに焦点を当てるかが重要である。シブノツナイ竪穴住居跡の周知・保全について関係者で現状・問題点を共有する機会を具体化していくことを確認した。

## 3 分析・鑑定・保存処理等

### (1) 分析・鑑定

石器・石製品については、昨年度に引き続き、過年度報告試料ならびに整理・報告中の縄文時代および続縄文時代の玉類の化学組成を測定し、石材の確認・同定を行った。次年度も継続的に化学組成分析作業を行い、出土石製品の材質や産地推定の基礎データ収集を行う予定である。

有機性遺物では、過年度報告の縄文時代～アイヌ文化期の木製品のうち、既報告内で樹種同定を実施できなかった水浸出土材や炭化材の樹種同定を行い、道内における用具や建築材の樹種選択ならびにウルシノキや針葉樹などの本州材の流入についての検討を行った。

また、当センターでは、千歳市美々8遺跡や同ユカンボシC15遺跡などの低湿地遺跡調査で採取した古材サンプルを将来の年輪年代分析資料として保管している。現在、これらのサンプルや保存処理後の木製品を利用して、総合地球科学研究、国立歴史民俗学博物館、中央大学など共に、最新の酸素同位体分析法を用いた1年輪毎の年代測定の準備を進めている。青森県まで繋がった年輪年代が北海道まで伸びつつあり、放射性炭素分析（AMS）などの暦年校正および道内の海洋リザーバー効果についての最新情報が得られるなど、研究の進捗が期待されている。その他、縄文時代前期～後期～晩期の赤色漆塗糸、赤色漆塗櫛・腕輪の剥落細片からプレパラートを作成し、漆塗膜構造、顔料分析を行い製作技法の検討を行った。アイヌ文化期の漆塗椀（イタンキ）や行器（シントコ）、漆塗折敷などについても、剥落細片からプレパラートを作成して、木胎、下地、塗膜構造、顔料などを分析し、製作技法を比較検討しながら産地推定や編年の基礎データ収集に努めた。

金属製品やガラス玉については、劣化再処理資料について破損や亀裂状況の把握のために必要に応じて、X線透視撮影を実施した。報告などで未分析の非鉄金属やガラス玉の成分分析を行った。

収蔵遺物以外では、市町村の指導・助言に係る保存処理作業過程および重要遺跡確認調査で検出された遺物の整理・報告に関連したX線透過・材料分析、石材・樹種同定を随時、実施した。



▲出前研修会



▲埋蔵文化財担当職員研修会

その他、蛍光X線分析装置、電子顕微鏡など、分析同定に係る精密機器の設置環境整備と維持管理を行った。多くの器材や機器の老朽化が進んでおり、早急に更新を検討すべき段階となっている。

## (2) 保存処理

保存処理では、道立センター収蔵・展示中の木製品や金属製品などについて、温湿度測定とともに日々保管環境を点検している。収蔵品のうち、水漬保管遺物では、資料および容器の洗浄、水道水と養生材料の交換をおよそ四半期ごとに行った。処理済木製品や金属製品などの乾燥保管資料は、シリカゲル、アートソープ、脱酸素剤などの調湿剤を随時交換し、必要性に応じてフィルムパック実施した。特に重要文化財「北海道美々8遺跡出土品」のうち、金属製品については、資料点検確認後に、シリカゲルや脱酸素剤の状態を確認した。RPシステムによるフィルムパックでは、同封のインジケータの変色状況などに注意をした。その他、水漬けフィルムパックの木製品については、PEG含浸法と真空凍結乾燥法を併用した保存処理を実施し、資料の安定化と処理期間の短縮に努め、接合・修復、注記、収納作業を実施した。劣化や破損が確認された金属製品やガラス玉については、随時、X線透視観察後、クリーニング、脱塩処理、アクリル系樹脂を減圧含浸し、修復・安定化処理を行った。

なお、金属製品について、再処理を要するものが増加傾向にある。また、機器の老朽化、滅失に伴い、今後の作業計画を再検討する必要がある。

## 4 市町村教育委員会支援など

### (1) 指導・協力等

①北斗市：「北斗市所蔵の保存処理資料に関する指導・助言について（北斗市教育委員会）」平成28年3/14（月）～3/16（水）田口 尚〔場所：北斗市教育委員会、北斗市郷土資料館〕市教委の展示・収蔵施設移転に伴う展示・収蔵・保管・管理している金属製品の劣化および保管環境の点検・確認、再保存処理の必要性の有無、資料養生の方法、脱酸素剤による適切なフィルムパックを実践指導した。

②むかわ町：「町内出土金属製品の保存処理及び保管に係る指導・助言について（むかわ町教育委員会）」田口尚〔場所：北海道立埋蔵文化財センター保存科学室・調査研究室〕昨年引き続き、町内出土上古刀等のサビ除去、脱塩作業、樹脂含浸などの保存処理実務を実践・研修し、展示・活用の台座製作までの一連の作業を指導・助言した。

③上ノ国町「上ノ国町における現地指導に係る職員派遣について」（上ノ国町教育委員会）〔3/14（火）～3/16（木）田口 尚〔場所：上之国勝山館調査整備センター〕主に勝山館および夷王山墳墓群出土の木製品樹脂含浸、人骨などの強化、樹種同定、保存処理後遺物の保管環境整備について指導・助言した。〕

### (2) 出前研修会

「地域の埋蔵文化財—オホーツク管内を対象に—」  
目的：地域の埋蔵文化財についての見識を深め

るとともに、史跡整備の報告、屋外展示、公開活用事例として、展示収蔵施設を見学する。

日 時：9月1日(木)

会 場：北海道立北方民族博物館

講 師：

(公財)北海道埋蔵文化財センター常務理事

長沼 孝  
網走市立博物館長 米村 衛  
北見市教育委員会 山田 哲  
北海道立北方民族博物館 笹倉いる美

内 容

研修1「講義：北海道の歴史と道北(上川・宗谷・オホーツク)の文化財」

講師：(公財)北海道埋蔵文化財センター

常務理事 長沼 孝

研修2「講義：国指定史跡モヨロ貝塚の発掘調査と整備」

講師：網走市立博物館長 米村 衛

研修3「講義：国指定史跡常呂遺跡の発掘調査と整備」

講師：北見市教育委員会 山田 哲

研修4「見学：北海道立北方民族博物館」

講師：北海道立北方民族博物館

笹倉いる美

13:10 受付・オリエンテーション

↓

13:20 研修1「講義：北海道の歴史と道北(上川・宗谷・オホーツク)の文化財」

↓

14:00 研修2

↓

14:40 研修3

↓

15:20 休憩(10分)

↓

15:30 研修4

↓

16:00 研修会終了・修了式・解散

### (3) 埋蔵文化財担当職員研修会

平成28年度 埋蔵文化財担当職員研修会

「埋蔵文化財発掘調査の現況と課題」

目的：埋蔵文化財保護に携わっている市町村職員を対象に、埋蔵文化財発掘調査の現況と課題について専門的研修を行なう

日 時：12月8日(木)・9日(金)

会 場：北海道立埋蔵文化財センター研修室

講 師：

文化庁記念物課調査官 水ノ江 和同

(公財)北海道埋蔵文化財センター

理事長 越田 賢一郎

(公財)北海道埋蔵文化財センター

常務理事 長沼 孝

(公財)北海道埋蔵文化財センター

第2調査部長 三浦 正人

研修日程表

<12月8日(木)>

研修1「埋蔵文化財発掘調査の現況と課題」

講師 文化庁記念物課主任調査官

水ノ江 和同

研修2「北海道における埋蔵文化財発掘調査の沿革」

講師 (公財)北海道埋蔵文化財センター

常務理事 長沼 孝

研修3「北海道における大規模調査等の事例 新千歳空港」

講師 (公財)北海道埋蔵文化財センター

理事長 越田 賢一郎

#### 【出前研修参加者一覧】

|    | 名 前   | 振興局   | 所 属              |
|----|-------|-------|------------------|
| 1  | 米村 衛  | オホーツク | 網走市立博物館長(講師)     |
| 2  | 山田 哲  | オホーツク | 北見市教育委員会(講師)     |
| 3  | 笹倉いる美 | オホーツク | 北海道立北方民族博物館(講師)  |
| 4  | 安藤 光希 | オホーツク | 置戸町中央公民館         |
| 5  | 八重柏 誠 | オホーツク | 美幌博物館            |
| 6  | 林 勇介  | オホーツク | 湧別町教育委員会ふるさと館郷土館 |
| 7  | 猪熊 樹人 | 根室    | 根室市歴史と自然の資料館     |
| 8  | 福田 光夫 | 根室    | 根室市歴史と自然の資料館     |
| 9  | 小野 哲也 | 根室    | 標津町ポー川史跡自然公園     |
| 10 | 村田 一貴 | 根室    | 中標津町教育委員会        |

参加者：市町村職員等10名、センター職員13名、計23名

研修4「北海道における大規模調査等の事例  
白滝遺跡群」  
(公財)北海道埋蔵文化財センター  
常務理事 長沼 孝

研修5「北海道における大規模調査等の事例  
低湿地遺跡」  
(公財)北海道埋蔵文化財センター  
第二調査部長 三浦 正人

9:30 研修6  
↓  
11:00 休憩(15分)  
↓  
11:15 ディスカッション  
↓  
11:50 研修終了・修了式・解散

13:00 受付開始  
↓  
13:20 オリエンテーション  
↓  
13:30 開会挨拶  
↓  
13:35 研修1  
↓  
14:05 研修2  
↓  
14:45 休憩(15分)  
↓  
15:00 研修3  
↓  
15:30 研修4  
↓  
16:00 研修5  
↓  
16:30 1日目終了

<12月9日(金)>

研修6「『発掘調査の手引き』解説」  
講師 文化庁記念物課主任調査官 水ノ江 和同

ディスカッション  
「埋蔵文化財発掘調査の今後」  
司会 (公財)北海道埋蔵文化財センター  
常務理事 長沼 孝

パネラー  
文化庁記念物課主任調査官 水ノ江 和同  
(公財)北海道埋蔵文化財センター  
理事長 越田 賢一郎  
(公財)北海道埋蔵文化財センター  
第二調査部長 三浦 正人

【埋蔵文化財担当職員研修会参加者一覧】

|    | 氏名    | 振興局   | 所属                 |
|----|-------|-------|--------------------|
| 講師 | 水ノ江和同 |       | 文化庁記念物課調査官         |
| 講師 | 越田賢一郎 |       | 北海道埋蔵文化財センター理事長    |
| 講師 | 長沼 孝  |       | 北海道埋蔵文化財センター常務理事   |
| 講師 | 三浦 正人 |       | 北海道埋蔵文化財センター第2調査部長 |
| 1  | 村本 周三 |       | 北海道教育庁文化財・博物館課     |
| 2  | 赤井 文人 |       | 北海道教育庁文化財・博物館課     |
| 3  | 田中 亮  | 石狩    | 札幌市埋蔵文化財センター       |
| 4  | 村椿 篤史 | 石狩    | 札幌市埋蔵文化財センター       |
| 5  | 塚田真理子 | 石狩    | 北広島市教育委員会          |
| 6  | 荒山 千恵 | 石狩    | いしかり砂丘の風資料館        |
| 7  | 山田 央  | 渡島    | 七飯町歴史館             |
| 8  | 木元 豊  | 渡島    | 木古内町教育委員会          |
| 9  | 竹田 聡  | 渡島    | 知内町郷土資料館           |
| 10 | 大谷 茂之 | 渡島    | 八雲町郷土資料館           |
| 11 | 塚田 直哉 | 桧山    | 上ノ国町教育委員会          |
| 12 | 林 雄介  | オホーツク | 湧別町教育委員会ふるさと館JRY   |
| 13 | 八重柏 誠 | オホーツク | 美幌博物館              |
| 14 | 松村 愉文 | オホーツク | 遠軽町埋蔵文化財センター       |
| 15 | 澤田 健  | 上川    | 富良野市教育委員会生涯学習センター  |
| 16 | 田代 雄介 | 胆振    | むかわ町教育委員会          |
| 17 | 岩館 宏樹 | 胆振    | むかわ町教育委員会          |
| 18 | 森岡 健治 | 日高    | 平取町教育委員会文化財課       |
| 19 | 高橋 美鈴 | 日高    | 様似町教育委員会           |
| 20 | 片岡 佑平 | 釧路    | 弟子屈町教育委員会          |
| 21 | 熊崎農夫博 | 釧路    | 厚岸町海事記念館           |
| 22 | 石渡 一人 | 根室    | 別海町教育委員会           |

参加者：市町村職員等22名、センター職員21名、計43名

### Ⅲ 収蔵・保管事業

#### 1 収蔵資料

出土文化財を北海道出土文化財取扱要綱（平成13年4月11日付け教育長・出納長通知）等に則して保管し、いつでも活用できるよう管理を行い、整理作業を進めている。

|    | シリーズ名称 | 発行年度 | 報告書名 | 所在地  | 遺跡名                | 掲載遺物<br>コンテナ数 | その他<br>コンテナ数 | 復元土器<br>個体数 |     |     |
|----|--------|------|------|------|--------------------|---------------|--------------|-------------|-----|-----|
| 1  | 道教委    | 1    | 昭和52 | 1977 | 美沢川流域の遺跡群Ⅰ         | 千歳市           | 美々4          | 5           | 140 | 1   |
| 2  | 道教委    | 1    | 昭和52 | 1977 | 美沢川流域の遺跡群Ⅰ         | 千歳市           | 美々5          | 1           | 1   | 0   |
| 3  | 道教委    | 3    | 昭和54 | 1979 | 美沢川流域の遺跡群Ⅲ         | 千歳市           | 美々4          | 3           | 152 | 15  |
| 4  | 道教委    | 3    | 昭和54 | 1979 | 美沢川流域の遺跡群Ⅲ         | 千歳市           | 美々5          | 11          | 74  | 0   |
| 5  | 道教委    | 3    | 昭和54 | 1979 | 美沢川流域の遺跡群Ⅲ         | 千歳市           | 美々6          | 2           | 13  | 0   |
| 6  | 道教委    | 3    | 昭和54 | 1979 | 美沢川流域の遺跡群Ⅲ         | 千歳市           | 美々7          | 7           | 42  | 0   |
| 7  | 北埋調報   | 3    | 昭和55 | 1980 | 美沢川流域の遺跡群Ⅳ         | 千歳市           | 美々4          | 6           | 365 | 108 |
| 8  | 北埋調報   | 3    | 昭和55 | 1980 | 美沢川流域の遺跡群Ⅳ         | 千歳市           | 美々5          | 3           | 50  | 5   |
| 9  | 北埋調報   | 3    | 昭和55 | 1980 | 美沢川流域の遺跡群Ⅳ         | 千歳市           | 美々6          | 2           | 16  | 3   |
| 10 | 北埋調報   | 3    | 昭和55 | 1980 | 美沢川流域の遺跡群Ⅳ         | 千歳市           | 美々7          | 1           | 4   | 3   |
| 11 | 北埋調報   | 7    | 昭和56 | 1981 | 美沢川流域の遺跡群Ⅴ         | 千歳市           | 美々8          | 1           | 91  | 117 |
| 12 | 北埋調報   | 8    | 昭和57 | 1982 | 美沢川流域の遺跡群Ⅵ         | 千歳市           | 美々8          | 1           | 5   | 9   |
| 13 | 北埋調報   | 9    | 昭和57 | 1982 | ママチ遺跡              | 千歳市           | ママチ          | 9           | 161 | 73  |
| 14 | 北埋調報   | 14   | 昭和58 | 1983 | 美沢川流域の遺跡群Ⅶ         | 千歳市           | 美々4          | 9           | 166 | 143 |
| 15 | 北埋調報   | 14   | 昭和58 | 1983 | 美沢川流域の遺跡群Ⅶ         | 千歳市           | 美々9          | 1           | 2   | 4   |
| 16 | 北埋調報   | 17   | 昭和59 | 1984 | 美沢川流域の遺跡群Ⅷ         | 千歳市           | 美々4          | 3           | 33  | 32  |
| 17 | 北埋調報   | 17   | 昭和59 | 1984 | 美沢川流域の遺跡群Ⅷ         | 千歳市           | 美々5          | 1           | 5   | 0   |
| 18 | 北埋調報   | 24   | 昭和60 | 1985 | 美沢川流域の遺跡群Ⅸ         | 千歳市           | 美々2          | 9           | 53  | 4   |
| 19 | 北埋調報   | 24   | 昭和60 | 1985 | 美沢川流域の遺跡群Ⅸ         | 千歳市           | 美々4          | 5           | 57  | 0   |
| 20 | 北埋調報   | 24   | 昭和60 | 1985 | 美沢川流域の遺跡群Ⅸ         | 千歳市           | 美々8          | 1           | 7   | 5   |
| 21 | 北埋調報   | 35   | 昭和61 | 1986 | 美沢川流域の遺跡群Ⅹ         | 千歳市           | 美々3          | 2           | 13  | 4   |
| 22 | 北埋調報   | 36   | 昭和61 | 1986 | ママチ遺跡Ⅲ             | 千歳市           | ママチ          | 8           | 84  | 75  |
| 23 | 北埋調報   | 44   | 昭和62 | 1987 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅠ        | 千歳市           | 美々8          | 2           | 42  | 27  |
| 24 | 北埋調報   | 62   | 平成1  | 1989 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅢ        | 千歳市           | 美々3          | 2           | 39  | 7   |
| 25 | 北埋調報   | 62   | 平成1  | 1989 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅢ        | 千歳市           | 美々8          | 1           | 42  | 72  |
| 26 | 北埋調報   | 69   | 平成2  | 1990 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅣ        | 千歳市           | 美々3          | 14          | 134 | 34  |
| 27 | 北埋調報   | 69   | 平成2  | 1990 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅣ        | 千歳市           | 美々8低湿部       | 0           | 0   | 0   |
| 28 | 北埋調報   | 77   | 平成3  | 1991 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ        | 千歳市           | 美々3          | 4           | 10  | 31  |
| 29 | 北埋調報   | 77   | 平成3  | 1991 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ        | 千歳市           | 美々7          | 3           | 14  | 12  |
| 30 | 北埋調報   | 77   | 平成3  | 1991 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ        | 千歳市           | 美々8          | 3           | 37  | 16  |
| 31 | 北埋調報   | 77   | 平成3  | 1991 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅤ        | 千歳市           | 美々8低湿部       | 1           | 0   | 2   |
| 32 | 北埋調報   | 83   | 平成4  | 1992 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅥ        | 千歳市           | 美々7          | 3           | 11  | 7   |
| 33 | 北埋調報   | 83   | 平成4  | 1992 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅥ        | 千歳市           | 美々8          | 2           | 59  | 72  |
| 34 | 北埋調報   | 83   | 平成4  | 1992 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅥ        | 千歳市           | 美々8低湿部       | 1           | 0   | 1   |
| 35 | 北埋調報   | 86   | 平成5  | 1993 | ユカンボシC2遺跡          | 千歳市           | ユカンボシC2      | 4           | 24  | 14  |
| 36 | 北埋調報   | 89   | 平成5  | 1993 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅦ        | 千歳市           | 美々8          | 1           | 0   | 84  |
| 37 | 北埋調報   | 90   | 平成5  | 1993 | オサツトー1・キウス7遺跡      | 千歳市           | オサツトー1       | 1           | 0   | 0   |
| 38 | 北埋調報   | 90   | 平成5  | 1993 | オサツトー1・キウス7遺跡      | 千歳市           | キウス7         | 4           | 14  | 13  |
| 39 | 北埋調報   | 92   | 平成6  | 1994 | キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡  | 千歳市           | キウス5         | 9           | 33  | 12  |
| 40 | 北埋調報   | 92   | 平成6  | 1994 | キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡  | 千歳市           | キウス7         | 1           | 5   | 7   |
| 41 | 北埋調報   | 92   | 平成6  | 1994 | キウス5・7(2)・ケネフチ8遺跡  | 千歳市           | ケネフチ8        | 1           | 5   | 0   |
| 42 | 北埋調報   | 96   | 平成6  | 1994 | オサツ2・14遺跡          | 千歳市           | オサツ2         | 4           | 20  | 117 |
| 43 | 北埋調報   | 96   | 平成6  | 1994 | オサツ2・14遺跡          | 千歳市           | オサツ14        | 7           | 31  | 16  |
| 44 | 北埋調報   | 100  | 平成7  | 1995 | ユカンボシC9遺跡          | 千歳市           | ユカンボシC9      | 3           | 25  | 33  |
| 45 | 北埋調報   | 102  | 平成7  | 1995 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅧ        | 千歳市           | 美々8          | 0           | 0   | 14  |
| 46 | 北埋調報   | 102  | 平成7  | 1995 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅧ        | 千歳市           | 美々8低湿部       | 2           | 168 | 10  |
| 47 | 北埋調報   | 103  | 平成7  | 1995 | オサツ2遺跡(2)          | 千歳市           | オサツ2         | 5           | 0   | 30  |
| 48 | 北埋調報   | 104  | 平成7  | 1995 | キウス5遺跡(2)          | 千歳市           | キウス5         | 9           | 89  | 18  |
| 49 | 北埋調報   | 105  | 平成7  | 1995 | キウス7遺跡(3)          | 千歳市           | キウス7         | 15          | 97  | 110 |
| 50 | 北埋調報   | 113  | 平成8  | 1996 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅨ        | 千歳市           | 美々4          | 12          | 343 | 229 |
| 51 | 北埋調報   | 114  | 平成8  | 1996 | 美沢川流域の遺跡群ⅩⅩ        | 千歳市           | 美々8低湿部       | 1           | 0   | 0   |
| 52 | 北埋調報   | 115  | 平成8  | 1996 | キウス5遺跡(3)          | 千歳市           | キウス5         | 17          | 113 | 254 |
| 53 | 北埋調報   | 116  | 平成8  | 1996 | キウス5遺跡(4)B・C地区     | 千歳市           | キウス5         | 9           | 24  | 17  |
| 54 | 北埋調報   | 117  | 平成8  | 1996 | キウス7遺跡(4)          | 千歳市           | キウス7         | 8           | 29  | 0   |
| 55 | 北埋調報   | 119  | 平成8  | 1996 | キウス4遺跡             | 千歳市           | キウス4         | 4           | 37  | 1   |
| 56 | 北埋調報   | 124  | 平成9  | 1997 | キウス4遺跡(2)          | 千歳市           | キウス4         | 24          | 377 | 121 |
| 57 | 北埋調報   | 125  | 平成9  | 1997 | キウス5遺跡(5)A2地区      | 千歳市           | キウス5         | 11          | 151 | 159 |
| 58 | 北埋調報   | 126  | 平成9  | 1997 | キウス5遺跡(6)B・C地区     | 千歳市           | キウス5         | 4           | 46  | 1   |
| 59 | 北埋調報   | 127  | 平成9  | 1997 | キウス7遺跡(5)          | 千歳市           | キウス7         | 6           | 16  | 5   |
| 60 | 北埋調報   | 128  | 平成9  | 1997 | ユカンボシC15遺跡(1)      | 千歳市           | ユカンボシC15     | 3           | 36  | 81  |
| 61 | 北埋調報   | 133  | 平成10 | 1998 | ユカンボシC15遺跡(2)      | 千歳市           | ユカンボシC15     | 14          | 283 | 63  |
| 62 | 北埋調報   | 134  | 平成10 | 1998 | キウス4遺跡(3)A H K I地区 | 千歳市           | キウス4         | 42          | 302 | 234 |
| 63 | 北埋調報   | 135  | 平成10 | 1998 | キウス4遺跡(4)A2地区      | 千歳市           | キウス4         | 5           | 39  | 14  |
| 64 | 北埋調報   | 136  | 平成10 | 1998 | キウス5(7)キウス7(6)遺跡   | 千歳市           | キウス5         | 1           | 0   | 0   |
| 65 | 北埋調報   | 136  | 平成10 | 1998 | キウス5(7)キウス7(6)遺跡   | 千歳市           | キウス7         | 1           | 1   | 0   |
| 66 | 北埋調報   | 138  | 平成11 | 1999 | 柏台1遺跡              | 千歳市           | 柏台1          | 26          | 22  | 0   |

|     | シリーズ名称   | 発行年度      | 報告書名               | 所在地 | 遺跡名      | 掲載遺物<br>コンテナ数 | その他<br>コンテナ数 | 復元土器<br>個体数 |
|-----|----------|-----------|--------------------|-----|----------|---------------|--------------|-------------|
| 67  | 北埋調報 144 | 平成11 1999 | キウス4遺跡(5)          | 千歳市 | キウス4     | 11            | 33           | 40          |
| 68  | 北埋調報 146 | 平成11 1999 | ユカンボシC15遺跡(3)      | 千歳市 | ユカンボシC15 | 1             | 46           | 14          |
| 69  | 北埋調報 147 | 平成11 1999 | 対雁2遺跡(1)           | 江別市 | 対雁2      | 2             | 42           | 14          |
| 70  | 北埋調報 148 | 平成11 1999 | キウス4遺跡(6)          | 千歳市 | キウス4     | 7             | 16           | 2           |
| 71  | 北埋調報 152 | 平成12 2000 | キウス4遺跡(7)          | 千歳市 | キウス4     | 18            | 109          | 45          |
| 72  | 北埋調報 157 | 平成12 2000 | キウス4遺跡(8)          | 千歳市 | キウス4     | 49            | 519          | 380         |
| 73  | 北埋調報 159 | 平成12 2000 | ユカンボシC15遺跡(4)      | 千歳市 | ユカンボシC15 | 1             | 1            | 3           |
| 74  | 北埋調報 160 | 平成12 2000 | 対雁2遺跡(2)           | 江別市 | 対雁2      | 5             | 32           | 41          |
| 75  | 北埋調報 173 | 平成13 2001 | チブニー1・チブニー2遺跡      | 千歳市 | チブニー1    | 4             | 14           | 33          |
| 76  | 北埋調報 173 | 平成13 2001 | チブニー1・チブニー2遺跡      | 千歳市 | チブニー2    | 1             | 5            | 0           |
| 77  | 北埋調報 174 | 平成13 2001 | ケネフチ9遺跡            | 千歳市 | ケネフチ9    | 2             | 10           | 1           |
| 78  | 北埋調報 176 | 平成13 2001 | ユカンボシC15遺跡(5)      | 千歳市 | ユカンボシC15 | 0             | 0            | 0           |
| 79  | 北埋調報 177 | 平成13 2001 | 対雁2遺跡(3)           | 江別市 | 対雁2      | 1             | 6            | 69          |
| 80  | 北埋調報 178 | 平成14 2002 | 西島松5遺跡             | 恵庭市 | 西島松5     | 68            | 218          | 97          |
| 81  | 北埋調報 180 | 平成14 2002 | キウス4遺跡(9)          | 千歳市 | キウス4     | 90            | 1,623        | 696         |
| 82  | 北埋調報 187 | 平成14 2002 | キウス4遺跡(10)         | 千歳市 | キウス4     | 0             | 0            | 0           |
| 83  | 北埋調報 188 | 平成14 2002 | オリイカ1遺跡            | 千歳市 | オリイカ1    | 2             | 32           | 2           |
| 84  | 北埋調報 189 | 平成14 2002 | オリイカ2遺跡            | 千歳市 | オリイカ2    | 5             | 17           | 4           |
| 85  | 北埋調報 192 | 平成14 2002 | ユカンボシC15遺跡(6)      | 千歳市 | ユカンボシC15 | 0             | 59           | 0           |
| 86  | 北埋調報 193 | 平成14 2002 | 対雁2遺跡(4)           | 江別市 | 対雁2      | 41            | 81           | 36          |
| 87  | 北埋調報 194 | 平成15 2003 | 西島松5遺跡(2)          | 恵庭市 | 西島松5     | 7             | 21           | 19          |
| 88  | 北埋調報 204 | 平成15 2003 | 対雁2遺跡(5)           | 江別市 | 対雁2      | 3             | 5            | 11          |
| 89  | 北埋調報 206 | 平成15 2003 | オリイカ1遺跡(2)         | 千歳市 | オリイカ1    | 1             | 2            | 2           |
| 90  | 北埋調報 207 | 平成15 2003 | チブニー2遺跡(2)         | 千歳市 | チブニー2    | 2             | 12           | 12          |
| 91  | 北埋調報 209 | 平成16 2004 | 西島松5遺跡(3)          | 恵庭市 | 西島松5     | 55            | 455          | 467         |
| 92  | 北埋調報 215 | 平成16 2004 | 対雁2遺跡(6)           | 江別市 | 対雁2      | 0             | 1            | 0           |
| 93  | 北埋調報 221 | 平成17 2005 | オリイカ2遺跡(2)         | 千歳市 | オリイカ2    | 23            | 34           | 10          |
| 94  | 北埋調報 224 | 平成18 2006 | 西島松5遺跡(4)          | 恵庭市 | 西島松5     | 10            | 27           | 22          |
| 95  | 北埋調報 225 | 平成17 2005 | チブニー2遺跡(3)         | 千歳市 | チブニー2    | 31            | 7            | 27          |
| 96  | 北埋調報 226 | 平成17 2005 | 対雁2遺跡(7)           | 江別市 | 対雁2      | 16            | 38           | 41          |
| 97  | 北埋調報 231 | 平成18 2006 | 対雁2遺跡(8)           | 江別市 | 対雁2      | 33            | 49           | 429         |
| 98  | 北埋調報 238 | 平成18 2006 | 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡      | 千歳市 | 梅川2      | 3             | 5            | 6           |
| 99  | 北埋調報 238 | 平成18 2006 | 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡      | 千歳市 | 祝梅川上田    | 5             | 9            | 4           |
| 100 | 北埋調報 240 | 平成18 2006 | 対雁2遺跡(9)           | 江別市 | 対雁2      | 13            | 14           | 22          |
| 101 | 北埋調報 248 | 平成20 2008 | 西島松3・5遺跡(5)        | 恵庭市 | 西島松5     | 33            | 486          | 140         |
| 102 | 北埋調報 251 | 平成19 2007 | キウス5遺跡(8)          | 千歳市 | キウス5     | 3             | 17           | 10          |
| 103 | 北埋調報 252 | 平成19 2007 | キウス9遺跡             | 千歳市 | キウス9     | 13            | 49           | 181         |
| 104 | 北埋調報 253 | 平成20 2008 | 梅川4遺跡(1)           | 千歳市 | 梅川4      | 8             | 20           | 51          |
| 105 | 北埋調報 255 | 平成19 2007 | 対雁2遺跡(10)          | 江別市 | 対雁2      | 1             | 2            | 4           |
| 106 | 北埋調報 260 | 平成21 2009 | 西島松5遺跡(6)          | 恵庭市 | 西島松5     | 39            | 53           | 11          |
| 107 | 北埋調報 265 | 平成21 2009 | 西島松2遺跡             | 恵庭市 | 西島松2     | 93            | 437          | 168         |
| 108 | 北埋調報 267 | 平成21 2009 | オリイカ2遺跡(3)         | 千歳市 | オリイカ2    | 3             | 6            | 53          |
| 109 | 北埋調報 268 | 平成21 2009 | アンカリトー7・9遺跡        | 千歳市 | アンカリトー7  | 3             | 10           | 3           |
| 110 | 北埋調報 268 | 平成21 2009 | アンカリトー7・9遺跡        | 千歳市 | アンカリトー9  | 8             | 1            | 0           |
| 111 | 北埋調報 269 | 平成21 2009 | 梅川4遺跡(2)           | 千歳市 | 梅川4      | 8             | 57           | 20          |
| 112 | 北埋調報 284 | 平成23 2011 | キウス5遺跡(9)          | 千歳市 | キウス5     | 5             | 22           | 134         |
| 113 | 北埋調報 285 | 平成23 2011 | 祝梅川小野遺跡(1)梅川1遺跡(1) | 千歳市 | 祝梅川小野    | 31            | 180          | 81          |
| 114 | 北埋調報 285 | 平成23 2011 | 祝梅川小野遺跡(1)梅川1遺跡(1) | 千歳市 | 梅川1      |               | 2            | 2           |
| 115 | 北埋調報 296 | 平成24 2012 | 対雁2遺跡(11)          | 江別市 | 対雁2      | 18            | 85           | 101         |
| 116 | 北埋調報 297 | 平成24 2012 | 祝梅川小野遺跡(2)梅川1遺跡(2) | 千歳市 | 祝梅川小野    | 7             | 27           | 54          |
| 117 | 北埋調報 297 | 平成24 2012 | 祝梅川小野遺跡(2)梅川1遺跡(2) | 千歳市 | 梅川1      | 1             | 3            | 3           |
| 118 | 北埋調報 299 | 平成24 2012 | キウス5遺跡(10)         | 千歳市 | キウス5     | 30            | 112          | 56          |
| 119 | 北埋調報 300 | 平成24 2012 | 祝梅川上田遺跡(2)         | 千歳市 | 祝梅川上田    | 5             | 30           | 13          |
| 120 | 北埋調報 306 | 平成25 2013 | 梅川4遺跡(3)           | 千歳市 | 梅川4      | 55            | 201          | 183         |
| 121 | 北埋調報 307 | 平成25 2013 | 祝梅川小野遺跡(3)梅川1遺跡(3) | 千歳市 | 祝梅川小野    | 2             | 8            | 0           |
| 122 | 北埋調報 307 | 平成25 2013 | 祝梅川小野遺跡(3)梅川1遺跡(3) | 千歳市 | 梅川1      | 35            | 108          | 0           |
| 123 | 北埋調報 323 | 平成27 2015 | キウス3遺跡・キウス11遺跡     | 千歳市 | キウス3     | 2             | 3            | 8           |
| 124 | 北埋調報 323 | 平成27 2015 | キウス3遺跡・キウス11遺跡     | 千歳市 | キウス11    | 13            | 33           | 36          |

|                    |  |  |  |  |     |       |       |       |
|--------------------|--|--|--|--|-----|-------|-------|-------|
| (道教委・道埋文センター発掘調査分) |  |  |  |  | 合 計 | 1,307 | 9,743 | 6,400 |
|--------------------|--|--|--|--|-----|-------|-------|-------|

|    |       |          |                            |     |       |    |    |    |
|----|-------|----------|----------------------------|-----|-------|----|----|----|
| 1  | 保第 2  | 平成7 1995 | ボンオサツ・ケネフチ5                | 千歳市 | ボンオサツ | 2  | 1  | 18 |
| 2  | 保第 2  | 平成7 1995 | ボンオサツ・ケネフチ5                | 千歳市 | ケネフチ5 | 5  | 42 | 0  |
| 3  | 保第 3  | 平成7 1995 | オサツ15・16・18                | 千歳市 | オサツ15 | 1  | 14 | 1  |
| 4  | 保第 3  | 平成7 1995 | オサツ15・16・18                | 千歳市 | オサツ16 | 4  | 44 | 14 |
| 5  | 保第 3  | 平成7 1995 | オサツ15・16・18                | 千歳市 | オサツ18 | 1  | 1  | 0  |
| 6  | 保第 5  | 平成8 1996 | ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2) | 千歳市 | ボンオサツ | 1  | 1  | 0  |
| 7  | 保第 5  | 平成8 1996 | ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2) | 千歳市 | オサツ18 | 1  | 1  | 8  |
| 8  | 保第 5  | 平成8 1996 | ボンオサツ(2)・オサツ18(2)・ケネフチ5(2) | 千歳市 | ケネフチ5 | 5  | 14 | 2  |
| 9  | 保第 6  | 平成8 1996 | オサツ15(2)                   | 千歳市 | オサツ15 | 5  | 47 | 7  |
| 10 | 保第 7  | 平成8 1996 | オサツ16(2)                   | 千歳市 | オサツ16 | 13 | 28 | 8  |
| 11 | 保第 8  | 平成9 1997 | オサツ15(3)                   | 千歳市 | オサツ15 | 6  | 26 | 4  |
| 12 | 保第 9  | 平成9 1997 | オサツ16(3)                   | 千歳市 | オサツ16 | 2  | 14 | 0  |
| 13 | 保第 10 | 平成9 1997 | ケネフチ5(3)                   | 千歳市 | ケネフチ5 | 11 | 68 | 23 |

|             |  |  |  |  |     |    |     |    |
|-------------|--|--|--|--|-----|----|-----|----|
| (保護協会発掘調査分) |  |  |  |  | 合 計 | 57 | 301 | 85 |
|-------------|--|--|--|--|-----|----|-----|----|

|       |  |  |  |  |  |       |        |       |
|-------|--|--|--|--|--|-------|--------|-------|
| 総 合 計 |  |  |  |  |  | 1,364 | 10,044 | 6,485 |
|-------|--|--|--|--|--|-------|--------|-------|

## 2 図書資料

### (1) 購入図書一覧

| 番号 | 書名                                      | 編著者名                                | 出版者         |
|----|---|-------------------------------------|-------------|
| 1  | コメを食べていなかった？弥生人（市民の考古学第14巻）             | 谷畑美帆 著                              | 同成社         |
| 2  | 日本ヒスイの本                                 | 北出幸男 著                              | 青弓社         |
| 3  | 貨幣考古学の世界（考古調査ハンドブック15）                  | 櫻木晋一 編                              | ニュー・サイエンス社  |
| 4  | 朱丹の世界（考古調査ハンドブック14）                     | 市毛 勲 著                              | ニュー・サイエンス社  |
| 5  | 律令国家と斎宮（考古調査ハンドブック13）                   | 駒田利治 編                              | ニュー・サイエンス社  |
| 6  | S H A R K S 海の怪獣たち                      | ロブ・コルソン 文／黒輪篤嗣 訳                    | 辰巳出版        |
| 7  | 博物館のひみつ 保管・展示方法から学芸員の仕事まで（楽しい調べ学習シリーズ）  | 斎藤靖二 監修                             | PHP研究所      |
| 8  | 地球のひみつをさぐる 楽しいしかけがいっぱい！                 | クリシチアーナ・ドリオン 文／ビヴァリアー・ヤング 絵／福本友美子 訳 | ひさかたチャイルド   |
| 9  | 道具からみる昔のくらしと子どもたち1 家の仕事                 | 須藤 功                                | 農山漁村文化協会    |
| 10 | 道具からみる昔のくらしと子どもたち2 あそび                  | 須藤 功                                | 農山漁村文化協会    |
| 11 | 道具からみる昔のくらしと子どもたち3 のら仕事                 | 須藤 功                                | 農山漁村文化協会    |
| 12 | 石ころ博士入門                                 | 高橋直樹・大木淳一 著                         | 全国農村教育協会    |
| 13 | ドラえもんふしぎのストーリー1 日本はじまる！ 旧石器時代           | 藤子・F・不二雄 ほか                         | 小学館         |
| 14 | 日本の歴史 集英社版学習まんが 全面新版 特価セット 20巻セット       | 設楽博己 ほか監修                           | 集英社         |
| 15 | モノから見たアイヌ文化史                            | 関根達人                                | 吉川弘文館       |
| 16 | アイヌ民族と熊（ひぐま） 熊儀礼の起源と発展                  | 門崎允昭 著                              | 北海道出版企画センター |
| 17 | 骨の博物館3 恐竜の骨                             | ロブ・コルソン 文／黒輪篤嗣 訳                    | 辰巳出版        |
| 18 | はじめての古生物学                               | 柴 正博 著                              | 東海大学出版部     |
| 19 | 3D地形図で歩く日本の活断層                          | 柴山元彦 著                              | 創元社         |
| 20 | 漆学 植生、文化から有機化学まで                        | 宮越哲雄 著                              | 明治大学出版会     |
| 21 | G I Sと地理空間情報                            | 橋本雄一 編                              | 古今書院        |
| 22 | 地中レーダーを応用した遺跡探査 G P Rの原理と利用（東北アジア学術読本6） | 佐藤源之、金田明大、高橋一徳 編著                   | 東北大学出版会     |
| 23 | 観光資源としての博物館                             | 中村浩、青木豊                             | 芙蓉書房出版      |
| 24 | 北海道島のヒシ 道南部編                            | 河野本道、後藤朱美 著                         | 北海道出版企画センター |
| 25 | 食の人類史 ユーラシアの狩猟・採集、農耕、遊牧                 | 佐藤洋一郎 著                             | 中央公論新社      |
| 26 | ここまで変わった日本史教科書                          | 高橋秀樹、三谷芳幸、村瀬信一                      | 吉川弘文館       |
| 27 | 写真で見る植物用語                               | 岩瀬 徹、大野啓一 著                         | 全国農村教育協会    |

### (2) 受領刊行物一覧（\*所在地市町村コード順に掲載。平成28年1月1日～平成29年1月31日受領分。）

| 番号 | [北海道]                                   |
|----|---|
|    | 北海道大学総合博物館                              |
| 1  | 北海道大学総合博物館研究報告 第8号 オホーツク文化の研究4 目梨泊遺跡(1) |
| 2  | 北海道大学総合博物館ニュース 第33号                     |
| 3  | 北海道大学総合博物館ニュース 第34号                     |
|    | 北海道大学 総務企画部広報課                          |
| 4  | LITTERAE POPULI Vol.57 / Spring 2016    |
| 5  | LITTERAE POPULI Vol.58 / Autumn 2016    |
|    | 公益財団法人 北海道文学館                           |
| 6  | 平成26年度 年報                               |
|    | 北海道環境生活部文化振興課縄文世界遺産推進室                  |
| 7  | 北海道の縄文文化（日本語版）                          |
| 8  | 北海道の縄文文化（英語版）                           |
|    | 北海道教育庁生涯学習推進局                           |
| 9  | 平成27年度アイヌ民俗文化財調査報告書 アイヌ民俗技術調査 7         |
| 10 | アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズ 52 肩だけふれて 鳥の羽毛の衣       |
| 11 | アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズ 53 年若い私の姉三度土の倉につくられる   |
| 12 | アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズ 54 トゥミアンレウケブ カニアンレウケブ  |
|    | 札幌市教育委員会                                |
| 13 | 札幌市文化財調査報告書 103 C551遺跡                  |
|    | 札幌市埋蔵文化財センター                            |
| 14 | 丘珠縄文遺跡調査報告書 1 H508遺跡 一平成25・26年度調査一      |
| 15 | 丘珠縄文遺跡の調査 1 平成25・26年度調査 概要版             |
| 16 | 市内遺跡発掘調査報告書 8 平成27年度 調査報告書              |
| 17 | 札幌市埋蔵文化財包蔵地分布図 平成27年度版                  |
|    | リクルート北海道じゃらん                            |
| 18 | 北海道じゃらん 2017年1月号 No.285                 |
| 19 | ママじゃらん北海道 2016春夏号                       |
|    | 北海道博物館                                  |
| 20 | 夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界                  |
| 21 | 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第1号             |
| 22 | 北海道博物館研究紀要 第1号                          |

|    |                     |              |                                |
|----|---------------------|--------------|--------------------------------|
|    | 一般財団法人北海道歴史文化財団     | 野外博物館        | 北海道開拓の村                        |
| 23 | 野外博物館               | 北海道開拓の村      | 村民だより VOL.34 2016年春号           |
| 24 | 野外博物館               | 北海道開拓の村      | 村民だより VOL.35 2016年夏号           |
| 25 | 野外博物館               | 北海道開拓の村      | 村民だより VOL.36 2016年秋号           |
| 26 | 野外博物館               | 北海道開拓の村      | 村民だより VOL.37 2016年冬号           |
|    | 三笠市立博物館             |              |                                |
| 27 | 三笠市立博物館年報           | 第33号         | 2014年度                         |
|    | 恵庭市郷土資料館            | 資料館担当        |                                |
| 28 | 恵庭市郷土資料館年報          | 19           |                                |
|    | 有島記念館               |              |                                |
| 29 | 有島記念館館報             | VOL.15       |                                |
|    | 美幌町教育委員会            |              |                                |
| 30 | 美幌町埋蔵文化財各種開発確認調査報告書 |              |                                |
|    | ひがし大雪自然館            |              |                                |
| 31 | ひがし大雪自然館研究報告        | 第3号          |                                |
|    | 浦幌町立博物館             |              |                                |
| 32 | 浦幌町立博物館             | 紀要           | 第16号                           |
| 33 | 浦幌町立博物館             | 年報           | 第16号                           |
|    | [青森]                |              |                                |
|    | 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会  |              |                                |
| 34 | 公立埋分協会報             | 第56号         |                                |
| 35 | 公立埋分協会報             | 第57号         |                                |
|    | 青森県七戸町世界遺産対策室       |              |                                |
| 36 | 史跡ニッ森貝塚保存活用計画書      |              |                                |
|    | [秋田]                |              |                                |
|    | 秋田県立博物館             |              |                                |
| 37 | Museum News         | 秋田県立博物館ニュース  | No.162                         |
| 38 | Museum News         | 秋田県立博物館ニュース  | No.163                         |
| 39 | 秋田県立博物館研究報告         | 第41号         |                                |
| 40 | 秋田県立博物館             | 年報           | 平成28年度                         |
|    | [福島]                |              |                                |
|    | 福島県教育庁              |              |                                |
| 41 | 福島県文化財調査報告書         | 第504集        | 福島県内遺跡分布調査報告 22                |
| 42 | 福島県文化財調査報告書         | 第505集        | 会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告 16             |
| 43 | 福島県文化財調査報告書         | 第506集        | 浅見川地区防災緑地関連遺跡発掘調査報告            |
| 44 | 福島県文化財調査報告書         | 第507集        | 県道北泉小高線関連遺跡発掘調査報告 1            |
| 45 | 福島県文化財調査報告書         | 第508集        | 農山漁村地域復興基盤総合整備事業 関連遺跡調査報告 1    |
| 46 | 福島県文化財調査報告書         | 第509集        | 一般国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査報告 3       |
| 47 | 福島県文化財調査報告書         | 第510集        | 東日本大震災復興関連遺跡調査報告 2             |
| 48 | 福島県文化財調査報告書         | 第511集        | 一般国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査報告 4       |
|    | 会津若松市教育委員会          |              |                                |
| 49 | 会津若松市文化財調査報告書       | 第139号        | 若松城郭内武家屋敷跡 長谷川五郎左衛門邸跡          |
| 50 | 会津若松市文化財調査報告書       | 第141号        | 若松城郭内武家屋敷跡 築瀬三左衛門邸跡            |
| 51 | 会津若松市文化財調査報告書       | 第142号        | 若松城三ノ丸跡発掘調査報告書Ⅱ                |
| 52 | 会津若松市文化財調査報告書       | 第143号        | 若松城郭内武家屋敷跡                     |
| 53 | 会津若松市文化財調査報告書       | 第144号        | 若松城郭内武家屋敷跡 高橋外記邸跡              |
| 54 | 会津若松市文化財調査報告書       | 第146号        | 蚕養窯跡                           |
| 55 | 会津若松市文化財調査報告書       | 第147号        | 若松城郭内武家屋敷跡 本一ノ丁跡Ⅰ              |
| 56 | 会津若松市文化財調査報告書       | 第148号        | 史跡若松城跡Ⅷ                        |
|    | [栃木]                |              |                                |
|    | 栃木県教育委員会            |              |                                |
| 57 | 栃木県立なす風土記の丘資料館年報    | 第23号         | (平成26年度版)                      |
| 58 | 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館年報  | 第29号         | (平成26年度版)                      |
| 59 | 栃木県埋蔵文化財調査報告        | 第376集        | 栃木県埋蔵文化財保護行政年報 38 平成26年度(2014) |
| 60 | 栃木県埋蔵文化財調査報告        | 第377集        | 鹿島前遺跡                          |
| 61 | 栃木県埋蔵文化財調査報告        | 第378集        | 岩舟台遺跡                          |
| 62 | 栃木県埋蔵文化財調査報告        | 第379集        | 大塚遺跡                           |
| 63 | 栃木県埋蔵文化財調査報告        | 第380集        | 金山遺跡(第2・第3次調査)                 |
| 64 | 栃木県埋蔵文化財調査報告        | 第381集        | 雀宮遺跡                           |
| 65 | 栃木県埋蔵文化財調査報告        | 第382集        | 舟戸台北遺跡                         |
| 66 | 栃木県埋蔵文化財調査報告        | 第383集        | 横倉遺跡・横倉戸館古墳群                   |
|    | 公益財団法人とちぎ未来づくり財団    | 埋蔵文化財センター    |                                |
| 67 | 研究紀要                | 第24号         |                                |
| 68 | とちぎ発掘調査成果情報誌No.57   | 鹿島前遺跡        |                                |
| 69 | とちぎ発掘調査成果情報誌No.58   | 岩舟台遺跡        |                                |
| 70 | とちぎ発掘調査成果情報誌No.59   | 金山遺跡         | 第2・3次調査                        |
| 71 | とちぎ発掘調査成果情報誌No.60   | 舟戸台北遺跡       |                                |
| 72 | とちぎ発掘調査成果情報誌No.61   | 横倉遺跡・横倉戸館古墳群 |                                |
| 73 | 栃木県埋蔵文化財センターだより     | 2015年10月     |                                |
| 74 | 栃木県埋蔵文化財センターだより     | 2015年12月     |                                |
| 75 | 栃木県埋蔵文化財センターだより     | 2016年3月      |                                |
| 76 | 遺跡の発掘と活用の記録         | 平成27年度       | 埋蔵文化財センター年報                    |
| 77 | 埋蔵文化財センター年報         | 第25号         | (平成27年度版)                      |

|     |   |
|-----|---|
|     | [埼玉]  |
|     | 埼玉県立歴史と民俗の博物館   |
| 78  | 企画展「蔵出し資料一館有コレクションの優品―」解説リーフレット                           |
|     | 所沢市立埋蔵文化財調査センター   |
| 79  | 所沢市埋蔵文化財調査報告書 第66集 駿河台遺跡 第4次調査                            |
| 80  | 所沢市埋蔵文化財調査報告書 第67集 市内遺跡調査報告 22 下安松遺跡第9次調査                 |
| 81  | 所沢市埋蔵文化財調査報告書 第68集 膳棚遺跡 第10・11次調査                         |
| 82  | 所沢市立埋蔵文化財調査センター 年報 No.21 (平成26年度)                         |
|     | 吉見町教育委員会/吉見町埋蔵文化財センター                                     |
| 83  | 吉見町埋蔵文化財調査報告書 第15集 町内遺跡 10                                |
|     | [東京]  |
|     | 駿台史学会   |
| 84  | 駿台史學 第156号  |
| 85  | 駿台史學 第157号  |
| 86  | 駿台史學 第158号  |
|     | 文化庁   |
| 87  | 東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護 中間報告                                    |
| 88  | 埋蔵文化財関係統計資料 平成27年度  |
| 89  | 日本における水中遺跡保護の在り方について(中間まとめ)                               |
|     | 公益財団法人日本文化財保護協会   |
| 90  | 埋蔵文化財調査要覧 平成28年度  |
|     | 港区教育委員会   |
| 91  | 但馬出石藩千石家屋敷跡   |
| 92  | 港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告60 [TM10・11-2] 港区No.10・11-2 遺跡 発掘調査報告書 |
| 93  | 港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告61 [TM175] 肥前五島(福江)藩五島家屋敷跡遺跡発掘調査報告書    |
| 94  | 港区埋蔵文化財調査年報13 平成26年度の調査                                   |
|     | 港区立港郷土資料館   |
| 95  | 港郷土資料館報33   |
| 96  | 資料館だより 第77号   |
| 97  | 研究紀要18 平成27年度   |
|     | 株式会社文藝春秋  |
| 98  | 日本人はどこから来たのか?   |
|     | 中日新聞東京本社  |
| 99  | 東京新聞 2016年1月20日(夕刊)                                       |
|     | 株式会社アム・プロモーション  |
| 100 | 縄文カレンダー2017   |
|     | 株式会社新泉社   |
| 101 | 縄文時代史   |
|     | 国立科学博物館   |
| 102 | 世界遺産ラスコー展図録   |
|     | 渋谷区教育委員会  |
| 103 | 東京都渋谷区代官山遺跡第2地点 渋谷区代官山町14番15号の調査                          |
| 104 | 東京都渋谷区富ヶ谷遺跡第1地点   |
|     | 株式会社国書刊行会   |
| 105 | 縄文人の世界観   |
|     | 編集工房ペンハウス 相庭泰志  |
| 106 | 今こそ知りたいアイヌ  |
|     | 共和開発株式会社 調査部  |
| 107 | 東京都渋谷区 千駄ヶ谷大谷戸遺跡第3地点 -共同住宅建設に伴う事前調査-                      |
|     | [神奈川]   |
|     | 神奈川県教育委員会教育局  |
| 108 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書47 上粕屋・和田内遺跡第5次調査                         |
| 109 | 神奈川県埋蔵文化財調査報告61 平成26年度 神奈川県内埋蔵文化財発掘調査一覧                   |
| 110 | 平成27年度 かながわの遺跡展 かながわの遺跡巡回展 縄文の海 縄文の森                      |
| 111 | 神奈川県埋蔵文化財センター 年報27 2014(平成26)年度                           |
|     | 株式会社玉川文化財研究所  |
| 112 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書37 煤ヶ谷古在家遺跡第2地点                           |
| 113 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書41 船久保遺跡第2次調査                             |
| 114 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書42 西富岡・長竹遺跡第2次調査                          |
| 115 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書44 独園寺やぐら群第3次調査                           |
| 116 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書46 用田大河内遺跡Ⅲ                               |
| 117 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書48 上粕屋・鳥居崎遺跡第3次調査                         |
| 118 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書49 名越坂北やぐら群                               |
|     | 公益財団法人かながわ考古学財団   |
| 119 | かながわ考古学財団調査報告309 倉見川登遺跡 第1次調査                             |
| 120 | かながわ考古学財団調査報告312 上粕屋・一ノ郷南遺跡 上粕屋・和田内遺跡                     |
| 121 | かながわ考古学財団調査報告314 宮山中里遺跡Ⅱ                                  |
| 122 | かながわ考古学財団調査報告315 戸田小柳遺跡                                   |
| 123 | かながわ考古学財団調査報告316 小原台堡塁跡・小原第3遺跡 第2次調査                      |
| 124 | かながわ考古学財団調査報告317 宮山中里遺跡Ⅲ                                  |
| 125 | 研究紀要 21 かながわの考古学  |
|     | 株式会社アーク・フィールドワークシステム                                      |
| 126 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書43 南仮宿遺跡Ⅷ地点                               |

|     |   |
|-----|---|
| 127 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書50 下大曲一丁目遺跡                             |
| 128 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書51 神成松遺跡第9地点<br>大成エンジニアリング株式会社 埋蔵文化財調査部 |
| 129 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書39 神成松遺跡第6地点<br>専修大学考古学会                |
| 130 | 専修考古学 第15号<br>有限会社吾妻考古学研究所 横須賀調査室                       |
| 131 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書45 日向・東新田原遺跡<br>横浜市歴史博物館                |
| 132 | 横浜市歴史博物館 NEWS 40<br>国際文化財株式会社                           |
| 133 | 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書40 上粕屋・和田内遺跡第2次調査<br>株式会社斉藤建設埋蔵文化財調査部   |
| 134 | 長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書   |
|     | [新潟]  |
|     | 新潟市文化財センター  |
| 135 | 細池寺道上遺跡Ⅴ 第32・38・41次調査 西江浦遺跡 第6次調査                       |
| 136 | 沖ノ羽遺跡Ⅵ 第19・22・24次調査                                     |
| 137 | 中谷内遺跡Ⅳ 第12・15・16次調査 内野遺跡Ⅱ 第8・9次調査                       |
| 138 | 峰岡上町遺跡 第3次調査  |
| 139 | 下新田遺跡 第6・8・9次調査   |
| 140 | 細池寺道上遺跡Ⅳ 第43次調査   |
| 141 | 新潟市文化財センター年報 第2号 平成25(2013)年度版一                         |
| 142 | 平成27年度 史跡古津八幡山弥生の丘展示館 企画展関連講演会記録集<br>敬和学園大学 新発田学研究センター  |
| 143 | 年報 新発田学 第7号<br>農と縄文の体験実習館                               |
| 144 | 津南町文化財調査報告書 第69輯 赤沢城跡                                   |
| 145 | 津南町文化財調査報告書 第70輯 本ノ木遺跡第一次・二次発掘調査報告書 一山内清男資料整理報告一        |
|     | [富山]  |
|     | 富山県埋蔵文化財センター  |
| 146 | 特別展霊峰立山 一立山信仰を探る一                                       |
| 147 | 富山県埋蔵文化財センター 年報 平成26年度                                  |
| 148 | 埋文とやま VOL.132   |
| 149 | 埋文とやま VOL.133   |
| 150 | 埋文とやま VOL.134   |
| 151 | 埋文とやま VOL.135   |
| 152 | 埋文とやま VOL.136   |
|     | [福井]  |
|     | 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター                                       |
| 153 | 特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡45 平成26年度環境整備事業概報・劣化対応事業中間報告               |
| 154 | 特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告12 第64・65次調査(南陽寺跡)                   |
| 155 | 特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告13 第92・97・98次調査(御所・安養寺跡)             |
|     | [山梨]  |
|     | 山梨県立考古博物館   |
| 156 | 山梨県立考古博物館だより No.81                                      |
| 157 | 山梨県立考古博物館だより No.82                                      |
| 158 | 第34回特別展 よみがえる武士の魂<br>公益財団法人山梨文化財研究所                     |
| 159 | 甲府市文化財調査報告80 甲府城跡(屋形曲輪地点)                               |
| 160 | 甲府市文化財調査報告84 榎田遺跡                                       |
| 161 | 甲府市文化財調査報告85 甲府城下町遺跡ⅩⅦ<br>韮崎市教育委員会                      |
| 162 | 山影遺跡Ⅵ   |
| 163 | 平成21年度 市内遺跡試掘確認調査及び個人住宅等発掘調査報告書                         |
| 164 | 夏目下新田石積遺跡   |
| 165 | 山道遺跡発掘調査報告書   |
| 166 | 上横屋遺跡第4地点   |
| 167 | 史跡 新府城跡   |
| 168 | 平成26年度 韮崎市内埋蔵文化財有無確認調査事業 市内遺跡発掘調査報告書<br>南アルプス市教育委員会     |
| 169 | 南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第46集 寺部村附第6遺跡 第Ⅳ地点                     |
| 170 | 南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第47集 平成26年度埋蔵文化財試掘調査報告書                |
| 171 | 南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第48集 永面B遺跡                             |
| 172 | 南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第49集 野牛島・石橋遺跡 第2地点                     |
| 173 | 山梨県南アルプス市文化財年報 平成27年度                                   |
|     | [岐阜]  |
|     | 岐阜県文化財保護センター  |
| 174 | 岐阜県文化財保護センター調査報告書 第137集 開拓地B地点遺跡                        |
| 175 | 岐阜県文化財保護センター調査報告書 第138集 番場遺跡<br>養老町教育委員会                |
| 176 | 養老町埋蔵文化財調査報告書7集 日吉遺跡発掘調査報告書                             |

|     |  |
|-----|--|
|     | [静岡]   |
|     | 株式会社フィフス・ディメンション   |
| 177 | エプタ Vol.76   |
|     | [三重]   |
|     | 松阪市埋蔵文化財センター   |
| 178 | 平成26年度 年報  |
|     | 志摩市教育委員会   |
| 179 | 志摩市埋蔵文化財調査報告 1 殿畑遺跡 (第2次) 発掘調査報告                               |
| 180 | 志摩市埋蔵文化財調査報告 2 阿津里貝塚試掘調査報告                                     |
| 181 | 志摩市埋蔵文化財調査報告 4 おじよか古墳 (志島古墳群11号墳) 発掘調査報告 金属製品編                 |
|     | [滋賀]   |
|     | 大津市教育委員会   |
| 182 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (79) 青江遺跡発掘調査報告書                                 |
| 183 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (82) 真野廃寺発掘調査報告書 I                               |
| 184 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (84) 堂ノ上遺跡発掘調査報告書                                |
| 185 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (85) 穴太遺跡 (南菊ノ尾地区) 発掘調査報告書                       |
| 186 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (86) 滋賀里遺跡発掘調査報告書Ⅳ                               |
| 187 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (87) 南滋賀遺跡発掘調査報告書Ⅵ                               |
| 188 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (88) 穴太銅込古墳群・穴太遺跡発掘調査報告書                         |
| 189 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (89) 中畑遺跡発掘調査報告書Ⅱ                                |
| 190 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (93) 曼陀羅山古墳群発掘調査報告書                              |
| 191 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (94) 近江国跡発掘調査報告書                                 |
| 192 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (95) 穴太遺跡 (下飴屋地区) 発掘調査報告書                        |
| 193 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (99) 穴太遺跡 (隅田地区) 発掘調査報告書                         |
| 194 | 大津市埋蔵文化財調査報告書 (100) 真野遺跡発掘調査報告書Ⅱ                               |
| 195 | 大津市埋蔵文化財調査年報 平成26 (2014) 年度                                    |
|     | 滋賀県教育委員会   |
| 196 | 一級河川大石川河川改修事業関係遺跡発掘調査報告書 大石城遺跡                                 |
| 197 | 一般国道1号線水口道路 (2工区) 工事に伴う発掘調査報告書 2 下川原遺跡 2                       |
| 198 | 国道421号道路整備工事に伴う発掘調査報告書 臨濟庵遺跡                                   |
| 199 | 葛木竜法師線都市計画街路工事に伴う発掘調査報告書 沢尻遺跡                                  |
| 200 | 県道六地藏草津線補助道路整備事業関係遺跡発掘調査報告書 岡遺跡                                |
| 201 | 国道422号補助道路整備工事に伴う発掘調査報告書 太子遺跡                                  |
| 202 | 滋賀県立成人病センター第二期改築工事に伴う発掘調査報告書 吉身西遺跡                             |
| 203 | 県営水質保全対策事業 (白鳥川中流域1期地区) に伴う発掘調査報告書 下羽田遺跡                       |
| 204 | 長命寺川支流補助通常砂防 (総流防) 工事に伴う発掘調査報告書 鳥遺跡                            |
|     | 守山市教育委員会   |
| 205 | 下之郷遺跡関連発掘調査報告書   |
|     | 守山市埋蔵文化財センター   |
| 206 | 守山市文化財調査報告書 平成26年度国庫補助対象遺跡発掘調査報告書                              |
| 207 | 下之郷遺跡確認調査報告書Ⅹ 第97次調査報告書  |
|     | 公益財団法人栗東市体育協会  |
| 208 | 栗東市埋蔵文化財調査報告 2014 (平成26) 年度 年報                                 |
| 209 | 栗東市 話題の発掘調査 はっくつ2015   |
| 210 | 栗東発掘再発見 VOL.6 中国陶磁器  |
| 211 | 平成27年度 特集展示 地のまつりと水のまつり  |
|     | [京都]   |
|     | 立命館大学文学部 考古学・文化遺産専攻  |
| 212 | 立命館大学文学部学芸員課程研究報告 第18冊 滋賀県米原市杉沢遺跡発掘調査報告 ー2011・2012年度の調査ー       |
|     | 京都府教育庁指導部  |
| 213 | 京都府埋蔵文化財調査報告書 平成27年度   |
|     | [大阪]   |
|     | 堺市文化観光局文化財課分室  |
| 214 | 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第153冊 長山古墳 (NGYK-1) 発掘調査概要報告                     |
| 215 | 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第154冊 堺環濠都市遺跡 (SKT1087) 発掘調査概要報告                 |
| 216 | 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第155冊 平成25・26年度市内遺跡立会調査概要報告                      |
| 217 | 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第156冊 堺環濠都市遺跡 (SKT1117) 発掘調査概要報告                 |
| 218 | 百舌鳥古墳群の調査 8  |
| 219 | 四ッ池遺跡 その8 昭和49年度 昭和53年度 発掘調査報告書                                |
| 220 | 平成26年度 国庫補助事業発掘調査報告書   |
| 221 | 第四回 百舌鳥古墳群講演会記録集 巨大古墳あらわる ～履中天皇陵古墳を考える～                        |
|     | 岸和田市教育委員会 生涯学習部郷土文化室   |
| 222 | 岸和田市文化財調査概要42 平成27年度発掘調査概要                                     |
|     | 公益財団法人大阪府文化財センター   |
| 223 | 公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書 第256集 茨木市 千提寺西遺跡 日奈戸遺跡 千提寺市阪遺跡 千提寺クルス山遺跡 |
| 224 | 公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書 第257集 和泉市 伯太藩陣屋跡・信太千塚古墳群                 |
| 225 | 公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書 第258集 柏原市 大泉郡条里遺跡 2                      |
| 226 | 公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書 第259集 高槻市 梶原古墳群                          |
| 227 | 公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書 第260集 高槻市 成合地獄谷遺跡 成合遺跡 2 金龍寺旧境内跡 3       |
| 228 | 公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書 第261集 高槻市 梶原西遺跡                          |
| 229 | 公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書 第262集 吹田市 吹田操車場遺跡11                      |
| 230 | 公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書 第263集 高槻市 磐手杜古墳群                         |
| 231 | 公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書 第264集 藤井寺市 川北遺跡 2                        |

|     |  |
|-----|--|
| 232 | 公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書 第265集 大阪市 大坂遺跡 6   |
| 233 | 公益財団法人大阪府文化財センター調査報告書 第266集 豊中市 服部遺跡   |
| 234 | 公益財団法人大阪府文化財センター年報 平成24年度  |
| 235 | 公益財団法人大阪府文化財センター年報 平成25年度  |
| 236 | 大阪文化財研究 第46号   |
| 237 | 大阪文化財研究 第47号   |
|     | [兵庫]   |
|     | 姫路市埋蔵文化財センター   |
| 238 | 国指定重要文化財 宮山古墳出土品   |
| 239 | 宮山古墳   |
| 240 | TSUBOHORI 2015 姫路市埋蔵文化財調査略報  |
| 241 | 御着城跡   |
| 242 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第32集 姫路城城下町跡  |
| 243 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第33集 辻井遺跡 -第31次発掘調査報告書-   |
| 244 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第34集 市之郷遺跡  |
| 245 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第35集 姫路城城下町跡  |
| 246 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第36集 畑田遺跡   |
| 247 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第37集 辻井廃寺 -第32次発掘調査報告書-   |
| 248 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第38集 君田遺跡発掘調査報告書  |
| 249 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第39集 辻井遺跡 -第33次発掘調査報告書-   |
| 250 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第40集 姫路城城下町跡  |
| 251 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第41集 姫路城城下町跡  |
|     | [和歌山]  |
|     | 公益財団法人和歌山県文化財センター  |
| 252 | 地宝のひびき 和歌山県内文化財調査報告会資料集  |
|     | [鳥取]   |
|     | 鳥取県埋蔵文化財センター   |
| 253 | 鳥取県埋蔵文化財センター調査報告61 青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告11 石器(2)  |
| 254 | 鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書62 乙亥正大角遺跡  |
| 255 | 青谷上寺地遺跡 発掘調査研究年報 2015  |
| 256 | 調査研究紀要 7   |
|     | 三朝町教育委員会   |
| 257 | 三徳山歴史遺産調査報告書 第4集 町内遺跡発掘調査報告書   |
| 258 | 三徳山歴史遺産調査報告書 第9集 名勝及び史跡 三徳山 発掘調査報告書 VII  |
|     | [鳥根]   |
|     | 鳥根県教育庁埋蔵文化財調査センター  |
| 259 | 国道432号大庭バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1 柳堀遺跡・茶臼遺跡・川原宮Ⅱ遺跡  |
| 260 | 一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業(大塚工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3 高浜Ⅰ遺跡(2区)   |
| 261 | 一般国道9号(朝山大田道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5 旭山遺跡・中尾Ⅱ遺跡(3区)  |
| 262 | 一般国道9号(朝山大田道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6 城ヶ谷遺跡(1区) 神谷遺跡 涼見Ⅱ遺跡  |
| 263 | 鳥根県教育庁 埋蔵文化財調査センター年報 24 平成27年度   |
|     | [岡山]   |
|     | 総社市教育委員会   |
| 264 | 総社市埋蔵文化財発掘調査報告24 茶臼嶽古墳   |
| 265 | 総社市埋蔵文化財発掘調査報告25 作山古墳測量調査報告書   |
| 266 | 総社市埋蔵文化財調査年報25(平成26年度)   |
|     | [広島]   |
|     | 公益財団法人広島県教育事業団 埋蔵文化財調査室  |
| 267 | 公益財団法人広島県教育事業団発掘調査報告書 第75集 国道313号道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(4) 御領遺跡(第6次調査2013)                          |
|     | 広島県立歴史博物館  |
| 268 | 広島県立歴史博物館 研究紀要 第18号  |
| 269 | 平成28年度 春の展示 願いをかなえ災いをはらう -遺跡から見つかった中世まじないの世界-  |
|     | [山口]   |
|     | 山口市教育委員会   |
| 270 | 山口市埋蔵文化財調査報告 第116集 大内氏築山跡 8  |
| 271 | 山口市埋蔵文化財調査報告 第117集 常徳寺庭園 2   |
| 282 | 山口市文化財年報 9 平成26(2014)年度  |
|     | [高知]   |
|     | 高知県教育委員会   |
| 273 | 文化財こうち 第2号   |
|     | [福岡]   |
|     | 九州大学大学院人文科学研究科考古学研究室   |
| 274 | Miyamoto, K. & Obata, H. ed. 2016 Excavations at Daram and Tevsh Sites. Kyushu University, Fukuoka |
|     | [長崎]   |
|     | 長崎原爆資料館  |
| 275 | 長崎原爆遺跡調査報告書(I)   |
|     | [宮崎]   |
|     | 宮崎県埋蔵文化財センター   |
| 276 | 宮崎県埋蔵文化財センター年報 第20号 平成28(2016)年度   |
|     | [鹿児島]  |
|     | 南種子町教育委員会  |
| 277 | 南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(18) 広田Ⅲ遺跡 横峯B・F遺跡 一陣長崎鼻遺跡   |

|     |   |
|-----|---|
|     | 鹿児島県立埋蔵文化財センター  |
| 278 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 186 金山水車（轟精錬所）跡                   |
| 279 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 187 鍛冶園遺跡                         |
| 280 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター 埋文だより 第69号                               |
| 281 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター 埋文だより 第70号                               |
| 282 | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 5 田原迫ノ上遺跡 1          |
| 283 | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 6 天神段遺跡 2 縄文時代前期～晩期編 |
| 284 | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 7 町田掘遺跡              |
| 285 | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 8 永吉天神段遺跡 第1地点       |
| 286 | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 9 白水B遺跡              |
| 287 | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 10 中郡遺跡群Ⅱ・中尾遺跡・前原遺跡  |
| 288 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター 埋文だより 第71号                               |
|     | 鹿児島国際大学 国際文化学部博物館実習施設                                   |
| 289 | 鹿児島国際大学 考古学ミュージアム調査研究報告 第13集                            |
|     | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター                            |
| 290 | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター要覧 平成28年度                   |
| 291 | かごしまの遺跡 第9号   |
| 292 | かごしまの遺跡 第10号  |
| 293 | かごしまの遺跡 第11号  |
| 294 | かごしまの遺跡 第12号  |



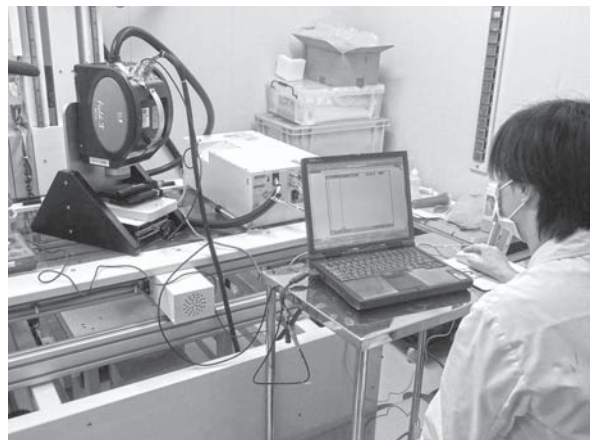
▲NHK北海道ヒストリー 北の縄文



▲年輪年代資料調査 酸素同位体分析準備



▲金属製品の保存処理 減圧樹脂含浸



▲金属製品等材質分析 蛍光X線分析

## IV 普及・啓発事業

### 1 展示公開

#### (1) 常設展示「掘り出された北の歴史」

展示にあたっては、国（文化庁）・七飯町・北斗市・今金町・木古内町・余市町・夕張市・長沼町・遠軽町の各教育委員会、市立函館博物館、知内町郷土資料館、芦別市星のふる里百年記念館に、展示品借用についての協力を得た。

また、企画展示との関係から、展示室とホールを併用して展示を行っている。

##### 〔千歳市ママチ遺跡出土土面展示〕

国指定重要文化財の「土面」（国保有、昭和63年6月6日指定）を常設展示している。「土面」は、縄文時代晩期終末のもので、昭和61年に千歳市ママチ遺跡から出土した。土面としては最も北方から出土したものである。

##### 〔遺跡調査と保護活用〕

北海道の遺跡分布、遺跡の調査や整理作業の実際、遺物の分析・保存処理の方法などについて展示・解説している。また、国宝や国指定重要文化財の複製品も展示している。

##### 〔石の道具〕

石は人類が最初に利用した素材の一つである。旧石器時代の石の道具は、破片の接合から高度な技術で製作されたことが明らかになっている。遠軽町（旧白滝村）白滝遺跡群、千歳市柏台1遺跡、今金町ピリカ遺跡（国指定史跡）、木古内町新道4遺跡出土の石器、接合資料などを展示した。

また、縄文時代には用途に応じて、それに適した石材を選び、様々な形の石器が作られた。その使用方法を図と復元模型でわかりやすく示している。

##### 〔木の道具〕

木の道具は、通常の遺跡では腐ってしまい残らないが、実際の生活の中では各所に使われていた。そのため、低湿性遺跡など腐食しにくい状況で出土した木の道具は、当時の人々の生活の様子を大変良く伝えてくれる。

千歳市美々8遺跡低湿部のアイヌ文化期の遺物のほか、ユカンボシC15遺跡の板綴舟、キウス4遺跡の縄文時代後期の脚付き容器などを展示している。展示品は保存処理後の遺物である。

千歳市美々8遺跡低湿部出土品は、平成17年6月9日国指定重要文化財に指定された。その一部を常設展示している。また、美々8遺跡の「美々ムラ」復元模型を置いている。



▲常設展示

##### 〔金属の道具〕

金属の道具は、人類が新しく手にしたものの一つである。刀・刀子・鍋等は交易品として北海道に入ってきたものが多く、これら道具類を手に入れるための交易が、北海道社会を変容させる一つの要因となった。

金属製品も腐食しやすい材質であり、展示品は保存処理を行っている。

##### 〔土の道具：土と火の造形〕

粘土を成形し火で焼き上げた土器は、人類が最初に手に入れた火にかけられる容器である。土器の使用により、食材の利用範囲が大きく拡大して、縄文時代の生活の安定がもたらされたと考えられている。

土器には自由な造形ができる粘土を使用しているため、時代とともに文様や形が様々に変化しており、時には機能を超越した、変わった形態や美しさをかもし出すものがある。

##### 〔こころの道具〕

「装いとこころ」：身を飾った装身具には、ヒスイ製、コハク製などの各種玉、珠状耳飾り、土製の耳栓などがあり、当時の人々のおしゃれごころや精神生活の一端をみせてくれる。

「墓と副葬品」：墓の副葬品は、当時の生活用具をセットでみせてくれるとともに、当時の人々の「死」に対する恐れ、悲しみなど、「こころ」の一面をのぞかせてくれる。

「動物とひと」：動物意匠の土器、動物形石製品などは、人と動物とのふれあいを感じさせる。表現された動物たちに、何を感じ、何を求めているのか、当時の人々の自然と向き合う生活の一端を考えさせられる。



▲体験コーナー

[キウスの縄文村]

千歳市キウス4遺跡の発掘調査から、周堤墓、盛土遺構、住居跡などをジオラマで復元した。また、合成樹脂で剥ぎ取った盛土遺構土層断面を展

示している。盛土遺構の出土遺物には、祭祀に使われたと考えられる赤彩の土器、特殊な形の土器や土製品、玉類、土偶などがある。

[ビデオコーナー]

遺跡についてわかりやすく解説した『ビビちゃんとフクロウ博士の遺跡ってなーに』『ビビちゃんとフクロウ博士の発掘体験』『ビビちゃんとフクロウ博士の縄文生活体験』などを常時上映している。

[体験コーナー]

**火起し体験コーナー**：きりもみ式、ひもぎり式、弓ぎり式、まいぎり式による火おこし体験ができる。

**土器コーナー**：土器拓本体験ができる。煮炊きに使った復元土器を展示している。

**石器コーナー**：石器を使ったドンダリの皮むき、石器の接合、石器の紙切り体験ができる。石器の材料となる石材見本を展示している。

常設展示点数一覧

| 展 示 場 所 ・ コ ー ナ ー |               | 遺物<br>点数   | パネル・レプリカなど | 合計<br>点数 |     |
|-------------------|---------------|------------|------------|----------|-----|
| ホール・展示回廊          |               | 239        | 45         | 284      |     |
| 常設展示室             | 受付・導入部分       | 7          | 6          | 13       |     |
|                   | 「遺跡調査と保護活用」部分 | 遺跡調査       | 5          | 76       | 81  |
|                   |               | 遺物の保存と分析   | 2          | 109      | 111 |
|                   | 「石の道具」部分      | 旧石器時代の石器   | 139        | 12       | 151 |
|                   |               | 縄文時代の石器    | 129        | 15       | 144 |
|                   | 「木の道具」部分      | 縄文時代の木製品   | 7          | 17       | 24  |
|                   |               | アイヌ文化期の木製品 | 24         | 44       | 68  |
|                   | 「金属の道具」部分     | 14         | 2          | 16       |     |
|                   | 「骨の道具」部分      | 3          | 3          | 6        |     |
|                   | 「土の道具」部分      | 140        | 26         | 166      |     |
|                   | 「こころの道具」部分    | 装いとこころ     | 360        | 4        | 364 |
|                   |               | 動物とひと      | 9          | 12       | 21  |
| 「キウスの縄文ムラ」部分      | 3             | 2          | 5          |          |     |
| 「新しい時代へ」          | 17            | 2          | 19         |          |     |
| 屋外                | エントランスひろば     | 0          | 1          | 1        |     |
|                   | 中庭            | 0          | 1,821      | 1,821    |     |
| 合 計               |               | 1,098      | 2,197      | 3,295    |     |

(2) 企画展示

a 北の縄文—縄文探訪と縄文工房展—

展示期間：7月9日（土）～9月25日（日）

目 的：道内各地の縄文文化を体感し、土器づくりなどの体験を通して北海道の縄文文化への関心を高め、より理解を深めることを目的とする。

展示場所：ホール、常設展示室、体験コーナー

展示内容

縄文探訪と縄文工房の二つのテーマを通して、北海道の縄文文化を分かりやすく紹介する。

1. 縄文探訪

【縄文探訪：恵庭市の遺跡を歩く】（常設展示室）



▲重要文化財の展示



▲かるちゃんnet スタンプラリー

恵庭市の代表的な遺跡を通時的に紹介し、併せて各時代の特徴的な縄文遺物を紹介する。

- ①遺跡の立地（全体・各時代）
- ②発掘された遺跡（全体・各時代）
- ③縄文文化に触れる

展示遺跡

- 柏木川4遺跡（縄文時代後期・晩期）
- 柏木川7遺跡（縄文時代前期）
- 柏木川13遺跡（縄文時代早期）
- 柏木B遺跡（縄文時代前期・後期）
- 西島松2遺跡（縄文時代晩期）
- 西島松5遺跡（縄文時代早期・前期・後期）
- 西島松15遺跡（縄文時代中期）
- 史跡カリンバ遺跡（縄文時代後期）
- カリンバ1遺跡（縄文時代前期・中期）
- カリンバ2遺跡（縄文時代早期）
- ユカンボシE3遺跡（縄文時代後期）
- ユカンボシE8遺跡（縄文時代後期）
- ユカンボシE11遺跡（縄文時代中期）

## 2. 縄文工房（ホール・体験コーナー、夏休暇対応） 【縄文文化を体験してみよう】

勾玉作りや実際の遺物を使用した拓本体験などを通して縄文文化を体感する。参加者は入館時に配布するポイント（10ポイント）内で自由にメニューを選び、体験することができる。

- ・滑石を使用した勾玉をはじめとするアクセサリ作り。製作の困難さや使われた石材の希少性を伝え、当時の装飾品の貴重さを感じる体験ができる。
- ・粘土を使用したミニチュア土器・土偶作り。土器の作り方や土偶の信仰について知識と体験を得ることができる。

- ・鹿角を使用したペーパーナイフづくり。角の堅さやしなやかさ、切れ味などを体験し、骨角器の利便性を体験できる。
- ・土器や石器、土層を図案とした砂絵づくり。土器や石器を身近に感じてもらい、復元土器には接合部、石器には剥離面があるなどの観察するヒントを伝える。
- ・編布づくり。縄文時代にも衣類や容器などに編み布の技術が用いられたことを体験により伝える。

[企画展示] 坂本尚史

## b 北海道遺跡百選9

### 縄文人と手形・足形

—美々・美沢と北海道の遺跡から—

展示期間：12月3日（土）～平成29年2月26日（日）  
目的：北海道出土の希少な遺物を取り上げ、分かりやすく紹介することで、埋蔵文化財への関心を高め、より理解を深めることを目的とする。

「遺跡との出会い」をテーマに北海道の代表的な遺跡を探る「北海道遺跡百選」の9回目は、千歳市美々・美沢の遺跡群を取り上げ、遺跡群から出土した大変希少な資料である手形・足形付土版に焦点を当てた。あわせて北海道内の出土遺跡からも資料を収集し、24点を展示した。展示では資料が製作されたふたつの時期、縄文時代早期末葉と後期前葉のそれぞれの特徴を紹介・比較し、手形・足形付土版がなぜ作られ、どのように扱われたのかを解説した。

展示場所：常設展示室

### 展示内容

- ①縄文の手形・足形（分布と出土点数、時期）
- ②手形・足形のはじまり（縄文時代早期）



▲遺跡百選 9 縄文人と手形・足形



▲展示室視察 北海道教育研究所

③東日本に広がる手形・足形（縄文時代後期）

④最後の手形・足形（縄文時代晩期）

展示遺跡

- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 函館市  | 垣ノ島A遺跡（縄文時代早期）                  |
| 千歳市  | 美々5遺跡（縄文時代早期）、美々7遺跡（縄文時代早期）     |
| 苫小牧市 | 美沢3遺跡（縄文時代早期）                   |
| 江別市  | 吉井の沢2遺跡（縄文時代早期）、七丁目沢2遺跡（縄文時代後期） |
| 余市町  | 入船遺跡（縄文時代後期）                    |
| 木古内町 | 新道4遺跡（縄文時代後期）                   |
| 恵庭市  | 柏木川4遺跡（縄文時代晩期）                  |

[企画展示 坂本尚史]

### c 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター 平成27年度発掘調査成果展

展示期間：平成28年3月26日（土）～5月29日（日）

目的：公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成27年に行った発掘調査の成果を紹介する。

展示場所：ホール、常設展示室

展示内容

出土遺物や写真、解説パネルで遺跡調査の成果を紹介する。

【遺物とパネル等で紹介】

千歳市イカベツ2遺跡：縄文時代早期・後期墓出土土

千歳市トプシナイ2遺跡：縄文時代後期復元土器

木古内町札苺7遺跡：縄文時代中期・後期土製品、石製品、復元土器

木古内町幸連3遺跡：縄文時代中期・後期ミニチュア土器、石器、コハク玉

福島町館崎遺跡：縄文時代前期岩偶、玦状耳飾り  
厚真町オニキシベ3遺跡：縄文時代後期復元土器、石器、石製品

厚真町オッコ1遺跡：縄文時代前期復元土器、石器、動物遺存体

厚真町厚幌1遺跡：擦文文化期復元土器

厚真町厚幌2遺跡：縄文時代前期石皿

根室市別当賀一番沢川遺跡：縄文時代晩期・続縄文文化期復元土器、石器

恵庭市西島松5遺跡：アイヌ文化期太刀

岩内町岩内東山円筒文化遺跡：道指定有形文化財土器、石器

【写真とパネルなどで紹介】

長沼町南九号線遺跡、千歳市根志越5遺跡、木古内町泉沢6遺跡・幸連4遺跡、厚真町上幌内5遺跡・富里3遺跡・幌内6遺跡・幌内7遺跡、下川町上名寄8遺跡、湧別町シブノツナイ竪穴住居跡群

[展示企画]（公財）北海道埋蔵文化財センター調査部

[展示企画] 藤井 浩

### d 世界遺産をめざす北の縄文展

会 期：通年（4月1日～平成29年3月31日）

目的：北海道は北東北3県と連携して「北の縄文文化回廊づくり」や遺跡群の世界文化遺産登録へ向けての取り組みを行っている。公益財団法人北海道埋蔵文化財センターはこれに連携して、世界遺産登録をめざす北海道・北東北3県の縄文遺跡群について展示を行い、広く道民や道外からの観光客に情報発信をする。これにより、北海道の歴史的風土の理解を図るとともに、世界文化遺産

登録推進の取り組みへの関心を高める。

展示場所：ロビー

### 展示内容

#### 【常設】

「開催にあたって」「世界遺産登録をめざして」「資産を構成する18遺跡と関係14市町の位置」など。

#### 【展示遺跡】

北海道：キウス周堤墓群、北黄金貝塚、入江・高砂貝塚、鷺ノ木遺跡、大船遺跡、垣ノ島遺跡

青森県：三内丸山遺跡、小牧野遺跡、是川石器時代遺跡、長七谷地貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚、二ツ森貝塚、大平山元Ⅰ遺跡、大森勝山遺跡

岩手県：御所野遺跡

秋田県：大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡など

\* 展示遺跡・展示物品は随時更新する。また、各道県の動向の紹介、イベントなどの案内を行う。

【展示企画】 倉橋直孝

## 2 資料の特別利用等

### (1) 特別利用

| 番号 | 利用者                 | 利用目的   | 利用期間                      | 使用方法  | 利用資料名  | 備考         |
|----|---------------------|--|---------------------------|-------|--|------------|
| 1  | 函館市 横山 英介           | 資料調査   | 平成28年4月21日<br>～平成28年4月22日 | 閲覧・撮影 | 千歳市柏台1遺跡出土旧石器（国立科学博物館貸出中を除く全点）                                       |            |
| 2  | (株)ボウズ 鶴羽 佳子        | テレビ番組映像使用  | 平成28年6月8日                 | 閲覧・撮影 | 常設展示室土器など  |            |
| 3  | 須藤 隆                | 論文及び著作物掲載用                                       | 平成28年6月14日                | 閲覧・撮影 | キウス4遺跡出土巻貝形土器ほか、計25点   |            |
| 4  | 飯島 義雄               | 縄文時代における北海道と東北地方の集団関係を検討するため                     | 平成28年6月14日                | 閲覧・撮影 | キウス4遺跡出土巻貝形土器、梅川4遺跡出土内面渦石製品ほか、計21点                                   |            |
| 5  | 箕島 栄紀               | 科研基盤Cにともなう調査・研究のため                               | 平成28年7月15日                | 閲覧・撮影 | ・千歳市美々8遺跡出土遺物（木製品中心）計110点（重文25点含む）<br>・千歳市ユカンボシC15遺跡出土遺物（木製品中心）計159点 | 取扱注意       |
| 6  | (公財)元興寺文化財研究所 塚本 敏夫 | H27～29年度科研費「東アジアにおける甲冑の変遷と祭祀利用の実態解明に関する基礎的研究」のため | 平成28年7月31日                | 閲覧・撮影 | ・千歳市祝梅川上田遺跡出土武具片（小札ほか）一式   | 脱酸素剤封入取扱注意 |
| 7  | 草刈 朋子               | フリーペーパー縄文ZINE vol.5の取材                           | 平成28年8月1日                 | 閲覧・撮影 | ・収蔵庫保管復元土器<br>・常設展示遺物  |            |
| 8  | 岩瀬 林                | 論文及び著作物掲載のため                                     | 平成28年11月9日                | 閲覧・撮影 | 千歳市柏台1遺跡出土掲載資料 北埋調報138 ※常設展示資料含                                      |            |
| 9  | 中沢 祐一               | 論文及び著作物掲載のため                                     | 平成28年11月10日               | 閲覧・撮影 | 千歳市柏台1遺跡出土掲載資料 北埋調報139 ※常設展示資料含                                      |            |
| 10 | 北海道大学埋蔵文化財センター 坂口 隆 | 論文作成のために調査                                       | 平成29年1月23日                | 閲覧・撮影 | 千歳市美沢川流域の遺跡群、キウス4遺跡、キウス5遺跡出土の土器・石器・木製品                               |            |

|    |                               |            |            |       |   |
|----|-------------------------------|------------|------------|-------|---|
| 11 | 岡山理科大学生物地球学部<br>富岡 直人 教授      | 論文及び著作物掲載用 | 平成29年1月24日 | 閲覧・撮影 | 北埋調報157<br>千歳市キウス4遺跡出土掲載資料<br>常設展示資料(赤彩巻貝形土器ほか)                       |
| 12 | 是川縄文館<br>市川 健夫・上ノ山 拓己         | 資料調査       | 平成29年3月9日  | 閲覧    | 千歳市美々4遺跡ヒスイ玉99件ほか、千歳市ママチ遺跡、千歳市キウス4遺跡、千歳市オリカ2遺跡、千歳市キウス9遺跡掲載資料<br>計133点 |
| 13 | 厚真町教育委員会<br>山戸 大知             | 資料調査       | 平成29年3月13日 | 閲覧・撮影 | 江別市対雁2遺跡(2)掲載資料 北埋調報160集  |
| 14 | 東北大学考古学研究室博士<br>土糧後期<br>青木 要祐 | 資料調査       | 平成29年3月14日 | 閲覧・撮影 | 千歳市オリカ2遺跡掲載資料 北埋調報189集、千歳221集 千歳市祝梅川上田遺跡(2)掲載資料 北埋調報300集 計337点        |

## (2) 模写品等の刊行等の承認

| 番号 | 申請者                                      | 使用目的  | 使用方法 | 利用資料名・点数                           | 申請書            | 承認書            | 備考 |
|----|--|---|------|------------------------------------|----------------|----------------|----|
| 1  | 株式会社フィフス・ディメンション代表<br>粉川 道博              | 文化情報誌『エプタ』vol.76「仮面大国」特集内「日本の仮面文化史」にて参考図版として使用                | 複写   | 千歳市ママチ遺跡出土土面写真 写真デジタルデータ 計1点       | 平成28年<br>4月1日  | 平成28年<br>4月8日  |    |
| 2  | 東武トップツアーズ株式会社<br>東京教育旅行支店<br>支店長 橋 直哉    | 早稲田大学の巡検旅行「募集型企画旅行パンフレット」への掲載、早稲田大学のホームページにもPDFデータとして掲載       | 複写   | 千歳市キウス1号周堤墓写真 写真デジタルデータ 計1点        | 平成28年<br>4月16日 | 平成28年<br>4月25日 |    |
| 3  | 学校法人 河合塾<br>総務部長 黒田 知善                   | 大学受験生への情報提供<br>河合塾ホームページ内大学入試解答速報に使用                          | 複写   | 遠軽町白滝遺跡群出土尖頭器写真                    | 平成28年<br>4月19日 | 平成28年<br>4月25日 |    |
| 4  | 首都大学東京都市教養部<br>人文・社会系 歴史・考古分野<br>助教 岩瀬 彬 | 『Quaternary International』投稿論文に使用                             | 撮影   | 柏台遺跡出土石器写真<br>写真撮影 計30点            | 平成28年<br>4月20日 | 平成28年<br>4月28日 |    |
| 5  | 北海道博物館<br>館長 石森 秀三                       | 第2回特別展「ジオパークへ行こう」の展示パネル、図録、広報印刷物、ホームページ等、普及事業印刷物、関連グッズに使用するため | 複写   | 遠軽町上白滝8遺跡出土尖頭器の写真ほか 写真デジタルデータ 計12点 | 平成28年<br>5月10日 | 平成28年<br>5月16日 |    |
| 6  | 有限会社ソイ・ソース・クリエイティブ<br>代表取締役 小池 光利        | BSジャパン「ミステリアスジャパン」番組に使用                                       | 複写   | 小樽市忍路土場遺跡作業写真ほか 写真デジタルデータ 計2点      | 平成28年<br>6月1日  | 平成28年<br>6月10日 |    |
| 7  | 北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す道民会議<br>代表 堀 達也  | 「縄文夏まつり」に使用   | 複写   | 千歳市ママチ遺跡出土土面写真ほか 写真デジタルデータ 計3点     | 平成28年<br>6月8日  | 平成28年<br>6月16日 |    |
| 8  | 一般社団法人 国づくり人づくり財団<br>理事長 木原 秀生           | 書籍『和の文明の源郷 縄文』掲載のため   | 複写   | 千歳市キウス4遺跡模型写真 写真デジタルデータ 計1点        | 平成28年<br>6月1日  | 平成28年<br>6月20日 |    |
| 9  | (株)新泉社<br>代表取締役 石垣 雅設                    | 『縄文時代史』に本文挿図として掲載のため  | 複写   | 函館市中野B遺跡出土石錘写真ほか 写真デジタルデータ 計2点     | 平成28年<br>6月20日 | 平成28年<br>6月27日 |    |
| 10 | 越田 賢一郎                                   | 講演会PRのポスター・チラシ・リーフレット・資料への掲載                                  | 複写   | 千歳市ママチ遺跡出土土面写真デジタルデータ 計1点          | 平成28年<br>6月30日 | 平成28年<br>7月6日  |    |
| 11 | ライド株式会社<br>代表取締役 安井 純治                   | BS日テレ『中川翔子のマニア★まにある』TV放送に使用                                   | 複写   | 千歳市美々4遺跡出土土偶写真 写真デジタルデータ 計3点       | 平成28年<br>7月13日 | 平成28年<br>7月25日 |    |
| 12 | 総合商研株式会社<br>代表取締役 加藤 優                   | フリーペーパー『JP01』vol.12に使用  | 複写   | 遠軽町上白滝8遺跡出土尖頭器写真 写真デジタルデータ 計1点     | 平成28年<br>7月21日 | 平成28年<br>7月25日 |    |
| 13 | 一般社団法人日本考古学協会 会長 谷川 章雄                   | 世界考古学会議京都大会ポスターに使用  | 複写   | 遠軽町白滝遺跡群航空写真ほか 写真デジタルデータ 計9点       | 平成28年<br>7月13日 | 平成28年<br>7月25日 |    |

|    |  |  |    |   |                 |                 |
|----|--|--|----|---|-----------------|-----------------|
| 14 | 青森県立郷土館<br>館長 山田 勝規                              | 特別展および関連事業に使用  | 複写 | 千歳市キウス1号周堤墓<br>写真ほか 写真デジタル<br>データ 計3点       | 平成28年<br>7月27日  | 平成28年<br>7月31日  |
| 15 | 株式会社かみゆ<br>滝沢 弘康                                 | 『世界史が教えてくれる！あ<br>なたの知らない日本史』に使用                              | 複写 | 恵庭市西島松5遺跡出土<br>刀写真 写真デジタル<br>データ 計1点        | 平成28年<br>8月6日   | 平成28年<br>8月18日  |
| 16 | 有限会社 山平商会<br>代表取締役 弓山 晃仙                         | 『ポテンシャル日本史』に使用   | 複写 | 遠軽町上白滝2遺跡出土<br>尖頭器写真 写真デジタル<br>データ 計1点      | 平成28年<br>9月20日  | 平成28年<br>9月30日  |
| 17 | 国立科学博物館<br>館長 林 良博                               | 『世界遺産 ラスコー展』に使用  | 複写 | 知内町湯の里4遺跡土坑<br>写真 写真デジタルデータ<br>計1点          | 平成28年<br>9月23日  | 平成28年<br>9月30日  |
| 18 | 北海道胆振総合振興局<br>環境生活課長 村上 宏                        | 『北の縄文パネル展』に使用  | 複写 | 豊浦町高岡1遺跡包含層<br>出土の土器写真ほか 写<br>真デジタルデータ 計7点  | 平成28年<br>10月7日  | 平成28年<br>10月14日 |
| 19 | 株式会社 同成社<br>代表取締役 山脇 由紀子                         | 高田和徳編『火と縄文人(仮)』<br>に使用                                       | 複写 | 小樽市忍路土場遺跡出土<br>発火具写真ほか 写真デ<br>ジタルデータ 計8点    | 平成28年<br>10月14日 | 平成28年<br>10月20日 |
| 20 | 北海道環境生活部文化振<br>興課縄文世界遺産推進室<br>室長 小出 幸希           | 『北海道の縄文文化』に使用  | 複写 | 千歳市ママチ遺跡出土土<br>面写真ほか 写真デジタ<br>ルデータ 計11点     | 平成28年<br>11月7日  | 平成28年<br>11月17日 |
| 21 | 株式会社山川出版社<br>代表取締役 野澤 伸平                         | 書籍『土偶の世界によこそ』<br>本文に掲載                                       | 複写 | 千歳市美々4遺跡出土土<br>偶写真ほか 写真デジタ<br>ルデータ 計6点      | 平成28年<br>11月18日 | 平成28年<br>11月25日 |
| 22 | 恵庭市郷土資料館<br>館長 菅原 伸治                             | 恵庭市郷土資料館常設展示室<br>パネルに使用                                      | 複写 | 恵庭市ユカンボシE5遺<br>跡土坑墓写真ほか 写真<br>デジタルデータ 計3点   | 平成28年<br>11月24日 | 平成28年<br>11月30日 |
| 23 | 編集工房ベンハウス<br>相庭 泰志                               | 時空旅人別冊『今こそ知りた<br>いアイヌ民族(仮)』に掲載<br>のため                        | 複写 | 恵庭市西島松5遺跡出土<br>櫛写真ほか 写真デジタ<br>ルデータ 計2点      | 平成28年<br>12月10日 | 平成28年<br>12月13日 |
| 24 | 北海道環境生活部文化・<br>スポーツ局文化振興課縄<br>文世界遺産推進室長<br>小出 幸希 | 世界文化遺産登録推進事業の<br>ため  | 複写 | 千歳市ママチ遺跡出土土<br>面写真ほか 写真デジタ<br>ルデータ 計5点      | 平成28年<br>12月15日 | 平成28年<br>12月20日 |
| 25 | 朝日新聞北海道支社報道<br>センター 秋野 楨木                        | 「縄文人と手形・足形」展の<br>紹介記事に使用                                     | 複写 | 千歳市美々7遺跡出土足<br>形付土版写真 写真デジ<br>タルデータ 計1点     | 平成29年<br>1月12日  | 平成29年<br>1月13日  |
| 26 | 稚内市教育委員会教育長<br>表 純一                              | 「稚内市遺跡マップ」に掲載<br>のため   | 複写 | 植刃器複製写真 写真デ<br>ジタルデータ 計1点                   | 平成29年<br>1月24日  | 平成29年<br>1月25日  |
| 27 | 東京法令出版株式会社<br>代表取締役社長<br>星沢 卓也                   | 高校生向け日本史まとめ教材<br>「ポイント整理日本史」へ掲<br>載のため                       | 複写 | 遠軽町上白滝8遺跡出土<br>細石刃写真 写真デジタ<br>ルデータ 計1点      | 平成29年<br>1月23日  | 平成29年<br>1月30日  |
| 28 | 北海道胆振振興局保健環<br>境部 環境生活課長<br>村上 宏                 | 『ニセコ ジャポニカ[2017]』<br>展示パネルに使用のため                             | 複写 | 白老町社台1遺跡出土朱<br>塗り壺写真ほか 写真デ<br>ジタルデータ 計3点    | 平成29年<br>2月3日   | 平成29年<br>2月7日   |
| 29 | 北海道大学大学院理学研<br>究院<br>増田 隆一                       | 『哺乳類の生物地理学』に使用   | 複写 | 奥尻町青苗砂丘遺跡出土<br>ヒグマ骨写真 写真デジ<br>タルデータ 計2点     | 平成29年<br>2月4日   | 平成29年<br>2月9日   |
| 30 | 茅野市尖石縄文考古館<br>館長 守矢 昌文                           | 『茅野市縄文ガイドブック』<br>に使用   | 複写 | 福島町館崎遺跡出土石鏃<br>写真 写真デジタルデータ<br>計1点          | 平成29年<br>2月8日   | 平成29年<br>2月16日  |
| 31 | 札幌市中央図書館・情報<br>館担当係長<br>浅野 隆夫                    | 『新札幌市史』(デジタル版)<br>に使用  | 複写 | 苫小牧市美沢川2遺跡出<br>土コッタロ式土器写真 写<br>真転載 計1点      | 平成29年<br>2月12日  | 平成29年<br>2月20日  |
| 1  | 島根県教育庁文化財課長                                      | 島根県の刊行物(「しまねの<br>古代文化」第24号)に使用                               | 複写 | 恵庭市西島松5遺跡土坑<br>墓写真 写真転載 計1点                 | 平成29年<br>2月22日  | 平成29年<br>3月1日   |
| 2  | 函館市縄文文化交流セン<br>ター<br>館長 田中 哲郎                    | 企画展のパンフレット・ポス<br>ター・チラシ・HPに掲載す<br>るため                        | 複写 | 木古内町新道4遺跡出土<br>足形付土版写真ほか 写<br>真デジタルデータ 計12点 | 平成29年<br>2月25日  | 平成29年<br>3月1日   |
| 3  | 北海道生活環境部文化振<br>興課縄文世界遺産推進室<br>室長 小出 幸            | 道内固有の縄文文化について<br>情報発信することを目的と<br>して作成するクリアファイル<br>に画像を掲載するため | 複写 | 八雲町野田生1遺跡出土<br>赤彩注口土器写真 写真<br>デジタルデータ 計1点   | 平成29年<br>3月1日   | 平成29年<br>3月6日   |
| 4  | 島根県文化財愛護協会<br>会長 勝部 昭                            | 島根県の刊行物(「しまねの<br>古代文化」第24号)を増刷す<br>るため                       | 複写 | 恵庭市西島松5遺跡土坑<br>墓写真 写真転載 計1<br>点             | 平成29年<br>3月23日  | 平成29年<br>3月28日  |

### (3) 資料の貸出承認

| 番号 | 申請者                                      | 利用目的                             | 利用期間  | 利用資料名・点数   | 申請書             | 承認書             | 備考              |
|----|--|----------------------------------|---|--|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1  | 江別市立対雁小学校<br>校長 甲斐 文治                    | 対雁小学校6年生社会科の授業資料として活用            | 平成28年4月15日<br>～17日(3日間)                                   | 江別市対雁2遺跡出土土器9点、江別市対雁2遺跡出土石器9点(計3セット)   | 平成28年<br>4月12日  | 平成28年<br>4月13日  |                 |
| 2  | 北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議<br>代表 堀 達也  | 「縄文夏まつり」展示のため                    | 平成28年6月28日<br>～7月15日                                      | 重要文化財「土面」(千歳市ママチ遺跡出土)複製1点、重要文化財「動物型土製品」(千歳市美々4遺跡出土)複製1点、道指定有形文化財「赤彩注口土器」(八雲町野田生1遺跡出土)複製1点、国宝「土偶」(函館市著保内野遺跡出土)複製1点。 | 平成28年<br>6月8日   | 平成28年<br>6月16日  |                 |
| 3  | 江別市文京台東町38-3 福岡 孝(札幌市立大学非常勤講師)           | ジオフェスティバル in Sapporo 2016での展示に使用 | 平成28年9月30日<br>～平成28年10月2日                                 | 千歳市キウス4遺跡出土土鏃ほか20点   | 平成28年<br>9月18日  | 平成28年<br>9月21日  |                 |
| 4  | 北海道環境生活部文化・スポーツ局文化振興課縄文世界遺産推進室長<br>小出 幸希 | ユネスコ展示会での縄文文化啓発事業に利用するため         | 平成28年10月12日<br>～平成28年10月24日                               | 国宝「土偶」(函館市著保内野遺跡出土)複製  | 平成28年<br>10月11日 | 平成28年<br>10月11日 |                 |
| 5  | 北海道環境生活部文化・スポーツ局文化振興課縄文世界遺産推進室長<br>小出 幸希 | 世界遺産登録推進フォーラム会場展示のため             | 平成28年<br>11月18日(金)<br>～11月21日(月)<br>(展示期間平成28年<br>11月20日) | 国宝「土偶」(函館市著保内野遺跡出土)複製  | 平成28年<br>10月31日 | 平成28年<br>11月10日 |                 |
| 6  | 北海道環境生活部文化・スポーツ局文化振興課縄文世界遺産推進室長<br>小出 幸希 | 世界文化遺産登録推進事業のため(縄文雪まつり展示のため)     | 平成29年1月24日<br>～平成29年2月17日<br><25日間>                       | 重要文化財「土面」(千歳市ママチ遺跡出土)複製ほか5点  | 平成28年<br>12月15日 | 平成28年<br>12月26日 |                 |
| 7  | 九州国立博物館<br>館長 島谷 弘幸                      | 文化交流展示「海の道、アジアの路」(平常展)陳列のため      | 平成29年4月1日<br>～平成30年3月31日                                  | 千歳市キウス4遺跡出土土器(堂林式)、千歳市ママチ遺跡出土(幣舞式)ほか、13点   | 平成29年<br>1月13日  | 平成29年<br>1月18日  | 現在貸出中のため運搬せず。更新 |
| 8  | 北海道環境生活部文化・スポーツ局文化振興課縄文世界遺産推進室長<br>小出 幸希 | 赤れんが縄文回廊展示のため                    | 平成29年3月25日から平成30年3月24日まで(365日間)                           | 土偶(複製 函館市著保内野遺跡出土)ほか計22点   | 平成29年<br>3月2日   | 平成29年<br>3月9日   |                 |
| 9  | 函館市縄文文化交流センター館長<br>田中 哲郎                 | 企画展「足形・手形付土製品の世界」に展示するため         | 平成29年3月14日から平成29年4月28日まで(46日間)                            | 千歳市美々7遺跡出土足形付土製品ほか計8点  | 平成29年<br>3月7日   | 平成29年<br>3月10日  |                 |
| 10 | 北海道環境生活部文化・スポーツ局文化振興課縄文世界遺産推進室長<br>小出 幸希 | 赤れんが縄文回廊展示のため                    | 平成29年3月25日から平成30年3月24日まで(365日間)                           | 土偶(複製 函館市著保内野遺跡出土)ほか計22点   | 平成29年<br>3月2日   | 平成29年<br>3月10日  |                 |
| 11 | 函館市縄文文化交流センター館長<br>田中 哲郎                 | 企画展「足形・手形付土製品の世界」に展示するため         | 平成29年3月14日から平成29年4月28日まで(46日間)                            | 千歳市美々7遺跡出土足形付土製品ほか計8点  | 平成29年<br>3月7日   | 平成29年<br>3月10日  |                 |
| 12 | 独立行政法人 国立科学博物館<br>館長 林 良博                | 国立科学博物館の常設展示に展示するため              | 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで(365日間)                            | 千歳市柏台1遺跡出土顔料ほか3点 千歳市オリカ2遺跡出土細石刃核ほか6点 計9点   | 平成29年<br>3月23日  | 平成29年<br>3月31日  |                 |



▲考古学を知る・学ぶ 連1 長沼講師



▲考古学を知る・学ぶ 連3 小杉講師

### 3 講座等の開催

#### (1) 一般道民対象の講座 考古学講座

今年度は、以下のような形式で実施した。  
「平成28年度北海道立埋蔵文化財センター  
連続講演会・講座」

##### a 【考古学を知る・学ぶ 連1】

演 題：『遺跡が語る北海道の歴史—旧石器から  
ビールまで—』

日 時：5月28日（土） 13：30～15：30

講 師：（公財）北海道埋蔵文化財センター  
常務理事 長沼 孝

参加者：68名／100名（うち道民カレッジ生26名）  
内 容：北海道に人が住み始めた旧石器時代から  
近現代まで、発掘された遺跡や遺物、さらに指定  
文化財を紹介しながら、講師の体験談を交え、北  
海道の歴史を語るとともに、2回目以降の講座・  
講演会の聞き所を語る。

##### b 【考古学を知る・学ぶ 連3】

演 題：『縄文文化研究の現状と北海道』

日 時：9月24日（土） 13：30～15：30

講 師：北海道大学大学院文学研究科  
教授 小杉 康

参加者：114名／100名（うち道民カレッジ生32名）  
内 容：「北海道・北東北の縄文遺跡群を世界遺  
産に！」という取り組みの進展とともに、縄文文  
化への関心が一層増している昨今、最近の研究動  
向や成果を踏まえ、北海道の縄文文化の特質を語  
る。

※【考古学を知る・学ぶ連2と連5】は講演会と  
して実施

##### c 【考古学を知る・学ぶ 連4】

講 座：『縄文人に挑戦—块状耳飾りの製作—』

日 時：10月22日（土） 13：30～15：30

講 師：（公財）北海道埋蔵文化財センター

第1調査部普及活用課 主査 坂本 尚史

参加者：20名／20名（うち道民カレッジ生8名）  
内 容：块状耳飾りの由来や起源について学び、そ  
の用途と形態の変遷、道内の出土分布を探った。  
滑石原産地から自ら採取してきた石材を使用し、  
縄文人の製作技術に挑戦した。

##### d 【考古学を知る・学ぶ 連6】

演 題：『擦文・オホーツク・アイヌ文化の考古  
学』

日 時：1月28日（土） 13：30～15：30

講 師：（公財）北海道埋蔵文化財センター

理事長 越田 賢一郎

参加者：114名／100名（うち道民カレッジ生30名）  
内 容：北海道における続縄文からアイヌ文化へ  
の歴史の流れ、特に擦文・オホーツク・アイヌ文  
化の形成・展開には続縄文文化をベースにしなが  
らも本州や大陸との人の行き来を含めた交流が大  
きく関わっている。7～8世紀の状況を中心に遺  
跡や遺物を具体的に示しながらその展開を語る。

##### e 【考古学を知る・学ぶ7】

演 題：『北東アジアの中の北海道』

日 時：3月11日（土） 13：30～15：30



▲考古学を知る・学ぶ 連6 越田講師

講 師：札幌学院大学教授 越田 勲  
 参加者：101名/100名（うち道民カレッジ生25名）  
 内 容：北東アジアの一角を占めながら四方を海に囲まれた日本列島、そして北海道。その歴史の展開には、北東アジアの動向が深く関わっている。ロシア・中国・モンゴルなど、北東アジアの遺跡に自ら足を運び、調査研究を進めている講師が近年のこの地域の考古学の動向や北海道との関わりを具体的に語る。

## (2) 児童生徒学生対象の体験型講座

### a 【まいぶん遺跡探検隊 第1次】土器

日 時：7月24日（日） 13：30～15：30  
 講 師：（公財）北海道埋蔵文化財センター

第1調査部普及活用課 主査 倉橋 直孝  
 参加者：21名/20名（うち中学生以下10名）  
 内 容：『ワクワク・ドキドキ「土器」との出会い』と題して、普段は見学できない収蔵庫の中を探検し、展示室の土器を探して観察。砂絵体験によって土器の特徴を学び、最後にミニチュア土器を作って、大昔の人の土器製作方法を楽しみながら学んだ。

### b 【まいぶん遺跡探検隊 第2次】石器

日 時：8月7日（土） 13：30～15：30  
 講 師：（公財）北海道埋蔵文化財センター

第1調査部普及活用課 主査 坂本尚史  
 参加者：30名/20名（うち中学生以下17名）  
 内 容：『石の道具のナゾを追え！』と題して、参加者を探検隊員に任命して、展示室を探検した。縄文人の道具を使いこなすために、弓矢で狩りを



▲考古学を知る・学ぶ 連7 臼杵講師

したり、石皿とすり石で木の実や穀物をすり潰し、黒曜石のナイフで肉を切って縄文体験をした。最後に滑石を使って三角形のピカピカの秘宝を製作した。

### c 【まいぶん遺跡探検隊 第3次】火おこし

日 時：8月7日（土） 13：30～15：30  
 講 師：（公財）北海道埋蔵文化財センター

第1調査部普及活用課 課長 田口 尚  
 参加者：20名/20名（うち中学生以下12名）  
 内 容：『火おこしに関する体験』と題して、スライドを使ってクイズ形式でたき火の跡や火おこしの歴史について学んだ。日本で最も古い木製の発火具は小樽で発見されたこと。よく見る舞きり法は新しい発火法であることを伝えた。そして展示室で出土した木製発火具や金属の火花式発火具の実物を観察して使い方や使用痕を観察した。ひもきり法、弓きり法、火打ち石などを使って、火おこしの難しさを体験した。

### d 【まいぶん遺跡探検隊 第4次】発掘

日 時：1月14日（土） 13：30～15：30  
 講 師：（公財）北海道埋蔵文化財センター

第1調査部普及活用課 主査 倉橋 直孝  
 参加者：21名/20名（うち中学生以下8名）  
 内 容：『発掘調査って何だろう』と題して、当センター製作の発掘調査学習ビデオを見ながら、遺跡で使う言葉や遺物の名称を学んだ。考古学調査で重要な土層堆積を地層砂絵を体験しながら調べた。レベルを使って高さを測り、コンテナを使った疑似遺跡で発掘体験をした。



▲まいぶん遺跡探検隊 第2次 石器



▲まいぶん遺跡探検隊 第3次 火おこし

### e 【まいぶん遺跡探検隊 第5次】 ガラス玉

日時：2月44日（土） 13：30～15：30

講師：（公財）北海道埋蔵文化財センター

第1調査部普及活用課 課長 田口 尚

参加者：8名／15名（うち中学生以下4名）

※急なキャンセルのため参加者減。

内容：『親子でガラス玉づくりを体験』と題して、身の回りにたくさん存在するガラスの歴史にスライドを使いながらクイズ形式で学んだ。アイヌのタマサイヤシトキをはじめ、色々なガラス玉を紹介し、色や材質についても概略学習した。最後にバーナーを使って巻つけ法でガラス玉製作した。

### (3) 児童生徒対象の出前講座

#### a 事業目的

完全学校週5日制に対応して、土曜日や日曜日の休日に、市町村教育委員会との連携の下で、子供たちにとってわかりやすく地域の歴史や文化を説明するとともに、それらを大切にすることを養い、体験学習を通して豊かな人間性や多様な個性を育むことを目的とする。

これまで、道立センター内で行ってきた考古学教室を、全道の市町村に出向いて地元教育委員会と連携を図って実施することにより、市町村独自の事業実施の契機となるよう努めている。

#### b 事業内容

##### ①地域の遺跡を学ぶ—実物に触れてみよう—

遺物に触れてもらいながら、地元市町村の埋蔵文化財についての説明を行う。また、埋蔵文化財

センター紹介のビデオ『遺跡ってなーに』等を鑑賞する。

#### ②体験学習

縄文時代等にアクセサリーとして使用されていた「勾玉」を、滑石を材料にして、製作する。また、時間の許す限り、石器（黒曜石破片）での紙切り、火起こしなどの体験を行う。

41ページの表のとおり8か所で実施した。

### (4) 教育連携講座

児童会、小学校、中学校、大学、教育委員会等を対象とする体験型教育連携講座を、42・43ページの表の通り実施した。

火おこし・勾玉作り・ミニチュア土器づくり・拓本体験学習、展示室やバックヤードの見学、展示室探検クイズラリーなどを内容とする。

北海道教育委員会からの依頼により、平成25年度から「道立埋蔵文化財センター活用学習のための指導者研修」（夏・冬季休業期間分、教職員対象）を実施している。

### (5) 一般道民対象の講演会

#### a 夏季講演会

「平成28年度北海道立埋蔵文化財センター連続講演会・講座」

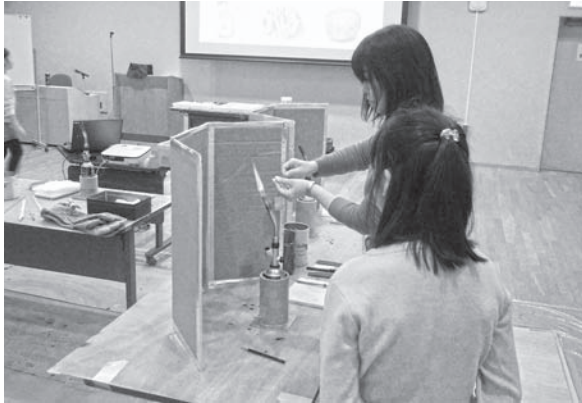
【考古学を知る・学ぶ2】

演題：『日本の旧石器文化の中の北海道』

日時：7月23日（土） 13：30～15：30

講師：岡山大学名誉教授 稲田 孝司

参加者：114名／100名（うち道民カレッジ生23名）



▲まいぶん探検隊 第5次 親子ガラス玉づくり



▲市町村出前講座 蘭越町

内 容：旧石器文化は、石器のみで語られることが多いが、講師は日本列島の絶滅ほ乳類の探索を精力的に行うとともに、海外、特に仏国の旧石器文化研究に造詣が深く、それらの動向も踏まえ、北海道の旧石器文化の位置付けを語る。(詳細は45ページ、7 講演会要旨(1)夏季講演会参照)。

#### b 秋季講演会

「平成28年度北海道立埋蔵文化財センター連続講演会・講座」

【考古学を知る・学ぶ4】

演 題：『弥生文化と続縄文文化』

日 時：11月26日(土) 13:30~15:30

講 師：東京大学教授 設楽 博巳

参加者：139名/100名(うち道民カレッジ生30名)

内 容：「北の文化」(続縄文文化)と「南の文化」(琉球列島)にも、スポットをあて、わが国の弥生文化研究において新基軸を打ち出した国立歴史民俗博物館の企画展「新弥生紀行」を主導した講師。さらに最近では、縄文系の弥生文化にも力点をおいた著作も発表。そんな最近の弥生文化研究の現状と続縄文文化の位置づけを語る。(詳細は54ページ、(2)秋季講演会参照)。

#### (6) 近隣市町村等対象の出前講座

近隣市町村教育委員会・学校等から出前講座の依頼があった場合には、その都度検討して、対応できる場合には実施している。今年度は41ページの表のとおり4か所で実施した。

#### (7) 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター 平成27年度発掘調査報告会

日 時：4月16日(土) 13:30~16:30

参加者：68名(うち道民カレッジ生27名)

内 容：平成27年度に(公財)北海道埋蔵文化財センターが調査を行った遺跡のうち①~④の発掘成果の報告と、特別展示「(公財)北海道埋蔵文化財センター平成27年度発掘調査成果展」会場にて報告者による展示解説を行った。

- |             |       |
|-------------|-------|
| ①千歳市イカベツ2遺跡 | 菊池 慈人 |
| ②木古内町札荊7遺跡  | 直江 康雄 |
| ③木古内町幸連4遺跡  | 坂本 尚史 |
| ④厚真町オコッコ1遺跡 | 立田 理  |
- 企画：(公財)北海道埋蔵文化財センター調査部

## 4 協 力

### (1) 講師派遣

教育委員会・日本放送協会の依頼により42ページの表のとおり5か所に講師を派遣した。

### (2) 職場体験実習

江別市教育委員会の依頼によりキャリア教育(中学生の職場体験)を42ページの表のとおり6件、16名を受け入れた。

### (3) インターンシップ

北海道立手稲高校の依頼によりインターンシップを42ページの表のとおり1件、2名を受け入れた。



▲考古学教室出前講座 津別町



▲博物館実習

#### (4) 博物館実習

4大学の依頼により博物館実習の学生を42ページの表のとおり6名受け入れた。

### 5 周辺施設・大学との連携

江別市から札幌市北東部に所在する各文化施設や大学と、以下の連携を行っている。各連携参加状況等については41～44ページの表のとおり。

#### (1) 文京台地区道立教育3施設連携

江別市文京台地区にある北海道立図書館、北海道立教育研究所、北海道立埋蔵文化財センターが、今後さらに地域に根ざし、開かれた「施設」を目指すため、平成15年から連携事業を行っている。今年度も、7月以降に実施する事業を紹介するリーフレットを合同で作成し、文京台第1自治会、文京台第2自治会、文京台東町自治会に回覧した。

#### (2) かるちゃんnet(文化施設連絡協議会)

新札幌から江別市南西には社会教育的文化施設が集中し、地域に暮らす人たちにとって恵まれた環境にある。各文化施設は地域文化の向上や知的財産の継承など重要な役目を担っているが、財政の悪化により運営・事業の見直しを迫られ、取り巻く情勢は厳しさを増している。このような状況を踏まえ、各施設が協力・連携を強化し、意見交換・連携事業・広報事業などの実施を協議する場として結成された。

平成21年に北海道がイオン北海道(株)との包括的連携協定を締結する際に北海道開拓記念館が企業側に提案した「道の教育・文化施設の広報活動

への協力・協働事業」を基礎とする。

#### a てくてく、ぺったん!

かるちゃん スタンプラリー

日時：7月16日(土)～8月21日(日)

場所：江別市郷土資料館・江別市セラミックアートセンター、北海道立図書館・北海道立埋蔵文化財センター・自然ふれあい交流館・北海道博物館・北海道開拓の村、札幌市青少年科学館・サンピアザ水族館の9施設。

内容：各施設でスタンプをもらい、5館または9館を巡ってスタンプが揃ったら記念品が貰える。記念品の交換場所は、江別市郷土資料館、北海道立埋蔵文化財センター、札幌市青少年科学館の3か所とした。全体のシート配布数は7,235枚、記念品交換数は江別市郷土資料館で45個、北海道立埋蔵文化財センターで116個、札幌市青少年科学館で76個の計237個である。期間中のセンター入館者は1,902人だった。

#### b 発見・体験 文化の秋

—遊ぼう!学ぼう!あつべつ・えべつ—

日時：10月16日(日)10:00～21:00

場所：サンピアザ1階 光の広場

内容：江別市郷土資料館・江別市セラミックアートセンター・北海道立図書館・北海道立埋蔵文化財センター・自然ふれあい交流館・北海道博物館・北海道開拓の村・札幌市青少年科学館・サンピアザ水族館の紹介パネルを展示して、広報資料を配布した。

体験・展示コーナー・ワークショップでは、大



▲かるちゃんnet サンピアザ1階 光の広場

型絵本・昔の雑誌・しかけ絵本展示（北海道立図書館）、砂絵体験（北海道立埋蔵文化財センター）、岩石マップをつくろう、アンモナイトレプリカをつくろう（北海道博物館）、昔のおもちゃであそぼう（北海道開拓の村）、スペシャルサイエンスショー、デジタル宇宙旅行（青少年科学館）、カニ釣り体験（サンピアザ水族館）などを行った。クイズラリーやアンケートを実施し、クイズ回答者にはもれなく記念品をプレゼントした。来場者は、715人（延べ人数）であった。

### c かるちゃんガーデン2016

日 時：11月20日（日）10：00～15：30

場 所：札幌市中央区北5条西5丁目7

sapporo55ビル

第1会場；紀伊國屋書店札幌本店

インナーガーデン（1階）

第2会場；北海道教育大学札幌駅前サテライト

（4階）

### 主 催

北海道教育大学学校・地域教育支援センター

かるちゃんnet（文化施設連絡協議会）

内 容：多数の来訪者が期待される札幌市中心部の施設を会場として、博学連携のもと道内の児童ならびにファミリー層の自発的文化活動の振興（文化施設の利用向上）をはかることを目的とし、かるちゃんnetと北海道教育大学の協働により実施した文化施設PR・普及イベント。

1階の紀伊國屋書店前のインナーガーデンで①岩石マップをつくろう（北海道博物館）、4階の北海道教育大学札幌駅前サテライトでは、②絵本読み聞かせ（北海道立図書館）、③魚の透明標本を観察しよう（サンピアザ水族館）、④デジタル宇宙シアター（札幌市青少年科学館）、⑤稲わらでつくるプチしめ縄（北海道開拓の村）、⑥砂絵で遊ぼう！（道立埋文）⑦とびだす絵本、懐かしの雑誌展示委など、⑧かるちゃんクイズラリー（各施設）、などの体験型広報ワークショップを行った。来場者は、996人（延べ人数）であった。

### (3) のっぽろ11ネット

今年度は活動していない。

### 周辺施設との連携参加一覧

| 名 称             | 文京台地区道立教育3施設連携 | かるちゃんnet | のっぽろ11ネット |
|-----------------|----------------|----------|-----------|
| 江別市郷土資料館        |                | ○        |           |
| 江別市スポーツ振興財団     |                |          | ○         |
| 野幌自治会           |                |          | ○         |
| 北海道情報大学         |                |          | ○         |
| 野幌中学校           |                |          | ○         |
| 江別市セラミックアートセンター |                | ○        | ○         |
| 野幌総合運動公園事務所     |                |          | ○         |
| 酪農学園大学          |                |          | ○         |
| 北海道立図書館         | ○              | ○        |           |
| 北海道立教育研究所       | ○              | ○        |           |
| 札幌学院大学          |                |          | ○         |
| 北翔大学            |                |          | ○         |
| 北海道立埋蔵文化財センター   | ○              | ○        | ○         |
| 自然ふれあい交流館       |                | ○        |           |
| 道立自然公園野幌森林公園    |                | ○        |           |
| 北海道博物館          |                | ○        |           |
| 北海道開拓の村         |                | ○        | ○         |
| サンピアザ水族館        |                | ○        |           |
| 札幌市青少年科学館       |                | ○        |           |

## 6 利用状況

### (1) 入館者数一覧

#### 月別入館者数

|     | 開館日数 |      |      |         | 大人(男性) |       |       |         | 大人(女性) |       |       |         | 子供    |       |       |         | 合計    |        |         |         |
|-----|------|------|------|---------|--------|-------|-------|---------|--------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|---------|-------|--------|---------|---------|
|     | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 前年度比(%) | 26年度   | 27年度  | 28年度  | 前年度比(%) | 26年度   | 27年度  | 28年度  | 前年度比(%) | 26年度  | 27年度  | 28年度  | 前年度比(%) | 26年度  | 27年度   | 28年度    | 前年度比(%) |
| 4月  | 26   | 26   | 26   | 100.0   | 509    | 440   | 486   | 110.5   | 454    | 333   | 383   | 115.0   | 187   | 196   | 234   | 119.4   | 1,150 | 969    | 1103.0  | 113.8   |
| 5月  | 27   | 27   | 26   | 100.0   | 378    | 385   | 484   | 125.7   | 274    | 286   | 309   | 108.0   | 315   | 320   | 537   | 167.8   | 967   | 991    | 1330.0  | 134.2   |
| 6月  | 25   | 25   | 26   | 100.0   | 447    | 629   | 590   | 93.8    | 444    | 476   | 487   | 102.3   | 316   | 240   | 450   | 187.5   | 1,207 | 1,345  | 1527.0  | 113.5   |
| 7月  | 29   | 27   | 28   | 93.1    | 550    | 472   | 658   | 139.4   | 506    | 334   | 503   | 150.6   | 240   | 294   | 528   | 179.6   | 1,296 | 1,100  | 1689.0  | 153.5   |
| 8月  | 27   | 26   | 26   | 96.3    | 359    | 503   | 442   | 87.9    | 355    | 449   | 388   | 86.4    | 577   | 757   | 427   | 56.4    | 1,291 | 1,709  | 1257.0  | 73.6    |
| 9月  | 26   | 27   | 27   | 103.8   | 348    | 419   | 383   | 91.4    | 241    | 385   | 339   | 88.1    | 236   | 374   | 266   | 71.1    | 825   | 1,178  | 988.0   | 83.9    |
| 10月 | 28   | 28   | 24   | 100.0   | 400    | 385   | 311   | 80.8    | 310    | 313   | 266   | 85.0    | 193   | 212   | 181   | 85.4    | 903   | 910    | 758.0   | 83.3    |
| 11月 | 26   | 25   | 24   | 96.2    | 337    | 440   | 371   | 84.3    | 255    | 285   | 195   | 68.4    | 94    | 186   | 154   | 82.8    | 686   | 911    | 720.0   | 79.0    |
| 12月 | 18   | 19   | 21   | 105.6   | 174    | 243   | 248   | 102.1   | 98     | 149   | 129   | 86.6    | 72    | 121   | 54    | 44.6    | 344   | 513    | 431.0   | 84.0    |
| 1月  | 24   | 24   | 23   | 100.0   | 141    | 207   | 277   | 133.8   | 171    | 215   | 281   | 130.7   | 101   | 263   | 205   | 77.9    | 413   | 685    | 763.0   | 111.4   |
| 2月  | 24   | 23   | 23   | 95.8    | 139    | 236   | 205   | 86.9    | 108    | 208   | 102   | 49.0    | 36    | 98    | 54    | 55.1    | 283   | 542    | 361.0   | 66.6    |
| 3月  | 21   | 21   | 23   | 100.0   | 182    | 232   | 375   | 161.6   | 98     | 186   | 278   | 149.5   | 101   | 174   | 213   | 122.4   | 381   | 592    | 866.0   | 146.3   |
| 合計  | 301  | 298  | 297  | 1190.8  | 3,964  | 4,591 | 4,830 | 1298.1  | 3,314  | 3,619 | 3,660 | 1219.6  | 2,468 | 3,235 | 3,303 | 1250.1  | 9,746 | 11,445 | 11793.0 | 1,243   |
| 平均  | 25.1 | 24.8 | 24.8 | 99.2    | 330.3  | 382.6 | 402.5 | 108.2   | 276.2  | 301.6 | 305.0 | 101.6   | 205.7 | 269.6 | 275.3 | 104.2   | 812.2 | 953.8  | 982.8   | 103.6   |

#### 平成11～28年度までの月別入館者数

##### ①平成11～20年度までの月別入館者数

|     | 11    | 12    | 13    | 14    | 15    | 16    | 17    | 18    | 19     | 20     | 計      |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|
| 4月  |       | 758   | 656   | 545   | 538   | 831   | 595   | 830   | 669    | 904    | 6,326  |
| 5月  |       | 709   | 453   | 656   | 1,081 | 964   | 716   | 1,440 | 1,228  | 1,403  | 8,650  |
| 6月  |       | 652   | 621   | 808   | 1,299 | 1,054 | 858   | 768   | 1,099  | 1,150  | 8,309  |
| 7月  |       | 527   | 303   | 633   | 922   | 828   | 1,124 | 1,138 | 1,425  | 1,126  | 8,026  |
| 8月  |       | 673   | 388   | 662   | 789   | 747   | 851   | 1,238 | 1,517  | 1,267  | 8,132  |
| 9月  |       | 544   | 374   | 631   | 762   | 1,020 | 727   | 790   | 907    | 768    | 6,523  |
| 10月 |       | 650   | 302   | 649   | 991   | 1,027 | 773   | 945   | 939    | 1,267  | 7,543  |
| 11月 | 1,988 | 467   | 659   | 445   | 836   | 669   | 618   | 669   | 627    | 653    | 7,631  |
| 12月 | 687   | 286   | 326   | 669   | 505   | 330   | 318   | 232   | 536    | 488    | 4,377  |
| 1月  | 593   | 218   | 411   | 287   | 229   | 189   | 240   | 462   | 633    | 488    | 3,750  |
| 2月  | 366   | 129   | 240   | 212   | 270   | 187   | 189   | 226   | 329    | 450    | 2,598  |
| 3月  | 469   | 221   | 362   | 297   | 331   | 296   | 366   | 329   | 528    | 549    | 3,748  |
| 合計  | 4,103 | 5,834 | 5,095 | 6,494 | 8,553 | 8,142 | 7,375 | 9,067 | 10,437 | 10,513 | 75,613 |

##### ②平成21～28年度までの月別入館者数

|     | 21     | 22     | 23     | 24     | 25     | 26    | 27     | 28     | 計      | ①②合計    |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|---------|
| 4月  | 1,192  | 799    | 920    | 1,244  | 1,201  | 1,150 | 969    | 1,103  | 8,578  | 14,904  |
| 5月  | 1,978  | 1,755  | 1,223  | 1,127  | 1,359  | 967   | 991    | 1,330  | 10,730 | 19,380  |
| 6月  | 934    | 1,597  | 1,277  | 1,143  | 1,360  | 1,207 | 1,345  | 1,527  | 10,390 | 18,699  |
| 7月  | 1,537  | 1,117  | 1,278  | 1,243  | 1,590  | 1,296 | 1,100  | 1,689  | 10,850 | 18,876  |
| 8月  | 1,370  | 982    | 1,230  | 1,727  | 1,809  | 1,291 | 1,709  | 1,257  | 11,375 | 19,507  |
| 9月  | 1,169  | 995    | 1,110  | 1,018  | 1,242  | 825   | 1,178  | 988    | 8,525  | 15,048  |
| 10月 | 1,120  | 1,214  | 839    | 1,019  | 1,382  | 903   | 910    | 758    | 8,145  | 15,688  |
| 11月 | 745    | 794    | 539    | 736    | 714    | 686   | 911    | 720    | 5,845  | 13,476  |
| 12月 | 577    | 370    | 423    | 426    | 411    | 344   | 513    | 431    | 3,495  | 7,872   |
| 1月  | 516    | 344    | 379    | 551    | 603    | 413   | 685    | 763    | 4,254  | 8,004   |
| 2月  | 374    | 268    | 286    | 405    | 524    | 283   | 542    | 361    | 3,043  | 5,641   |
| 3月  | 472    | 511    | 696    | 654    | 622    | 381   | 706    | 866    | 4,908  | 8,656   |
| 合計  | 11,984 | 10,746 | 10,200 | 11,293 | 12,817 | 9,746 | 11,559 | 11,793 | 90,138 | 165,751 |

は各月で最多（平成11年度を除く）

## 特別展示期間中の入館者数

| 展 示 タ イ ト ル                   | 期 間                    | 入館者数   |
|-------------------------------|------------------------|--------|
| (公財)北海道埋蔵文化財センター平成27年度発掘調査成果展 | 3月26日(土)～5月29日(日)      | 2,648  |
| 北の縄文—縄文探訪と縄文工房— 恵庭市出土資料を中心に   | 7月9日(土)～9月25日(日)       | 3,534  |
| 北海道遺跡百選9「縄文と手形・足形」            | 12月3日(土)～平成29年2月26日(日) | 1,516  |
| 特別展示期間中の入館者数 合計               |                        | 7,698  |
| 世界遺産をめざす北の縄文展                 | 4月1日(水)～平成28年3月31日(木)  | 11,793 |

## 一般道民対象の講座 考古学講座「連続講演会・講座 考古学を知る・学ぶ」として実施

| 年     | 月  | 日  | 曜日 | 事 業 名                                 | 参加人数 |
|-------|----|----|----|---------------------------------------|------|
| 平成28年 | 5  | 28 | 土  | 考古学を知る・学ぶ 連1 「遺跡が語る北海道の歴史—旧石器からビールまで」 | 75   |
|       | 9  | 24 | 土  | 考古学を知る・学ぶ 連3 「縄文文化研究の現状と北海道」          | 114  |
|       | 10 | 22 | 土  | 考古学を知る・学ぶ 連4 「縄文人に挑戦」                 | 20   |
| 平成29年 | 1  | 28 | 土  | 考古学を知る・学ぶ 連6 「擦文・オホーツク・アイヌ文化の考古学」     | 114  |
|       | 3  | 11 | 土  | 考古学を知る・学ぶ 連7 「北東アジアの中の北海道」            | 101  |
| 計     |    |    |    |                                       | 424  |

## 児童生徒学生対象の体験型講座

| 年     | 月 | 日  | 曜日 | 事 業 名                                | 参加人数 |
|-------|---|----|----|--------------------------------------|------|
| 平成28年 | 7 | 24 | 土  | こども考古学教室「まいぶん遺跡探検隊 第1次」 土器に関する体験     | 21   |
|       | 8 | 7  | 土  | こども考古学教室「まいぶん遺跡探検隊 第2次」 石器に関する体験     | 30   |
| 平成29年 | 1 | 7  | 土  | こども考古学教室「まいぶん遺跡探検隊 第3次」 火おこしに関する体験   | 20   |
|       | 1 | 14 | 土  | こども考古学教室「まいぶん遺跡探検隊 第4次」 発掘体験         | 21   |
|       | 2 | 4  | 土  | こども考古学教室「まいぶん遺跡探検隊 第5次」 親子でガラス玉づくり体験 | 8    |
| 計     |   |    |    |                                      | 100  |

## 講演会 考古学講座「連続講演会・講座 考古学を知る・学ぶ」として実施

| 年     | 月  | 日  | 曜日 | 事 業 名                               | 参加人数 |
|-------|----|----|----|-------------------------------------|------|
| 平成28年 | 7  | 23 | 土  | 考古学を知る・学ぶ 連2 夏季講演会 「日本の旧石器文化の中の北海道」 | 114  |
|       | 11 | 26 | 土  | 考古学を知る・学ぶ 連5 秋季講演会 「弥生文化と縄文文化」      | 139  |
| 計     |    |    |    |                                     | 253  |

## 児童生徒対象の出前講座（事業）

| 年     | 月  | 日  | 曜日 | 実 施 場 所           | 備 考              | 参加人数 |
|-------|----|----|----|-------------------|------------------|------|
| 平成28年 | 6  | 11 | 土  | 福島町吉岡支所           | 福島学ジュニア（福島小、吉岡小） | 24   |
|       | 7  | 2  | 土  | 雨竜町公民館            | 2016ちびっこチャレンジ教室  | 28   |
|       | 7  | 29 | 金  | 蘭越町民センターらぶちゃんホール  | ちびっこチャレンジクラブ     | 26   |
|       | 8  | 10 | 水  | 美唄市ピパオイの里プラザ      | 平成28年度キッズアートスクール | 48   |
|       | 10 | 8  | 土  | 厚岸町立真龍小学校         | 「まが玉づくり教室」       | 43   |
|       | 11 | 6  | 日  | 苫前町公民館            | 2016ちびっこチャレンジ教室  | 35   |
|       | 11 | 19 | 土  | 津別町中央公民館・講堂・調理実習室 | アソビバ！つべつ『考古学教室』  | 20   |
|       | 12 | 3  | 土  | 由仁町ゆめっく館          | 考古学教室出前講座        | 20   |
| 計     |    |    |    |                   |                  | 244  |

## 近隣市町村対象出前講座（依頼）

| 年     | 月  | 日  | 曜日 | 実施場所              | 備考                | 参加人数 |
|-------|----|----|----|-------------------|-------------------|------|
| 平成28年 | 8  | 6  | 土  | 当別町当別小学校体育館       | 子ども週末活動事業わくわくキッズ  | 30   |
|       | 8  | 27 | 土  | 江別市市役所敷地及び市民会館    | まるごと江別2016 まが玉づくり | 55   |
|       | 11 | 16 | 水  | 長沼町立北長沼中学校 2F理科室  | 地域学習、本物土器、ミニチュア土器 | 11   |
| 平成29年 | 3  | 12 | 日  | 当別町全久寺会館『サンデーひろば』 | まが玉づくりと当別町の遺跡     | 20   |
| 計     |    |    |    |                   |                   | 116  |

## 報告会

| 年     | 月 | 日  | 曜日 | 団 体 名 な ど                       | 参加人数 |
|-------|---|----|----|---------------------------------|------|
| 平成28年 | 4 | 16 | 土  | 平成27年度公益財団法人北海道埋蔵文化財センター発掘調査報告会 | 68   |
| 計     |   |    |    |                                 | 68   |

## 講師派遣

|   | 年     | 月  | 日    | 曜日  | 実施場所                     | 備考                  | 参加人数 |
|---|-------|----|------|-----|--------------------------|---------------------|------|
| 1 | 平成28年 | 7  | 9・10 | 土・日 | 札幌駅前通地下歩行空間 北4条イベントスペース  | 勾玉（まがたま）体験教室        | 80   |
| 2 |       | 7  | 29   | 金   | 北海道開拓の村 ビジターセンター         | 教員のための博物館の日 in 札幌   | 100  |
| 3 |       | 8  | 20   | 土   | 北翔大学北方圏学術情報センターP O R T O | N H K北海道ヒストリー「北の縄文」 | 60   |
| 4 |       | 11 | 3    | 木   | 士別市立博物館                  | こどもの文化財愛護活動推進事業     | 20   |
| 5 | 平成29年 | 3  | 11   | 土   | 「春のおでかけN H K」五稜郭タワー1階    | ミニチュア土偶づくり          | 10   |
| 計 |       |    |      |     |                          |                     | 270  |

## 職場体験実習

|   | 学 校 名            | 受 入 期 間             | 備 考               | 参加人数 |
|---|------------------|---------------------|-------------------|------|
| 1 | 江別市立江別第三中学校（2年生） | 8月24日（水）～8月26日（金）   | 受付・展示・図書関連作業、教材作成 | 2    |
| 2 | 江別市立野幌中学校（2年生）   | 10月18日（火）～10月20日（木） | 受付・展示・図書関連作業、教材作成 | 3    |
| 3 | 江別市立江別第一中学校（2年生） | 10月25日（火）～10月27日（木） | 受付・展示・図書関連作業、教材作成 | 3    |
| 4 | 江別市立江別第二中学校（2年生） | 10月25日（火）～10月27日（木） | 受付・展示・図書関連作業、教材作成 | 3    |
| 5 | 江別市立大麻東中学校（2年生）  | 10月31日（金）～11月2日（水）  | 受付・展示・図書関連作業、教材作成 | 3    |
| 6 | 江別市立大麻中学校（2年生）   | 11月8日（火）～11月10日（木）  | 受付・展示・図書関連作業、教材作成 | 2    |
| 計 |                  |                     |                   | 16   |

## インターンシップ

|   | 学 校 名    | 受 入 期 間   | 備 考               | 参加人数 |
|---|----------|-----------|-------------------|------|
| 1 | 北海道立手稲高校 | 10月27日（木） | 受付・展示・図書関連作業、教材作成 | 2    |
| 計 |          |           |                   | 2    |

## 博物館実習

|   | 学 校 名  | 受 入 期 間           | 備 考                | 参加人数 |
|---|--------|-------------------|--------------------|------|
| 1 | 札幌学院大学 | 7月19日（水）～7月26日（土） | 受付・展示・収蔵・保管環境・保存処理 | 2    |
| 2 | 北翔大学   | 7月19日（水）～7月26日（土） | 受付・展示・収蔵・保管環境・保存処理 | 2    |
| 3 | 札幌大学   | 7月19日（水）～7月26日（土） | 受付・展示・収蔵・保管環境・保存処理 | 1    |
| 4 | 京都女子大学 | 7月19日（水）～7月26日（土） | 受付・展示・収蔵・保管環境・保存処理 | 1    |
| 計 |        |                   |                    | 6    |

## 指導者研修 平成28年度北海道立埋蔵文化財センター活用学習のための指導者研修

|   | 年     | 月 | 日  | 曜日 | 団 体 名 な ど                                 | 参加人数 |
|---|-------|---|----|----|---|------|
| 1 | 平成28年 | 8 | 3  | 水  | 星置養護学校石狩紅葉山校、展示解説及びバックヤードツアー              | 1    |
| 2 |       | 8 | 5  | 金  | 砂川市立砂川中央小学校、展示解説及びバックヤードツアー               | 1    |
| 3 | 平成29年 | 1 | 11 | 水  | 北広島市立西武中学校、展示解説及びバックヤードツアーとまいぶん遺跡探検隊第4次参加 | 1    |
| 4 |       | 1 | 11 | 水  | 登別市立幌別東小学校、展示解説及びバックヤードツアーとまいぶん遺跡探検隊第4次参加 | 1    |
| 5 |       | 1 | 14 | 土  | 八雲町立落部中学校、展示解説及びバックヤードツアーとまいぶん遺跡探検隊第4次参加  | 1    |
| 計 |       |   |    |    |   | 5    |

## (2) 団体利用者対応

### 小学校

|   | 年     | 月 | 日  | 曜日 | 団体名・見学・体験等                    | 参加人数 |
|---|-------|---|----|----|-------------------------------|------|
| 1 | 平成28年 | 4 | 27 | 水  | 札幌市立小野幌小学校体験学習（展示室探検ラリー・火起こし） | 32   |
| 2 |       | 5 | 6  | 金  | 札幌市立小野幌小学校体験学習（展示室探検ラリー・火起こし） | 34   |
| 3 |       | 5 | 12 | 木  | 札幌市立小野幌小学校体験学習（展示室探検ラリー・火起こし） | 36   |
| 4 |       | 5 | 18 | 水  | 江別市立上江別小学校6年生（展示見学、体験学習）      | 140  |
| 5 |       | 6 | 3  | 金  | 札幌市立東橋小学校（展示見学、体験学習）          | 48   |
| 6 |       | 6 | 21 | 火  | 江別市立文京台小学校（展示見学、体験学習）         | 28   |
| 7 |       | 9 | 8  | 木  | 岩見沢市立幌向小学校体験学習                | 40   |
| 計 |       |   |    |    |                               | 358  |

### 中学校

|   | 年     | 月  | 日  | 曜日 | 団体名・見学・体験等                    | 参加人数 |
|---|-------|----|----|----|-------------------------------|------|
| 1 | 平成28年 | 5  | 13 | 金  | ①当別町西当別中学校（展示見学、体験学習）         | 29   |
| 2 |       | 5  | 13 | 金  | ②当別町西当別中学校（展示見学、体験学習）         | 34   |
| 3 |       | 9  | 7  | 水  | 江別市大麻東中学校特殊支援学級遠足（展示見学、体験学習）  | 22   |
| 3 |       | 10 | 7  | 金  | 新篠津村立新篠津中学校 特殊支援学級（展示見学、体験学習） | 6    |
| 計 |       |    |    |    |                               | 91   |

## 大 学

|    | 年     | 月  | 日  | 曜日 | 団体名・見学・体験等               | 参加人数 |
|----|-------|----|----|----|--------------------------|------|
| 1  | 平成28年 | 4  | 19 | 火  | 北翔大学佐々木先生講義利用（地域学Ⅰ）      | 10   |
| 2  |       | 4  | 27 | 水  | 札幌学院大学大塚先生講義利用（考古学A）     | 45   |
| 3  |       | 4  | 28 | 木  | 札幌学院大学大塚先生講義利用（博物館資料論）   | 12   |
| 4  |       | 4  | 28 | 土  | 札幌学院大学大塚先生講義利用（大塚ゼミナール）  | 8    |
| 5  |       | 5  | 29 | 日  | 北翔大学太田先生講義利用             | 20   |
| 6  |       | 6  | 9  | 木  | 札幌学院大学大塚先生講義利用（博物館資料論）   | 10   |
| 7  |       | 6  | 30 | 木  | 北翔大学笹木先生講義利用             | 8    |
| 8  |       | 7  | 3  | 日  | 北翔大学笹木先生講義利用             | 23   |
| 9  |       | 7  | 4  | 月  | 北翔大学園部先生講義利用（博物館資料保存論）   | 5    |
| 10 |       | 7  | 13 | 水  | 札幌学院大学大塚先生講義利用（考古学A）     | 40   |
| 11 |       | 7  | 14 | 木  | 札幌学院大学大塚先生講義利用（博物館資料論）   | 12   |
| 12 |       | 7  | 21 | 木  | 札幌学院大学留学生台湾、韓国ほか（体験利用）   | 22   |
| 13 |       | 10 | 6  | 木  | 札幌学院大学大塚先生講義利用           | 13   |
| 14 |       | 10 | 14 | 火  | 札幌学院大学長沼先生講義利用           | 16   |
| 15 |       | 11 | 12 | 土  | 札幌国際大学笹島先生講義利用（博物館資料論）   | 11   |
| 16 |       | 11 | 30 | 日  | 北翔大学小杉先生講義利用             | 9    |
| 17 |       | 12 | 1  | 木  | 札幌学院大学菊地先生講義利用           | 28   |
| 18 |       | 12 | 7  | 木  | 北翔大学小杉先生講義利用             | 7    |
| 19 |       | 12 | 15 | 木  | 札幌学院大学大塚先生講義利用（大塚ゼミナール）  | 14   |
| 20 |       | 12 | 21 | 水  | 北翔大学小杉先生講義利用             | 8    |
| 21 | 平成29年 | 1  | 31 | 火  | 札幌学院大学留学生台湾、韓国ほか（体験利用）   | 51   |
| 22 |       | 2  | 1  | 水  | 札幌市立大学福岡先生講義利用（博物館資料保存論） | 11   |
| 計  |       |    |    |    |                          | 383  |

## 教育関係の団体

|    | 年     | 月  | 日  | 曜日 | 団体名・見学・体験等                      | 参加人数 |
|----|-------|----|----|----|---------------------------------|------|
| 1  | 平成28年 | 5  | 27 | 金  | 道立教育研究所研修生施設見学                  | 16   |
| 2  |       | 5  | 31 | 火  | 道議会議員大崎文教委員長視察                  | 7    |
| 3  |       | 6  | 3  | 金  | 札幌モエレ沼公園学芸員                     | 3    |
| 4  |       | 6  | 25 | 土  | 長沼町教育委員会団体利用「縄文文化と郷土史跡めぐり」      | 35   |
| 5  |       | 6  | 8  | 金  | 大樹町教育委員会教育員                     | 6    |
| 6  |       | 8  | 2  | 火  | 道立教育研究所研修生施設見学                  | 9    |
| 7  |       | 8  | 24 | 水  | 上ノ国町文化財保護審議委員                   | 5    |
| 8  |       | 8  | 25 | 木  | 江別市聚楽学園                         | 29   |
| 9  |       | 8  | 30 | 火  | 道立教育研究所研修生施設見学                  | 5    |
| 10 |       | 9  | 1  | 木  | 道立教育研究所研修生施設見学                  | 5    |
| 11 |       | 9  | 4  | 日  | 北広島市「まちをすきになる市民大学」              | 8    |
| 12 |       | 9  | 8  | 木  | 長沼町教育研究協議会社会科部員教員研修 小学校6名 中学校2名 | 9    |
| 13 |       | 9  | 13 | 火  | 道立教育研究所研修生施設見学                  | 8    |
| 14 |       | 9  | 14 | 水  | 道立教育研究所研修生施設見学                  | 13   |
| 15 |       | 9  | 15 | 木  | 道立教育研究所研修生施設見学                  | 3    |
| 16 |       | 9  | 24 | 土  | 今金町文化財審議委員                      | 6    |
| 17 |       | 10 | 12 | 木  | 道立教育研究所研修生施設見学                  | 6    |
| 18 |       | 11 | 1  | 火  | 道立教育研究所研修生施設見学                  | 7    |
| 19 |       | 11 | 8  | 火  | 道立教育研究所研修生施設見学                  | 7    |
| 20 |       | 11 | 15 | 火  | 道立教育研究所研修生施設見学                  | 3    |
| 21 | 平成29年 | 2  | 23 | 木  | かるちゃんnet会議                      | 7    |
| 計  |       |    |    |    |                                 | 197  |

## 児童関係の団体

|   | 年 | 月 | 日  | 曜日 | 団体名・見学・体験等            | 参加人数 |
|---|---|---|----|----|-----------------------|------|
| 1 |   | 4 | 10 | 日  | 小規模多機能「ごきげん福住」 縄文工房利用 | 10   |
| 2 |   | 4 | 19 | 火  | 児童デイサービスほほえみ 縄文工房利用   | 12   |
| 3 |   | 4 | 29 | 土  | 児童デイサービスぶんぶん 縄文工房利用   | 10   |
| 4 |   | 6 | 4  | 土  | 児童発達支援事業所めばえ 縄文工房利用   | 6    |
| 5 |   | 6 | 4  | 土  | 児童デイサービスぶんぶん 縄文工房利用   | 10   |
| 6 |   | 6 | 18 | 土  | トライアングルピース            | 18   |
| 7 |   | 6 | 22 | 水  | 児童デイサービスほほえみ 縄文工房利用   | 12   |
| 8 |   | 6 | 26 | 日  | 小規模多機能「ごきげん福住」 縄文工房利用 | 10   |

|    |       |    |    |   |                             |     |
|----|-------|----|----|---|-----------------------------|-----|
| 9  |       | 7  | 27 | 水 | 放課後デイサービス「とらいあぐるピース」        | 21  |
| 10 |       | 7  | 29 | 金 | 児童デイサービスかがやき 縄文工房利用         | 20  |
| 11 |       | 7  | 29 | 金 | ケアサポ北郷 縄文工房利用               | 20  |
| 12 | 平成28年 | 7  | 30 | 土 | 地域サポートサービスりふ 縄文工房利用         | 5   |
| 13 |       | 8  | 4  | 木 | 大麻小学校ミニ児童館 縄文工房利用           | 16  |
| 14 |       | 8  | 20 | 土 | 児童発達支援事業所めばえ 縄文工房利用         | 5   |
| 15 |       | 8  | 31 | 水 | 児童デイサービスほほえみ 縄文工房利用         | 5   |
| 16 |       | 9  | 23 | 金 | 児童デイサービスほほえみ 縄文工房利用         | 6   |
| 17 |       | 9  | 24 | 土 | サンサンキッズ子供 縄文工房利用            | 7   |
| 18 |       | 11 | 5  | 土 | A B C児童デイサービス 縄文工房利用        | 15  |
| 19 |       | 11 | 12 | 土 | 児童デイサービスきらりはと 縄文工房利用        | 6   |
| 20 |       | 11 | 13 | 日 | えにわクラブ第二恵庭クラブ 縄文工房利用        | 6   |
| 21 |       | 12 | 3  | 土 | 放課後デイサービスあじさいⅡ 縄文工房利用       | 7   |
| 22 |       | 12 | 10 | 土 | きずな見晴台 縄文工房利用               | 7   |
| 23 |       | 12 | 14 | 水 | 文京台小学校かがやき学級                | 4   |
| 24 |       | 12 | 24 | 土 | 児童発達支援事業所めばえ 縄文工房利用         | 6   |
| 25 | 平成29年 | 1  | 6  | 金 | 放課後デイサービスあじさいⅡ 縄文工房利用       | 10  |
| 26 |       | 1  | 10 | 火 | 放課後デイサービス「とらいあぐるピース」 縄文工房利用 | 20  |
| 27 |       | 1  | 11 | 水 | サンサンキッズ子供 縄文工房利用            | 37  |
| 28 |       | 1  | 11 | 水 | 児童デイサービスきらきら幸町 縄文工房利用       | 13  |
| 29 |       | 1  | 13 | 金 | 放課後等デイサービスわくわくSeeds 縄文工房利用  | 16  |
| 30 |       | 3  | 28 | 火 | 児童デイサービスぶんぶん 縄文工房利用         | 11  |
| 計  |       |    |    |   |                             | 351 |

### 高齢者関係の団体

|    | 年     | 月  | 日  | 曜日 | 団体名・見学・体験等                   | 参加人数 |
|----|-------|----|----|----|------------------------------|------|
| 1  | 平成28年 | 4  | 21 | 木  | デイサービスみのりの丘 縄文工房利用           | 22   |
| 2  |       | 7  | 18 | 月  | デイサービスセンターふくろうの森 縄文生活体験ひろば利用 | 12   |
| 3  |       | 7  | 18 | 月  | デイサービスつばさ 縄文生活体験ひろば利用        | 5    |
| 4  |       | 9  | 15 | 木  | 茶話本舗デイサービス野幌 縄文工房利用          | 12   |
| 5  |       | 9  | 23 | 金  | デイサービスセンターつばさ 縄文工房利用         | 6    |
| 6  |       | 10 | 18 | 火  | 江別ケアパークそよ風 縄文工房利用            | 19   |
| 7  |       | 11 | 16 | 水  | ゆめみばなデイサービス 縄文工房利用           | 14   |
| 8  |       | 12 | 4  | 日  | 小規模多機能居宅介護ごきげん福住 縄文工房利用      | 10   |
| 9  |       | 12 | 6  | 火  | 江別ケアパークそよ風 縄文工房利用            | 19   |
| 10 | 平成29年 | 1  | 17 | 火  | 札幌ロイヤル病院デイケア海 縄文工房利用         | 10   |
| 計  |       |    |    |    |                              | 129  |

### その他の団体

|    | 年     | 月  | 日  | 曜日 | 団体名・見学・体験等                          | 参加人数 |
|----|-------|----|----|----|-------------------------------------|------|
| 1  | 平成28年 | 4  | 24 | 日  | さっぽろ縄文探検隊（大島直行ほか）                   | 28   |
| 2  |       | 6  | 8  | 水  | N H K室蘭土器番組取材 番組名 つながるきたカフェ 6月27日放送 | 4    |
| 3  |       | 6  | 8  | 水  | N P O法人千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク           | 4    |
| 4  |       | 6  | 25 | 土  | シーピーツアーズ施設見学                        | 11   |
| 5  |       | 6  | 26 | 日  | J S Sあいのさとスイミングスクール                 | 44   |
| 6  |       | 7  | 15 | 金  | 北海道大学箕島准教授他科研メンバー                   | 12   |
| 7  |       | 7  | 28 | 木  | 千歳市市民協働まちづくりガイドバス事業                 | 35   |
| 8  |       | 7  | 31 | 日  | 縄文Z I N編集部                          | 5    |
| 9  |       | 8  | 1  | 金  | 手稲早起きして一万歩歩く会                       | 5    |
| 10 |       | 8  | 3  | 日  | 手稲早起きして一万歩歩く会                       | 86   |
| 11 |       | 8  | 24 | 水  | 早稲田大学バスツアー                          | 21   |
| 12 |       | 8  | 26 | 金  | 中世史サマーセミナー                          | 42   |
| 13 |       | 9  | 2  | 金  | 上野幌町内会女性部                           | 48   |
| 14 |       | 10 | 11 | 火  | N H K番組取材                           | 4    |
| 15 |       | 10 | 16 | 日  | 恵庭市ハイキング友の会                         | 22   |
| 16 |       | 10 | 26 | 水  | 縄文虻田フレナイの会                          | 14   |
| 17 | 平成29年 | 1  | 19 | 木  | 千葉県加曾利貝塚ボランティア                      | 4    |
| 18 |       | 1  | 26 | 木  | ふれあい交流館                             | 3    |
| 19 |       | 2  | 2  | 木  | ふれあい交流館                             | 6    |
| 計  |       |    |    |    |                                     | 398  |

|        |  |  |  |  |  |       |
|--------|--|--|--|--|--|-------|
| 団体利用者計 |  |  |  |  |  | 1,907 |
|--------|--|--|--|--|--|-------|

## 7 講演会要旨

### (1) 夏季講演会

考古学講座連続講演会・講座連2

#### 『日本の旧石器文化の中の北海道』

講師：稲田 孝司 氏 (岡山大学名誉教授)

#### 1. はじめに

今日は、三つのこと  
がらについてお話しし  
ます。一つは、北海道  
の最古段階の旧石器文  
化についてです。本州  
でも最古段階の様子は  
まだ分からないことが  
多く、日本の旧石器時  
代がどのようにはじ  
まったのかという疑問は未解決です。すぐに答え  
はだせないのですが、何が問題になっているのか  
についてふれます。



二つ目は、細石刃文化について。北海道の旧石  
器文化がもっとも輝いていた時代の話です。この  
文化が南下し、本州へ伝播・波及していった様子  
をたどります。

三つ目は、石槍の話です。北海道では大量の旧  
石器時代資料が出土し研究も進んでいるが、とり  
わけ出土石器数が膨大すぎるので、これからまだ  
まだ研究を深めていく余地があるようです。その  
なかで特に石槍について、現在ヨーロッパでどの  
ような研究がすすめられているかを紹介し、北海  
道における今後の研究に大いに期待しようという  
わけです。

#### 2. 北海道最古の石器文化

##### <細石刃文化以前の石器群>

北海道では細石刃文化がはじまる2万5000年前  
より古い時期にどのような石器文化があったので  
しょうか。直江康雄さんの論文によると、細石刃  
文化以前の第I期には六つの石器群が属するよう  
です(直江2014)。

第1群は台形(様)石器の石器群。台形石器と  
いうのは、親指の爪かその倍くらいの小さな石器。  
素材となる剥片の基部や側縁に刃潰しのような加  
工を少しほどこし、逆台形の上部の薄い縁辺を刃

部にする石器です。

第2群は広郷型尖頭状石器。広郷型ナイフ形石  
器と呼ばれたこともあるのですが、本州のナイフ  
形石器と違って、薄い面的な広がりをもつ剥離で  
基部や側縁を調整するのが特徴です。

第3群は基部加工のナイフ形石器。長万部町オ  
バルベツ2遺跡から出土しており、この石器は基  
部や先端をわずかに加工しただけで、東北地方の  
ナイフ形石器と似ています。

第4・5・6群は小型の搔器や削器を主体とす  
る石器群で、石刃を含むものと含まないものがみ  
られます。搔器を主体とする石器群は2万7000年  
前から2万5000年前頃に位置づけられています。  
全体の6群がどのような年代順で変遷したかをた  
どることは、現状では放射性炭素の年代測定や層  
位の比較などによってもなかなか難しい。北海道  
の最古の旧石器文化については、現時点では多様  
な石器群があることが判明し、その細かい新旧関  
係の研究はこれからだということでしょう。

##### <多様な石器群と二つの変遷観>

直江さんの論文では第II期以降が細石刃文化と  
なり、細石刃文化の中では蘭越型細石刃石器群と  
峠下型1類・美利河型細石刃石器群がもっとも古  
いとされています。約2万5000年前という千歳市  
柏台1遺跡で判明した放射性炭素年代を手がかり  
にしているわけです。このあとの第III期・第IV期  
にもたくさんの石器群のグループ名が出てくるの  
ですが、専門的すぎるので省略しましょう。重要  
なのは、研究者により、石器群の変遷観に大きな  
違いがあるという点です。一方は、これまでに発  
見された石器類をできるだけ細かくグループ分け  
し、細分した石器群を単位にして時期を限定し分  
布の広がりをとらえようとする考え方です。

他方、そのように細分された石器群は必ずしも  
時間的・空間的な単位にはならず、互いが組み合  
わさったり時間的に併行したりするあり方を重視  
する立場がある。例えばテクノ・コンプレックス  
説の木村英明さんは、製作技術が異なるいくつか  
の細石刃核(峠下型、札滑型、白滝型)の石器群  
は時間的に多少なりとも重なって併存していた、  
という編年を提案しています(木村2012)。

直江さんも併存するあり方は想定されているよ

うですが、どちらかというところ前者の傾向にあるように見えます。遺物自体の型式や組成の変化を第一基準にする。木村さんの考え方は、遺物の型式や技術の変化を、人間集団や集団どうしの関係の観点からとらえ直そうとするところに力点があるようです。二つの立場は必ずしも矛盾しないのですが、両方の観点からの議論がいつそう深められることを期待したいと思います。

細石刃文化とそれ以前の区別については学界でおよその考えは定まっていますが、それぞれの段階のなかでの細かい編年については、まだまだ議論が続きます。

#### <放射性炭素年代の問題>

本州との関係で問題点となることをいくつかふれておきます。一つは、白滝遺跡群における放射性炭素年代のあり方についてです。本州における旧石器時代のはじまりは3万7000年前、などといいますが、これは放射性炭素年代測定によっています。今のところ本州では、旧石器文化の型式学的な変遷と遺跡でだされる放射性炭素の年代とは、大筋では整合的です。

北海道埋蔵文化財センターが実施した白滝遺跡群の発掘調査でも多くの放射性炭素年代測定がなされているのですが、なぜか、同じ石器群に関係するらしい炭化物を測定しても、しばしばおれの大きい年代がでる。測定年代を基準にして石器群の変遷を秩序づける作業には困難が多いわけです。

白滝遺跡群はオホーツク海側に位置し、冬の寒さは厳しい。旧石器時代の最寒冷期の地層は、凍結作用の影響で地層が上下・左右に乱れる場合があります。そんな影響を受け、石器や年代測定の方法になる炭化物が二次的に動いて混乱が生じているのかもしれませんが。あるいは石器群という編年単位の把握の仕方に、もっと工夫を重ねる必要があるのかもしれませんが。石器群の細分主義と、石器群を複合的にとらえる見方、こうした問題がからむ可能性があるのかもしれませんが。

#### <日本列島における石刃技法の起源>

北海道で発見された台形石器は本州の台形石器の影響を受けたもの、という見解が有力なようです。基部加工のナイフ形石器も東北地方からの影

響をうけ、道南の長万部地域まではひろがった。本州の最古段階の石器群が北海道に影響を与えているという見方です。

ただし、年代的には5千年ほどの差が見られる。台形石器など本州の古い旧石器文化は3万7000年前からはじまるが、北海道では3万年前からどこまで古くさかのぼるかがまだはっきりしていない。

日本列島における石刃技法の起源はどこにあるのでしょうか。ヨーロッパやシベリアなどのユーラシア大陸では、石刃技法が後期旧石器時代の指標になっています。後期旧石器時代初頭の地形がどうであっても、北海道がもっともシベリアの影響を受けやすい地域であることはまちがいない。シベリアの石刃文化がサハリンと北海道経由で本州まで伝わってきたとすれば、このようなルートを想定するのが一番わかりやすい。

ただし、日本の石刃石器群の代表的な器種であるナイフ形石器は、ごく一部の例外的な事例を除けば、シベリア・中国・韓半島では見られない。北海道でも、先ほどあげた一部の例外的なナイフ形石器や台形石器があるものの、本州・四国・九州で一般的な石刃の二側縁を刃潰しで加工したナイフ形石器はほぼ皆無といってよい。北海道の細石刃文化以前の石器群は、基本的にナイフ形石器文化とは異質な面が多い。3万年前以前の北海道でどのような石器群が成立していたのか、今後の研究成果次第なのですが、ナイフ形石器が本州以南で生まれたとしても、北海道経由で石刃技法が伝来した可能性はまだ完全には否定できないように思えます。

北海道の石刃技法の歴史をたどった直江さん・鈴木宏行さん・坂本尚史さんの共著論文（直江他2016）によると、一番古い段階の石刃製作では、予備的な調整をしないで石の塊の一端を打ち欠き、その平坦な剥離面を打面として順次石刃を剥ぎ取っていく。こういう技法の段階のあと、技術が進んで、石塊をあらかじめラグビーボールのような形に整形するようになる。その石核の一端を剥離して打面を作り、その打面を叩いて規格的な石刃を多数剥ぎ取るわけです。技術は、確かに単純な石核から複雑な技法へと北海道のなかで発達

しているようにみえます。

では、その最初の石刃技法は、どこに由来するのでしょうか。本州から影響を受けたのか、それとも大陸からの影響か。石刃技法が本州から伝わったのであれば、本州への伝播がどこからかを明らかにしなければならないが、これがよくわからない。朝鮮半島を経由して伝播するというコースがひとつ考えられるけれども、朝鮮半島には日本の後期旧石器文化とはおおきく違う文化がある。

沖縄地域では、石灰岩地域が多いため、動物や人骨などの骨がみつきやすい。旧石器時代の化石人骨は現在までに10か所ほどみついているが、石器は発見されていません。台湾には、2万年ほど前の遺跡がみつっていますが、石刃の文化はありません。現状では、刃部磨製石斧、蒸し焼き料理用の礫群、落し穴などと組み合わさった石刃石器文化は日本周辺の大陸ではほとんど知られていない。

日本列島内で独自に石刃技法が発達した可能性も考えられなくはないのですが、そうとう難しい。それよりも北海道の旧石器時代遺跡で3万年前よりも古い遺跡、本州の最古かそれよりもっと古い遺跡が見つかり、そこにすでに石刃技法かその祖先となる技術がすでに含まれている、といったシナリオの方がまだ可能性は大きいのではないのでしょうか。あくまでも一つの見込みです。いずれにせよ、これは推測や憶測で急いで結論を出す問題ではなく、確実な資料を積み重ねていくことが大切です。

### 3. 北海道と本州の細石刃文化

#### <北海道細石刃石器群の多様性>

2番目の話題は、細石刃文化の時期に北海道と本州がどのように結びついてきたのか、ということです。

北海道の細石刃石器群は、長さが10cm前後かそれ以上の石刃やそれを素材にした石刃石器と、5cm以下の小さな細石刃との両方を含むのが一般的です。前車の石刃は、搔器や彫器などといった木や骨を加工する道具（加工具）の素材となる。後者の細石刃は、骨製穂先の側縁に替え刃として埋

め込んで、槍の部品になります。東北地方にも石刃と細石刃の共伴が少し見られますが、中部・関東地方以西ではほとんど石刃が含まれず、不定形な剥片を加工具の素材にします。細石刃と石刃が共存する石器群は、シベリア・中国東北部・韓半島などでもひろく見られるので、これが一般的な姿なのでしょう。逆にいうと、石刃技法をもたない本州・四国・九州の細石刃文化の方が特殊なのです。

また、北海道では多様な型式の細石核、つまりさまざまな細石刃製作技法が発達したのも特徴の一つです。細石刃を剥ぎ取るための細石核の形や技法を基準にして、蘭越型、峠下型、広郷型（射的山型）、美利河型、札滑型、白滝型、ホロカ型、忍路子型などと分類されています。多様な細石核型式や細石刃製作技法が発達したというのが北海道や大陸の共通した特徴で、本州・四国・九州の細石刃文化では少数型式の細石核しか見られない。北海道と本州の細石刃文化の間でもっとも興味ぶかい問題は、湧別技法の札滑型細石核を含む石器群を通して両地域が結びつくというあり方です。

#### <遠軽町白滝遺跡群の発掘調査>

旧白滝村（現在の遠軽町）に赤石山という黒曜石を産する山があります。ふもとの湧別川流域の河岸段丘上には、たくさんの旧石器時代遺跡が並んでいます。この段丘上に旭川と紋別を結ぶ高規格道路が建設されることになり、北海道埋蔵文化財センターが1995年から多数の遺跡で発掘調査を実施し、膨大な量の石器類が出土しました。一方、赤石山の山中にも旧石器時代遺跡があり、ホロカ沢遺跡遠間地点では木村英明さんが中心となって札幌大学の発掘調査がおこなわれました。

多少実施時期がずれるのですが、道埋文センターと札幌大学という別機関が調査をおこない、それぞれ報告書を刊行しているので、他地域の旧石器時代研究者にとっては、両方の情報を比較対照し、斟酌しながら石器群の内容を検討することができるのでたいへんありがたいわけです。赤石山中のホロカ沢遺跡遠間地点と、山麓の河岸段丘上の遺跡である上白滝2遺跡、この二つの遺跡のなかで湧別技法が主体をしめる石器群がどのよう

なあり方をするか、比較してみましょう。

二つの遺跡の間では、まず、石器の出土数という分布密度に大きな違いがあります。ホロカ沢遺跡では、わずか10m四方の場所から57万点の石器が出土し、細石刃2688点、細石核64点、細石核の元になる細石核原形461点、石刃・縦長剥片3769点などを含んでいました。非常に数が多い。木村さんは、この場所で石器や素材を集中生産し、製品を他の遺跡に持ち出し、そういうところでさらに石器の交換などがおこなわれていたのではないかと推察しています（木村1995）。

上白滝2遺跡では、出土石器総数は5888点。細石刃と細石刃核があり、石刃と石刃核、彫器、石錐、搔器などを含みます（長沼他編2001）。しかし細石刃14点、細石核4点と数が少ない。石刃は411点で多いですが、ホロカ沢遺跡に比べればやはり少ない。遊動する集団が、主として自分たちだけのために石器を作った遺跡のようです。山麓の河岸段丘上の遺跡では、たくさんの集団が集まって共同で石器作りをしたり、他の集団と交換のために自分たちが必要とする以上にたくさんの石器をつくる、といった特徴はあまり見られないようです。ただ河岸段丘上の遺跡でも1遺跡での石器総数は多いわけですから、良い原石のある当地へ各地の多くの集団がひんばんに訪れ、石器作りを繰り返したことは確かです。

#### <本州の湧別技法細石刃文化>

本州の細石刃文化には、大きく見れば二つの大きな地域性があります。東方地方、中部地方北半部、山陰地方には、北海道にあるのと同じ湧別技法でつくった札滑型の細石核が分布します。中部地方南半部から近畿、中・四国、九州の細石刃石器群は円錐・角柱形の細石核を特徴とします。今回の話で関係するのは前者の方です。

山形県角二山遺跡の細石刃石器群は、札滑型細石核を特徴としますが、石刃製作はほとんどなされておらず、搔器や削器などは、細石核の原形を製作する際にできる不定形な剥片を素材に使っています（桜井1992）。細石核原形と接合する剥片の中に削器が含まれているから、まちがいないのです。北海道では、木や皮の加工具をつくるための素材は細石刃製作とは別の石刃石核から作っ

ていたわけですから、角二山遺跡はそれとは異なっています。

新潟県荒屋遺跡の細石刃石器群も、やはり湧別技法でつくった札滑型の細石核が主体となっています（芹沢他編2003）。この遺跡からは、荒屋型彫器と呼ばれる独特の作り方の彫器が多数出土しました。石器の周辺全体を刃潰しし、最後に尖った先端に彫刻刀の刃をつけるのです。東北大学が発掘調査した資料のなかに、この荒屋型彫器と札滑型細石核が接合した例があります。ここでも、細石核原形の製作でできた剥片を加工具の素材に利用しているわけです。

さきほどの角二山遺跡もそうですが、石器の石材は珪質頁岩という堆積岩です。東北地方の日本海岸で産出する。白滝遺跡群のような火山岩の黒曜石とは異なりますが、北海道南部には珪質頁岩があるので東北地方の石材と類似します。

途中の地域は省略して、次は中国山地の恩原遺跡です。岡山県の鳥取県境に近いこの遺跡は、岡山大学が発掘調査しました。湧別技法による札滑型の細石核や細石刃が出土しており、細石核原形をつくる際の剥片を利用して彫刻刀を製作しています。これも接合資料で確実です（稲田編2009）。

#### <湧別技法が波及する経路>

中国山地の恩原遺跡に湧別技法細石刃石器群がのこされたのは、北海道の細石刃集団が東北地方や中部地方北半部へ南下して植民し、その集団の一部が再び日本海側の「幹線交通路」を通して中国地方へ植民した結果ではないか、と私は主張しています。他方、恩原遺跡は、距離的には朝鮮半島の方が近いのだから、そちらから伝播したのではないか、という研究者もいます。

どちらが妥当でしょうか。東北地方と中国地方の湧別技法の石器群には、細石核原形をつくるための両面調整品から作出された剥片を搔器・彫器等の加工具の素材に使う、という共通性がある点が重要です。搔器のなかに角二山型と呼ばれる特徴的な型式がある、これも共通点です。恩原の石材の一部に、東北地方の珪質頁岩によく似た石材が含まれる。実際に東北地方の石を持ってきたのかどうか確証はないのですが、似た石材がある。東北地方と恩原遺跡との間の日本海沿岸ルート上

では、富山県日の宮遺跡のように湧別技法の削片を細石核に転用したような資料も出土していません。恩原遺跡細石刃石器群のあり方を多面的に分析すれば、東北地方とのつながりは明瞭でしょう。

角二山遺跡では、札滑型の細石核が主体ですが、同時に1点の黒曜石製の円錐形細石核が出土しています。恩原遺跡でも湧別技法の石器群のなかに、黒曜石製の円錐形細石核から剥離された細石刃と打面再生剥片が含まれているのです。おそらく湧別技法をもった人間集団が北海道から本州へ植民する直前には、すでに九州に分布の中心をもつ円錐形・角柱形細石核が本州の北端まで広く波及していたのでしょう。角二山や恩原の事例は、先に居住していた円錐形・角柱形細石核をもつ集団と新しく植民してきた湧別技法集団との間に何らかの接触があったことを物語っているようです。

#### <道央・道南地域でカギとなる遺跡>

では、北海道の湧別技法集団はどのように本州へ南下する準備をしたのでしょうか。そこで問題となるのが、道央から道南にある三つの遺跡です。一つは、千歳市オルイカ2遺跡(三浦他編2005)。オルイカ2遺跡の接合資料には、湧別技法による細石核が中央にあり、周りに細石核原形をつくる時に剥離された剥片がたくさん接合した資料があります。接合した剥片の一枚が搔器に加工されています。東北地方と同じですね。

この遺跡では、石刃はいくらかありますが、まとまった石刃製作をおこなっていない。この点も東北地方に近いのです。石刃を組織的にたくさんつくった白滝遺跡群の湧別技法細石刃石器群とは様子が異なります。オルイカ2遺跡の出土石器の95%くらいは黒曜石製です。その黒曜石の産地は、白滝赤石山が主体で、十勝三股と置戸所山が少し含まれるという分析結果です。今年2016年に公表された鈴木宏行さんの論文(2016)によると、白滝産黒曜石を使って石器製作をする集団は、湧別技法で札滑型細石核をつくる時期には、道央部くらいまでの遊動領域をもっていたようです。遊動というのは、一カ所に定住せずに狩りや植物採集をおこない、石器原石産地をめぐるなどして一定の領域を回遊する生活です。

二つめは厚真町上幌内モイ遺跡で、ここでも湧

別技法の札滑型細石核が出土しています(乾他編2006)。この遺跡の石器群では、黒曜石製石器が74%を占めています。オルイカ2遺跡に比べ黒曜石の比率が少し減少しており、黒曜石の多くは道東の置戸所山産です。黒曜石が主体であって、石刃をつくらない。この2点で上幌内モイ遺跡とオルイカ2遺跡はよく似ているのですが、黒曜石の比率が少し異なります。上幌内モイ遺跡で特徴的なのは、細石刃などは黒曜石製で、石錐は道南の石材であるメノウを利用し、搔器や削器などには同じく道南の石材である珪質頁岩を使う、といったように器種ごとで異なる石材を使う傾向が見られることです。遊動の仕方が、オルイカ2遺跡と上幌内モイ遺跡では少し違うのでしょうか。

三つめの遺跡は函館市の石川1遺跡です(長沼編1988)。この細石刃石器群には、湧別技法でつくられた細石核原形に搔器が接合した資料があります。細石核原形を製作する過程で剥ぎ取った剥片を利用して加工をつくる。この特徴は、オルイカ2遺跡や上幌内モイ遺跡、そして本州の湧別技法と同じですね。

この遺跡がオルイカ2遺跡や上幌内モイ遺跡と大きく異なるのは、出土石器類8781点のうち黒曜石がわずか135点、1.5%しかないという点です。そのかわり道南に産する頁岩が43.9%。メノウ質頁岩が42.3%、メノウが12.0%を占めます。石材が在地化しているというわけです。この点は、むしろ東北地方の角二山遺跡などとよく共通するのです。

石川1遺跡の黒曜石には104点の剥片が含まれていますから、黒曜石製の石核や細石核はなくても、少しは黒曜石で石器製作をしたのでしょう。石核類があったとしても、次の居住地へ持ち出されてこの遺跡には残らなかったのです。石材はすべて白滝産です。石川1遺跡の湧別技法集団は、この遺跡地に到着する前に、直接か間接的かは分からないが、何らかの形で白滝地域と関係があったのでしょうか。関係があったとしても、石器石材はもはや大部分が在地の石材に変わっている。道南に在地化して、白滝への思いは1%ほどに薄れてしまった、というところでしょうか。

この遺跡には、石刃がなく、形がやや崩れた縦

長剥片がある、と報告されています。両者の製作技法はそれほど変わらないので、ここでは石刃技法と同類のものがあると見ておきましょう。

石川1遺跡では、石器がまとまって出土する集中区が7カ所あります。これらのうちSb4集中区に37点の縦長剥片と6点の縦長剥片石核が含まれている。いずれもメノウ質頁岩製です。この遺跡のメノウ質頁岩3716点中、3504点がこのSb4集中区に集中する。また、尖頭器つまり石槍のことですが、10点のメノウ質頁岩製尖頭器がこの集中区だけに分布する。加えて、この集中区には細石刃や細石核がまったくない。要するにSb4集中区というのは、その他の六つの湧別技法の細石刃石器群主体の集中区とは異質で、もっぱらメノウ質頁岩を使って石槍と縦長剥片を製作した場なんです。たぶん、湧別技法集団が当地へ到着したあと、何らかの事情で二次的に付け加わった石器製作の場でしょう。

石川1遺跡の石器群の全体からSb4集中区の石器群を除外してみると、湧別技法による細石刃石器群の本来の姿が現れます。石刃技法をもたない点でオリカ2遺跡や上幌内モイ遺跡の湧別技法集団の石器群とよく類似する一方で、在地化がいつそう進んで黒曜石はほんの痕跡程度にしか残らない。ここまでくれば、もう本州の角二山遺跡などの湧別集団の石器群とあと一步の近さまで似通ってくるわけです。

北海道では細石刃石器群に石刃技法がともなうのがふつうです。そういう一般的なあり方のなかで、長距離移動を得意とした道央・道南の一部の湧別技法集団が、加工具の素材を細石核原形製作の際にできる剥片でまかなうように工夫した。つまり狩猟具と加工具の製作を一つの石器製作過程に統合し、石材の効率的な利用によって重い石材を持ち歩く負担を減らした。そして、石刃技法を捨てた。こういう準備の整った湧別技法集団こそが津軽海峡を越えて本州へ南下し、植民に成功したのではないのでしょうか。

オリカ2遺跡、上幌内モイ遺跡、石川1遺跡は、湧別技法集団が東北地方から日本海沿岸を経て中国地方まで領域を拡大できたかを考えるうえでとても重要な遺跡です。湧別技法は北海道にも

韓半島にもあるから、恩原の石器群は韓半島からきた可能性もある、といった漠然とした話では意味がありません。一つ一つの遺跡の証拠を積み上げて、人間集団の動向を具体的にたどることが学問的な手続きというものでしょう。

#### 4. 尖頭器の製作工程

##### <石川1遺跡の尖頭器>

3番目の話題、石槍の話に移ります。取り上げる遺跡は、いま話したばかりの石川1遺跡です。湧別技法集団の話の際に除外したSb4集中区ですが、こんどはこの集中区に含まれる尖頭器に注目しようというわけです。石川1遺跡は、現在、北海道埋文センターの理事をおつとめの長沼孝さんが若い頃に取り組まれた遺跡です。

この遺跡の報告書では、旧石器時代の尖頭器を製作する工程が詳しく分析されています。尖頭器そのものではなく、尖頭器を製作する際に剥ぎ取られた剥片が多数出土し、それが接合して原石の姿にまで復元された。その接合資料を使って製作工程を分析したのです。

製作工程の図は、尖頭器の原石の横断面で表現されています。完成された尖頭器自体は持ち去られて無いのですが、そのまわりの剥片（剥片群）の接合状態から剥離順を復元しています。例えば205の番号の接合資料では、打撃具で叩いた位置が、左右・表裏の4側辺上を13回移動したことが示されています。図の1側辺での打撃は、1回の剥離というより、複数回の剥片剥離の連続ということでしょう。また、1カ所の横断面で全部の剥離順がたどれるということも実際には希でしょうから、この図は剥離順の模式図といえるでしょう。

このあと述べるように、私は最近ヨーロッパの尖頭器の製作方法を研究していますが、欧米の研究者でも尖頭器の4側辺の剥離順をこれほど分かり易い図で示した例はないように思います。私も昔この報告書を読んだのですが、この図の記憶がなく、最近書いた尖頭器の論文でも引用するのをすっかり忘れていました。今回の講演の準備で再読し、驚いたわけです。尖頭器の製作工程を別の表現で模式化した図はいろいろあるのですが、日

本の1980年代にこんな図が書かれていたことは画期的なことでした。

#### <ヴォルギユ遺跡の尖頭器>

私が研究したのは、フランスで1874年にみつかったヴォルギユ遺跡の尖頭器です。およそ2万年前頃のソリュトレ文化に属します。これらの尖頭器は、最長で34cmにも達する大型品ばかりで、15本がまとまって出土した。あたかも荷造りされていたかのように、長軸をそろえて横に並んで置かれていたようです。運河をつくる土木工事の時にみつかったものです。発見されてから140年以上が経過し、現在、フランス南部のシャロン＝シュル＝ソーヌという町にあるドウノン博物館に13点があり、パリ近郊のサン＝ジェルマン＝アン＝レイの国立考古博物館とイギリスの大英博物館が各1点を所蔵しています。有名なわりに15点すべての図が報告されたことはなく、1990年代に全点を実測する機会に恵まれたので、それを最近二つの論文にまとめたのです（Inada 2014・2016）。石川1遺跡の資料との関係で、ここでは尖頭器の4側辺の加工手順について、お話しします。

#### <尖頭器の製作工程>

尖頭器の4側辺を加工するには、次のような方法で作業側辺を移動させることが可能です。錯向の位置移動、表裏の位置移動、対向の位置移動の三つです。

説明が少し込み入ります。まず錯向の位置移動というのは、最初に尖頭器の1面の1側辺で剥離作業をおこない、次に他面の他側辺で剥離作業をおこなう。2カ所の作業側辺が錯向位置にあり、英語でAlternate position shiftというので、記号をAとします。次は表裏の位置移動で、一側辺の表面で剥離作業をおこない、ついで同じ側辺の裏面で剥離作業をおこなう。Bifacial position shiftなので記号はBです。対向の位置移動は、一つの面で、右側片から左側辺へ、あるいは左側片から右側辺へと剥離作業位置を移す。Opposite position shiftなので、記号はOです。

作業位置の移動はこの3種類しかないが、しかしA、B、Oの単独では2側辺しか加工できない。4側辺を加工するには二つの位置移動を組み合わせる必要があります。そうするとOB、AB、AO、

BO、BA、OAという六つの加工手順になります。位置移動の原理は単純です。

しかし、完成された尖頭器の表面を観察して加工手順を復元しようとする、そう簡単にはいきません。1点の尖頭器の表裏面にのこる数十から数百の剥離面の輪郭を正確に図化し、重なり合った隣どうしの剥離面の新旧関係を矢印ですべて記入していく必要があります。

#### <片面の剥離工程>

片面で左右の作業側辺がどのように移動したかは、左右側辺から剥離された剥離面が重なる中央稜で判別することができます。1枚1枚の剥離面の順ではなく、連続して剥離された剥離面群を単位にして剥離順を決定することが重要です。これが片面の剥離順です。

表裏両面のそれぞれで片面の剥離順は復元できますが、これだけでは4側辺の加工順を知ることはできません。そこで、左右の側縁で表裏面の剥離がどのような順序になるかを探る必要があります。これがいちばん難しい。

尖頭器を製作する時には、薄くて幅の広い剥片を剥ぎ取りながら製品を薄く仕上げていきます。平面形の左右と断面形の表裏を、極限まで均整にしあげようとしています。ヴォルギユの尖頭器の厚さはほとんどが1cm以下です。そのため1枚1枚の剥片を剥離する前に、打面を整える必要がある。側縁を細かく削ったりつぶしたりするのです。側縁の打面調整がひんぱんになされると、それ以前におこなわれた平坦な剥離面の打面部が消されるので、表裏の剥離面どうしの新旧関係が分からなくなってしまいます。

1993～1994年にはじめて私がこの石器を実測した時は、側縁上で表裏の剥離面の新旧関係を追跡することは不可能だと判断し、その作業を放棄していました。そこで2014年に『フランス先史学会誌』に掲載された最初の論文では、15点の製作工程を片面の剥離順で読み解いたのです。しかしこれではなんとも物足りない。

先ほどもうしましたように、片面の剥離順では1回の剥離段階を1枚の剥離面ではなく、一連の剥離面群としてとらえます。剥離面群による剥離段階を整理する過程で、側縁で剥離面群どうしの

新旧関係を追究するのであれば、表裏の剥離面群のどこか1カ所でも新旧関係が分かるのであれば、それでよいわけです。側縁上に見える表裏の剥離面をすべて一つ一つ新旧関係を決めていく必要はない。このことに気づいたわけです。

ヴォルギユの尖頭器の側縁は、たしかに平坦剥離のための打面調整で潰れている部分が多い。けれども、すべての側縁が潰れているわけではない。剥離面群どうしの新旧関係であれば、表裏面の剥離順を追えるのではないか。こういう希望が出てきたわけです。やはり両面の剥離順でないと、旧石器人が石槍を製作した本当の姿が浮かんでこない。そこでさっそく三つの博物館に依頼して、もう一度見せてほしいとお願いしたのです。

#### <両面の剥離工程>

結果として14点で表裏の剥離順を追跡することができました。しかし表裏の剥離順が決まっただけで個々の石器の両面の剥離順がすぐに分かるかといえば、そう簡単ではない。さらに複雑な問題を解決しなければならぬのですが、時間がないので詳細は省きます。2016年に第2論文として結果をまとめました。

長さが34cmの尖頭器1例についてのみ、両面剥離過程を紹介しておきます。この尖頭器の最終仕上げ段階の剥離順は、OBOBOBOOという工程になります。OBの手順が規則的に繰り返されています。この規則化された手順こそが、尖頭器を均整に仕上げる秘密ではないか、というのが私の結論です。最後の不規則なOは、規則的なOBの反復とは別の、1回だけの剥離面です。画竜点睛というところでしょうか。最終の剥離で失敗し、そこで製作をやめた事例も少なくないのです。記号列の末尾はしばしば不規則になります。

#### <尖頭器製作工程の三つの研究法>

石器製作工程の研究には三つの方法があります。一つは、いま紹介したような石器の完成品からその剥離面の重なりを読み解く方法です。二つめは、長沼さんが石川1遺跡でおこなったように、剥離された剥片の接合関係から剥離の順番をたどっていく方法。三つめは、実物に似た模造品を製作して製作工程を推定する実験的な方法です。

イギリスのB.ブラッドリーさんが、フランス

のメトロ遺跡出土の大型尖頭器の模造品を製作し、その製作工程を2013年に論文で発表していません（Bradley 2013）。メトロ遺跡は、T.オーブリさんらによって1990年代に調査されました。最終報告書がまだ出ていないので詳細は不明ですが、長さが30cmから40cmほどの厚い尖頭器の原形らしい資料がレ・ゼジーの国立先史博物館に展示されています。オーブリさんの論文によれば、この遺跡の尖頭器は在地のフリントの性質に合わせて不均整な剥離工程で製作されたとされています。こういう尖頭器を模倣して、ブラッドリーさんは厚手の横長剥片を素材にして「レプリカ018」という模造品を作ったわけです。その論文では、最初から最終完成品までの表裏4側辺の剥離工程が模式図を使って詳しく紹介されています。

そこでヴォルギユの第2論文で用いた記号列を使い、その工程を私流に翻訳してみたわけです。「レプリカ018」は、剥離面群を単位にして剥離工程を進めています。工程を剥離面群で理解する重要性が、ここでも証明されているわけです。この点はヴォルギユも同じです。しかしここから先が大きく異なります。「レプリカ018」には、ヴォルギユの尖頭器のような記号列の規則性がまったくよみとれない。ほとんど不規則な記号列になります。19回も剥離側辺を移動させながら、4側辺加工がたった2サイクルしか完了していない。なぜこんな違いが生じるのでしょうか。

「レプリカ018」の記号列がヴォルギユの尖頭器のそれと大きく異なる理由の一つは、後者の尖頭器が主に表裏面の中央稜で識別された剥離面群の工程であるのに対し、前者の工程が側縁で区別された剥離面群の工程だという違いにあるでしょう。中央稜で識別された剥離面群は規則的でデジタルな工程として現れ、側縁での剥離面群は不規則なアナログな工程になりやすい。デジタルな工程では、アナログな工程の一部が消え、整理されて規則的な順序になるわけです。

もう一つの例を見ましょう。石川1遺跡の尖頭器製作の剥片接合資料ではどうなるのでしょうか。205番の尖頭器の剥離順を記号列に書き直すと、OBOBOBOOABBとなります。OとBが多用され、先ほどあげたヴォルギユの尖頭器と少し似て

いますが、規則的かといえばそうでもない。石川1遺跡の他の尖頭器も、だいたい同じような傾向を示すようです。これらの剥離工程をどのように評価し、そこにどのような意味を見いだすのか。興味ぶかい石川1遺跡の資料については、さらなる研究が必要です。

#### <製作工程研究方法の統合へ向けて>

ともあれ、ここでは石器の完成品での研究、接合資料による研究、実験的な研究という三つの研究方法を、互いに関連させながら、それらを統合し総合する研究の方法論が必要だということを強調したいわけです。その試みの一つとして、私の方法を紹介しました。

北海道では、先に紹介しましたように白滝遺跡群のような発掘調査を通じて旧石器時代研究が大きく進展しました。石器群と技法の類型分類、石刃技法、黒曜石を中心とした石器石材の研究などがそうですが、他方、研究がまだ十分に深められていない分野もあるようです。最後に述べた尖頭器や、細石核の原形となる両面加工品など、平坦な剥離で表裏両面を薄く加工する資料が膨大にあります。これらの製作工程を復元する研究は、北海道には適した資料がたくさんあるので、これからさらに進むことと思います。そのことを期待して今回の話の締めくくりと致します。

#### 参考文献

- 稲田孝司編 2009 『恩原1遺跡』恩原遺跡発掘調査団
- INADA T., 2014, Restitution et caractéristiques des processus de façonnage des feuilles de laurier solutréennes de Volgu (Saône-et-Loire), *Bulletin de la Société préhistorique française*, Tome111, numéro 3, juillet-septembre 2014, p. 433-452
- INADA T., 2016, Bifacial reduction sequences observed on the Solutrean large 'laurel leaves' from Volgu (Rogny-sur-Arroux, Saône-et-Loire), *Bulletin de la Société préhistorique française*, Tome113, numéro 3, juillet-septembre 2016, p. 475-500
- 乾哲也・小野哲也・奈良智法編 2006 『厚真町

- 上幌内モイ遺跡 (1)』厚真町教育委員会
- 木村英明 1995 「黒曜石・ヒト・技術」『北海道考古学』31, 3-63頁
- 木村英明 2012 『黒曜石原産地遺跡・「白滝コード」を読み解く、幌加沢遺跡遠間地点の発掘調査と研究』六一書房
- 桜井美枝 1992 「細石刃石器群の技術構造」『加藤稔先生還暦記念 東北文化論のための先史学歴史学論集』441-462頁
- 鈴木宏行 2016 「古北海道半島におけるM I S 2・3期の白滝産黒曜石の採取とその変遷」『旧石器研究』23-46頁
- 芹沢長介・須藤隆編 2003 『荒屋遺跡 第2・3次発掘調査報告書』東北大学大学院文学研究科考古学研究室
- 直江康雄 2014 「北海道における旧石器時代から縄文時代草創期に相当する石器群の年代と編年」『旧石器研究』10, 23-39頁
- 直江康雄・鈴木宏行・坂本尚史 2016 「白滝遺跡群の石刃技法」佐藤宏之・山田哲・出穂雅美編『晩氷期の人類社会』六一書房 209-234
- 長沼孝編 1988 『函館市石川1遺跡』北海道埋蔵文化財センター
- 長沼孝・鈴木宏行・直江康雄・越田雅司編 2001 『白滝遺跡群Ⅱ』北海道埋蔵文化財センター
- 三浦正人・菊池慈人・阿部明義・広田良成編 2005 『千歳市オルイカ2遺跡 (2)』北海道埋蔵文化財センター
- BRADLEY B., 2013, Experimental replication : biography of a laurel leaf, in *Société d'Études et de Recherches Archéologiques sur le Paléolithique de la Vallée de la Claise* (dir.) Le Solutréen...40 ans après Smith' 66, actes du colloque de preuilly-sur-Claise, 21 octobre-01 novembre 2007, ARCHA/FERACF, p. 165-174

## (2) 秋季講演会

考古学講座連続講演会・講座連 5

### 『続縄文文化と弥生文化』

講師：設楽 博己 氏

(東京大学大学院人文社会系研究科教授)

#### <続縄文という用語>

続縄文文化という用語は、昭和5年から8年までの間に、山内清男により命名された。当時、本州には弥生文化があることは、わかってきていた。

縄文文化は、1887年(明治10年)、エドワード・モースが大森貝塚を発掘調査した際、縄目のついた土器を発見し、縄文土器を使用する時代・文化ということで、縄文時代・文化という名称がつけられた。

弥生文化は、縄文文化と対比されて設定された名称である。まず、弥生文化について最近の研究成果にもとづいて話したのち、弥生文化および同時代の沖縄県地方の貝塚後期文化との違いを念頭に続縄文文化について述べることにする。

#### <弥生文化>

1884年、現在の東京大学の付近、本郷弥生町にあった向ヶ岡貝塚から、一風変わった土器が出土した。縄文土器と全く違うもので、弥生式土器という名前がつけられた。

当初は石器も多数伴うので、石器時代の範疇に入るものと認識されたが、その後の調査で、弥生土器には、鉄器や青銅器などの金属器が伴うことがわかり、金属器と石器とを利用することで、金石併存の文化であることが明らかになった。金属器が伴うということで、石器時代の縄文時代とは時代が異なることも想定された。

このような状況のなか、山内は、金属器の利用から、弥生文化は農業を行っているのではないかという仮説をもつようになった。縄文文化は、農耕を伴わない、採集狩猟の文化。その後の弥生文化は、農耕文化であることが、昭和の初め頃に確かめられていく。

#### <縄文農耕論>

ところが、縄文時代にも農業があったのではな

いかと考えた人たちがいた。縄文時代に農耕があったという考え方を、縄文農耕論という。その考えは、大きく2つの考え方にわかれ、縄文中期農耕論と縄文後・晩期農耕論の2つである。

長野県から出土する縄文中期の土器をみたことがある方は、非常に装飾が華美で、豪華な土器が出土していると感じたことがあるだろう。

縄目の模様などはあまりなく、豊かな装飾をもつ土器をつくる文化は、おそらく農耕を伴ったのではないのかという仮説で、昭和初期にこの仮説を唱えたのは、大山柏であった。

戦後、昭和20年代からこの論を唱え始めるのは、藤森栄一。彼が住んでいた八ヶ岳山麓で、井戸尻遺跡など多くの有名な遺跡を調査し、研究をすすめる、縄文時代にも農耕があったと考えられた。

もう一つは、縄文時代の終わり頃から農耕が始まっていたという説、後晩期農耕論は、主に西日本を対象に検討された。

弥生文化は、灌漑を伴うかなり高度な水田耕作を行っているので、その前提となる農耕がなければおかしいのではないかと別府大学の賀川光男が主張した。

大山巖元帥の息子であった大山柏。侯爵の身分を生かし、私費で史前学研究所を設立し、研究を進めた。

大山は、打製石斧は斧としての用途ではなく、農耕に使う土掘り具であると考えた。

それに対して、山内は、このような石器が多数出土するのは、堅穴住居をつくるために、土を掘り起こす道具がたくさん必要だったのだと反論した。

藤森栄一が唱えた中期農耕論も、大山が唱えた農耕論をなぞった形のもので、八ヶ岳山麓での農耕の可能性を唱えた。

その根拠は、文化がいわゆる縄文文化っぽくない、石鏃の出土量が少ない、地母神としての土偶をたくさん作成している、というものだった。地母神としての土偶は、女性をかたどって、女性が子どもを産むことと農耕による生産を結びつけている考えである。

この考え方の何が致命的にいけなかったかとい

うと、栽培した穀物、植物などがいっさいみつからなかったことがあげられる。

#### <アワの出土？>

私がまだ学生の頃、長野県の縄文中期の遺跡からアワが見つかったという報告が出され、これこそ、縄文農耕論の証拠とされた。

アワは、数がたくさんになれば、腹持ちもいい。アワを利用したということは、貴重な発見だった。

ところが、その後の研究の結果、出土したのはアワではなく、エゴマであることがわかった。

エゴマの発見も決して小さな発見ではなく、エゴマは日本に自生する作物ではないので、中国、朝鮮半島を経由して、日本に伝播していたことがわかる大切な事柄だったが、縄文農耕論にとっては、やはり主要な作物が見つかることの方が非常に大切だったのである。

縄文農耕論としては、コメが出土するとか、コメをつくっている水田跡や畠跡が見つかることが重要である。

#### <プラント・オパール分析法>

プラント・オパールは植物がもつガラス質の細胞組織である。

植物により形態が異なる。イネのプラント・オパールは、イチョウの葉のような形態をしている。遺跡の土壌からイネのプラント・オパールが検出されると、その場所でイネを栽培していた証拠とされてきた。

#### <コンタミネーション問題>

そこで問題になるのは、コンタミネーション(混入)の問題。プラント・オパールは、顕微鏡で観察が必要なくらいの大きさなので、非常に小さなもの。土壌は、プラント・オパールが通り抜けできないほど、密なものではない場合がある。その場合、上下の地層からの混入は防ぐことができない。

また、プラント・オパールそのもので、年代測定もできないため、検証がしにくいところがある。

また、炭化したコメや雑穀類について、いろい

ろと発見されていたが、青森県風張遺跡からみつかった縄文時代後期の炭化したコメについて、炭素14年代測定法を行ったところ、江戸時代くらいの年代が出た。

炭化植物遺体は、プラント・オパールより大きいので、混入の可能性は少ないと考えられていたが、残念ながら、ミリ単位の資料は、その可能性も否定できないものといえる。

#### <レプリカ法>

そこでもっとも考古学的に信頼できる方法として利用され始めたのが、レプリカ法。現在、一世を風靡しているともいえるこの方法だが、最初に取り組んだのは、先ほど紹介した山内清男。

山内は、大正時代からレプリカ法に取り組んでいた。宮城県柞形冨遺跡で出土した土器の底部にモミ痕が混じっていることに気づいた。粘土で圧痕を写し取り、そこへ石膏を流し込み型取りし、その型をもとに植物学者が同定した。

これが大正の終わり頃の成果で、非常に重要な研究をなされていた。

60年、70年を経過し、この方法が見直され、全国各地でこの方法を利用して研究される方々が出てきている。

現代のレプリカ法では、歯医者さんでも利用されているシリコンにより型をとる。このシリコンを利用したレプリカ法で、近年、縄文時代にダイズが利用されていたという証拠が見つかった。

#### <縄文時代のダイズ発見>

ダイズといっても、現代の私たちが食べている枝豆よりも少し小さなサイズ。縄文中期の中部高地や後期の熊本県地域では、土器の圧痕からダイズがかなり多く確認されている。

ダイズは、野生種のツルマメから栽培化されたもので、縄文時代には野生のツルマメが出土している。もしかすると、ダイズは縄文時代に栽培化されたものかもしれない。

#### <縄文晩期のイネ発見>

イネに関しても、縄文時代晩期の土器からイネ

の圧痕がレプリカ法によりみつまっている。

長野県石行遺跡からみつかった土器だが、地元の土器ではなく、三河地方から持ち込まれたものかもしれない資料である。

以前、岡山県の大学でプラント・オパールを研究されていた方が縄文時代前期のイネのプラント・オパールを発見したという報告があった。

このプラント・オパールを検出したのは、貝塚の層だったが、貝などが厚く堆積した貝塚において、プラント・オパールのような小さな資料は、上位層から下位層に落ち込む可能性がある。プラント・オパール自体で年代測定を行うことができず、検証ができなかった。

そのため、年代を決めることができる土器に残る圧痕を悉皆調査して、事例を増やしていくことにした。

結局のところ、コメも雑穀類も長野県の縄文時代晩期にみつかったコメの圧痕以外、これより古い時期の米や雑穀の圧痕はみつからない。その他の事例からも関東から九州までのエリアでは、弥生時代直前にコメや雑穀が出現したようである。

レプリカ法であれば、一点でもみつければ、その土器の時期にその資料があったということになるので、穀物栽培に関する有力な検出法といえる。

#### <炭素窒素同位体比研究法>

レプリカ法で得られた証拠を検証していく方法として、炭素窒素同位体比からみた研究法がある。

人骨のなかに残る炭素と窒素の割合がどのくらいになっているのかを調べるもの。C3植物とC4植物、海産物、大型の海獣類に分類できる。

北海道の有珠貝塚、北黄金貝塚、高砂貝塚などでは、大型海獣類などを多く摂取しているような分布になる。千葉県貝塚などでは、魚を摂取する分布になるが、北村遺跡では、植物に多く依存する分布を示した。C3はドングリ類、C4は雑穀類を示す。

今のところC4植物を摂取していると考えられる分布傾向を示すデータはない。縄文人は、穀物を摂取していなかったと考えられる。

#### <農耕の伝来>

従って、縄文稲作はあったのかという問いには、あったが縄文晩期の終末期のみである、ということになり、土器に韓半島の影響がみられるのと同様にコメも日本に伝播してくるものと考えられる。

雑穀栽培のあと、稲作栽培が伝来したと進化論的に考えられてきたところがあったが、現在レプリカ法で調査した結果では、韓半島のイネ・アワ・キビが同時に伝播したと考えられる。

そこから縄文文化は狩猟採集が基礎で、縄文時代の農耕は、早期からアサ・エゴマなどの嗜好品がつくっていた。また、クリを管理栽培していたこともわかっている。

縄文時代は、単純な採集狩猟社会ではなく、植物に対しての働きかけも強い社会でもあった。

#### <稲作や雑穀栽培需要が遅れた理由>

では、なぜ稲作や雑穀栽培が行われることに時間がかかったのか。それはおそらく稲作も雑穀栽培も非常に手間暇がかかることに要因がありそうである。

例えば、稲作に取り組めば、一年の大半を稲作に従事しなければいけなくなり、狩猟採集にも専従できなくなる。縄文人はおそらくそのような状況を選ばなかったのではないかと考えられる。

イネ、ムギ、アワ、キビなどの利用については、レプリカ法だけではなく、炭化植物遺体同定によりわかってきていることもあるので、念のため補足しておく。

#### <コメ、雑穀の伝播>

コメは、長江下流域に紀元前5000年ころ栽培されはじめたもの。それから沿岸を北上し、紀元前3000年くらいに山東半島へ到達する。その後、韓半島に伝播するのが紀元前1000年くらいと考えられている。

アワとキビは、中国の東北地方で紀元前8000年くらいに栽培が始まる。韓半島に南下してくるのが、紀元前3000年くらい。韓半島では紀元前3000年くらいには栽培が開始されているが、日本には

なかなか伝播しない。

イネが韓半島に伝播した紀元前1000年くらい。雑穀が伝播してから2000年ほど経過していた。縄文時代の後期になると、韓半島と九州の往来、関連性が強くなる。

にもかかわらず、レプリカ法を行っても、なかなかアワとキビはみつからない。これは、穀物に興味がないと考えるのが自然ではないか。

### <新弥生紀行>

私が国立歴史民俗博物館に勤務していた際に、企画担当をさせていただいた展示『新弥生紀行』。このタイトルは、私たちか、それより上の世代の方には、なつかしい響きなのではないだろうか。NHKの番組に「新日本紀行」という番組があったが、それにあやかり、「新弥生紀行」と名付けた。

この展示には、「北の森から南の海へ」という副題がつけられている。北海道における弥生時代と並行する時期の続縄文文化と沖縄では同じく農耕をおこなわない貝塚後期文化が営まれていた。その二つを比較して、弥生文化との関係を紐解いていこうというものだった。

### <『もう二つの日本文化』>

当時東大教授だった藤本強さんは、『もう二つの日本文化』という本を出版されていた。

日本には北海道の続縄文文化、沖縄の貝塚後期文化、それに挟まれる弥生文化、大和文化がある。大和文化が日本を代表しているようだが、そうではない。それぞれの生態系に適応した社会が築かれていたのだと、藤本さんは記した。

また、稲作、農耕文化を選ばなかった理由を探っていこうと考えられていた。その視点を強調されて書かれた本だった。

私も大変興味を持ち、このようなテーマで展示を開催できないかと、展示のプロジェクト委員会を立ちあげたのが1997年。今年で20年ほど経ったことになる。展示は、1999年に巡回展で行い、北海道開拓記念館も展示会場となった。

### <展示への道のり>

この展示開催まで、どのようにすすめていったのか。当時のスライドが残っていたので、それも加えながらお話ししていく。

考古学という学問は、直接ヒトがわかるものではない。遺構と遺物それぞれ、また、それらを組み合わせることで、人がどのような生活を行っていたのか解決していく学問である。

導入部では、一般の人々にわかりやすいように、地域の風景とその土地に暮らす人の写真を用意した。

### <ジオラマの作成>

続縄文のジオラマは、サケがさかのぼる川、そのほとりでサケをとり、さばき、そして、乾燥させている模様が表されている。

ピアノ線で魚をつったのでは、なにか臨場感にかけるといふことで、樹脂を流し込み、川の流れを表現した後、サケを入れ、その上からさらに川の流れを表した樹脂を流し込むという作戦をとった。上が透明な樹脂なので、川にサケが泳いでいるような表現ができた。樹脂と樹脂の間に面ができてしまうので、業者の方にそのようなことがないように、精緻につくってもらった。

このように、事実、あるいは証明に基づいてジオラマを作成していく。

続縄文文化は、紀元前後くらいを境に大きく2つに分かれている。

前半の続縄文文化は、貝塚をさかんにつくり、合わせて、大きな住居もつくる。住居跡の平面形は、フライパンのような形になっているが、これはおそらく寒さ対策なのだと思う。

現在も北海道や東北の家では、玄関が2重の構造になっているところが多い。当時の手鏡型の入り口を持つものは、おそらく入口の長い部分で現在の二重構造の働きをもたせていたのだろう。

### <生業>

いくつかのテーマにそって展示を構成したので、それに合わせて説明していく。

まず、どのような生業をしていたのか。

ジオラマに表した通り、サケが遡上してくる。築（ヤナ）という魚を捕獲する罟をしかける。岩手県萩内遺跡でみつかった縄文時代の築を参考に作成した。続縄文の後半であれば、札幌市K135遺跡でもみつまっている。袋状にしてある部分に追い込み、ヤスで仕留める漁法。捕獲したものは、皆で調理する。

このシーンを復元していくのにあたり、出土遺物やアメリカのネイティブの暮らしも参考にした。

### <衣服>

衣服は、函館市石倉貝塚で出土した土偶に刻まれて衣服らしい表現を参照した。私が今までにみてきた土偶のうち、写実的な表現をとられているものとしては、一番だと思う。

繊維を編んだ腰当てをしており、上着にはシカの皮を利用したバックストールが表現されたものと考えられ、これらを組み合わせて着用していた様子がみてとれる。また、背中側にはフードを表現したものもみられる。

現在の札幌駅にあたるK135遺跡では、サケの椎骨が並んで出土しており、また、炭化物も多くみつかった。そこからおそらく燻製をつくる作業が行われていたのではないかと推定されている。

一方、南の島の人々の暮らしだが、サンゴ礁帯（リーフ）の上で行われていた。

### <漁労活動>

北の島、南の島で漁労活動の道具がどれくらい違うのか。

北の島の漁労具は、銚。かえしの形状も多様で、豊漁を祈念してか、彫刻も施されている。左右非対称の銚頭は、先端に矢尻をつける燕尾形銚頭という形態のもの。獲物に刺さった後、矢尻が外れ、90度に回転することで、獲物から矢尻が抜けなくなるようになる。縄文時代の後期からこの形態のものが出土し始めるが、サメや大型の海獣類を捕獲するための道具と考えられる。

この形態は、ベーリング海をこえ、アメリカまで伝わっている。アメリカに伝わるのは、1000年

くらい前。道具の素材は、鉄に置き換えられており、おそらく、捕鯨に使われたものと考えられる。

魚形石器は、魚の形をまねた石製の道具で、針のつけ方にはいろいろな説があり、使用法も、引っ張って使う説、吊り下げて使う説などがある。大きさは、30cmほどあり、オヒョウなど大型の魚を捕獲するための疑似餌として使ったと考えられる。

それに対して、沖縄の骨角器だが、シンプルな形の銚や釣り針。貝に穴をあけ、そこに紐を通して、錘につかっただのではないかと考えられるもの。

弥生時代の骨角器は、どのようであったか。

神奈川県池子遺跡から出土した骨角器にも、さきほどの燕尾型の銚頭もみられる。縄文文化の伝統を強く残しているようである。その他にセットで出土しているものは、ヤスや釣り針。

弥生時代になると、灌漑農法を取り入れるので、水路にエリやヤナといった罟を仕掛け、獲物を獲得していたこともわかっている。

### <農耕>

弥生時代の生業で、続縄文文化、貝塚後期文化と大きく違うのは、先ほどからお話ししてきている農業になる。

堅いカシの木製の農具を使用しており、木の伐採や農具の作成に頑丈な材質の石製工具を使っている。

石器だけを比較すると、日本と韓半島で出土しているものが非常によく似ている。

縄文時代には、専門の武器がないが、弥生時代には武器が登場する。

武器も韓半島で出土する青銅器と同じ形態をしており、石器、青銅器の道具セットは、韓半島から日本に伝わったと考えられる。

弥生時代の農耕の風景は、続縄文文化や貝塚後期文化とは大きく違った景観をみせている。

### <住居と墓の違い>

ジオラマで続縄文文化の住居跡を表したが、住居の内部もわかるようにし、住居内にサケを干す棚も表現した。

それに対して、貝塚後期文化の住居は、台風の影響かもしれないが、非常に小さい。小さい要因は、生業形態も反映しているのかもしれない。

縄文文化の漁労活動は、大掛かりな集団編成を必要とする。集団間には、いろいろな取り決めがある。縄文文化、特に前半期は、その特徴が強い。それが住居の大きさに反映している可能性は強い。2世帯、3世帯が同居するようなこともあったのかもしれない。

このジオラマには、人がクマに襲われたところも表現しておいた。

墓は、土坑を掘り、遺体を折りたたんで、屈葬で葬った土坑墓で表した。

縄文文化前半のお墓からは、副葬品がたくさん出土する。それに対して貝塚後期文化は、さほど多くない。弥生文化はさらに異なる。

弥生時代のムラは、溝に囲まれたムラだといえる。弥生集落の特徴は、住居の場所と墓の場所が区別されている。縄文時代であれば、住居群の中央にお墓がつくられることがある。日本人は祖先と一緒に暮らすという風習があるが、弥生時代の風習は、中国から韓半島を経由して入ってくる。韓半島でも墓は住居エリアの外側にある。

中国の新石器文化の中にこのような環濠集落の形態があり、お墓が環濠の外側につくられている。

このような環濠集落の形態が日本に流入しているのは、九州から関東の利根川エリアくらいまで。弥生時代は、さまざまな文化の形態があった時代といえる。

弥生時代のお墓に葬られた方には、矢じりが骨に刺さったままであるとか、頭が切り取られ、首から下しか残らず、甕棺に葬られたものもある。山口県や九州を中心にこのようなお墓も多くみつかっている。

沖縄で私が調査したお墓を紹介する。沖縄や奄美の貝塚後期文化期のお墓で、サンゴで遺体を囲み、石灰岩やビーチロックで蓋をした石棺墓。沖縄県読谷村木綿原遺跡5号石棺では、ヒメシャコガイを頭にのせて葬られていた。鹿児島県大池遺跡B地点第1号人骨は、左手に貝輪をはめていた。

副葬品は、縄文文化のように多く出土しない。

現在でも沖縄では軒先にスイジガイを吊るしておく風習が残っているところがある。弥生文化でもスイジガイが出土することがあるが、おそらく現在の風習と同じ魔よけの意味があったのではないかと考えられる。

貝塚後期文化は呪術によって、靈魂をおさめていたのではないかと考えられる。

縄文文化の葬法については、石狩市の紅葉山遺跡のお墓をみてみよう。

このお墓からは、漆塗りの弓が出土している。頭部付近に各器種の石器が副葬されていた。土器も1個体副葬されていた。このお墓は、副葬品を大量にもったお墓で、旭川市博物館長の瀬川拓郎さんが多副葬墓と定義している。

#### <縄文の意匠>

お墓に関連して、信仰の南北差について、もう少しお話ししていきたい。

北海道の縄文文化には、クマを表した装飾品などが非常に多くなる。

芦別市滝里安井遺跡出土のクマ形石製品や伊達市有珠モシリ遺跡のクマ意匠がついた骨製スプーン。クジラやシカの骨を利用してつくられ、写実的な作り方をしている。

滝里安井遺跡の例は、製品に穴が開いているので、アイヌの人たちと同じく穴に紐を通して、額に装着する、サパウンペと同じ用途であった可能性もある。

縄文文化とアイヌ文化のつながりについては、考古学から解明していくことは非常に難しい。ペンダントか、頭に装着していたのか、孔にみられる紐の擦れ痕のつき方で判明するかもしれない。青森県尾上山遺跡出土のクマ意匠の土製品は、縄文時代後晩期の時期だが、写実的なもの。

#### <イノシシ形土製品>

福島県より南になると、イノシシ形の土製品などがたくさん作られる。それは縄文人にとって、イノシシは最高のごちそうであったことによるのではないかと考えている。

### <クマ意匠土製品>

一方、福島県以北の北海道・東北地方では、クマ意匠の資料が多くみつまっている。アイヌの人たちも、イオマンテの儀礼を行い、信仰の対象にもなっていた動物で、クマを狩猟すること、土製品を用いて狩猟儀礼を行うことにより、豊猟を祈ることもあったと考えられる。

それらを考えると、イノシシにしても、クマにしても立体的につくり、どこが急所で、どのような特性をもっているかを理解していくことは、採集狩猟民として大切な要素だったのではないか。

### <貝塚後期文化の意匠>

それに対して、沖縄の貝塚後期文化は、具体的な動物の意匠製品をつくっていくことは皆無。鹿児島県広田遺跡で出土した貝製品について、蝶を表現しているという研究者もいるが、貝に線刻により模様をつけたもので、おそらく違うだろう。

### <弥生文化の意匠>

縄文時代の造形品として、一番多いものはイノシシを意匠としたものだが、それに対して、弥生文化は、何をモチーフにしていたのか。

まず、ひとつは、鳥があげられる。

奈良県坪井遺跡と清水風遺跡の出土品には、羽をひろげた人物像が線刻されているものがあり、弥生時代の土器には、いくつかこれと同様の事例がみられる。

鳥形木製品も大阪府池上曾根遺跡出土品をはじめとして、いくつかの事例がある。主に西日本で出土しており、水稻耕作と関連する遺物である。これと同じ習俗は、韓国にもみられ、ソッテとチャンスンといわれるもの。これが、日本に伝わったものと考えられる。

### <なぜそのような習俗を受け入れたのか？>

鳥は、農耕をおこなうために必要な動物。また、シカも同じく重要な役割を担っている。

鳥とシカという2つの動物を視点にみると、鳥取県稲吉角田遺跡出土の土器の頸部に、非常に高い建物へ舟でこぎ進んでいく船がある。船員の頭

には、鳥を模した頭飾りをしている表現がある。その先には高床の倉庫が描かれ、その横には銅鐸を吊り下げた樹木が描かれている。

弥生時代は、青銅器文化だが、銅鐸を打ち鳴らすことにより、鳥を招いているのだといわれている。鳥は宙を舞っているのだから、いち早く地上に降りてきてほしいという願いを伝えるものらしい。

それを傍らで見守っているのが、シカ。鳥は、イネの魂をあの世界から現世へ運んでくるものと考えられている。シカのうち、オスのシカは、角が大きく発達し、春に生えて、秋に落ちる。このサイクルは、イネの成長と同じであり、それが信仰の対象となったと考えられている。

鳥の信仰にしても、シカの信仰にしても、農耕に関連するという事は、古代の出雲国風土記や播磨国風土記などにある。

シカの腹を割き、その血に種もみを浸し、播種すると成長するという記載がある。また、餅に矢が当たると、白い鳥に変身し飛び立っていき、その土地には二度とお米がとれることがなかったという話も収録されている。

このようにイネの神様、土地の神様のお話が残された。

鳥取の弥生時代例と古代の文献例との間をつないでいく資料は、まだまだ不足しているが、同じような習俗があったことが想起される。

### <続縄文文化と貝塚後期文化の交易活動>

続縄文文化、貝塚後期文化、弥生文化は、それぞれ交流を持っていた。

続縄文文化の交流の事例として、伊達有珠モシリ遺跡から出土した南海産の貝製品があげられる。

イモガイという沖縄付近で採取される貝を利用した製品が、縄文時代後期ぐらいから、本州を経て、北海道までもたらされていた。

それが顕著にあらわれたのが、伊達市有珠モシリ遺跡の資料。イモガイやゴホウラは沖縄地域から、カタベ貝は山陰地域からもたらされたもの。

南海産貝製品に関連して、近年、青森県田舎館村垂柳遺跡からイモガイ製品を忠実に模倣した石

製品が出土した。北海道大学の高瀬克範さんがそれに気付いたが、貴重な例。

有珠モシリ遺跡に製品が到達する前にも中継地点があって、このようなイモガイ製品を見る機会があった地域で、その形状などの情報を持ち、石製品に反映させたものなのだろう。

### ＜続縄文文化と貝塚後期文化＞

生業を比較してみると、いずれも採集・狩猟生活を送っている。生業の道具は、続縄文が凝った作りをしているのに対して、貝塚後期は簡素な形態になっている。家の作りは、続縄文が大きく、貝塚後期が小さい。お墓は、続縄文が多副葬。貝塚後期は副葬品が希薄。精神文化は、続縄文が具象的、貝塚後期が抽象的。交易活動は、沖縄地域から北部九州を経由して続縄文文化へと伝わっている。両文化とも非農耕であるが、農耕社会との共生がはかられている。

### ＜弥生文化との違い＞

国指定史跡カリンバ遺跡となった恵庭市カリン

バ3遺跡は、縄文時代後期終末の土坑墓300基近くみつかっており、そのうち1割強にベンガラと副葬品が伴っていた。数基の合葬墓には、特に副葬品多い傾向がみられた。

弥生中期には、青銅器の銅剣や銅鏡などが甕棺に副葬されていく。そのあと周溝墓などを経て、前方後円墳が誕生し、古墳時代へと移り変わっていく。

続縄文文化と弥生文化を比較し、まとめてみると、北海道では、縄文後期から多副葬墓がみられ、いわゆる階層化社会があった可能性がある。複数の多副葬墓の出現はおそらく頭が複数の多頭社会の表れだろう。

続縄文文化の多副葬墓は縄文後期の伝統を受け継ぐもので、続縄文文化前半の恵山文化は、採集狩猟民の多頭社会と考えられる。

弥生中期の王墓からは、寡頭社会の存在が見受けられ、周溝墓から前方後円墳につながっていく。古墳時代前史の権力構造の違いといえる。

DISCOVER AND LEARN ARCHAEOLOGY OF HOKKAIDO

# 考古学を知る・学ぶ



【平成28年度北海道立埋蔵文化財センター「連続講演会・講座」】

■「考古学を知る・学ぶ4」10月22日(土) 定員20名  
 体験学習：「縄文人に挑戦」  
 講師：普及活用推進 坂本尚史

■「考古学を知る・学ぶ5」11月26日(土) 定員100名  
 講師：「弥生文化と続縄文文化」  
 講師：東京大学教授 坂家博己

■「考古学を知る・学ぶ6」1月28日(土) 定員100名  
 講師：「弥生・オホーツク・アイヌ文化の考古学」  
 講師：(公財)北海道埋蔵文化財センター理事 越田賢一郎

■「考古学を知る・学ぶ7」3月11日(土) 定員100名  
 講師：「北東アジアの中の北海道」  
 講師：札幌学院大学教授 日戸新

■「考古学を知る・学ぶ1」6月28日(土) 定員100名  
 講師：「遺跡が語る北海道の歴史 - 石狩からペーパークラフトまで」  
 講師：(公財)北海道埋蔵文化財センター常務理事 長沼孝

■「考古学を知る・学ぶ2」7月25日(土) 定員100名  
 講師：「日本の石器文化の中の北海道」  
 講師：岡山大学名誉教授 越田孝博

■「考古学を知る・学ぶ3」9月24日(土) 定員100名  
 講師：「縄文文化研究の現状と北海道」  
 講師：北海道大学教授 小杉雄

北海道立埋蔵文化財センター 施設管理課 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター  
 090-0862 恵庭市南町555-1  
 駐車場は32台(土曜日は9台)です。  
 TEL 011-386-3231 FAX 011-386-3238  
 E-mail: info@bombur.or.jp URL: http://www.bombur.or.jp  
 本館に隣接する「土器・縄文時代展示館」は、埋蔵文化財センターの展示施設です。入館料は無料です。11月～1月、  
 施設休館日 北海道埋蔵文化財センター展示館休館日(土曜) 011-321-4111(代)

---

## 北海道立埋蔵文化財センター年報18

平成28（2016）年度

---

平成29年4月30日発行

編集：公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

発行：北海道立埋蔵文化財センター

〒069-0832 北海道江別市西野幌685-1

Tel：(011)386-3231 Fax：(011)386-3238

E-mail：mail@domaibun.or.jp

URL <http://www.domaibun.or.jp/>

印刷：社会福祉法人 北海道リハビリ

〒061-1195 北広島市西の里507番地1

Tel：(011)375-2116(代) Fax：(011)375-2115

---